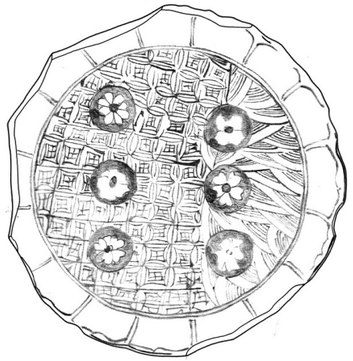
金沢市文化財紀要 291

石川県 金沢市

片町二丁目遺跡（5番地点）



平成26年 3月
（2014年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

金沢市文化財紀要二九一
片町二丁目遺跡（5番地点）
2014 金沢市

石川県 金沢市

片町二丁目遺跡（５番地点）

平成26年 3月

（2014年）

金　　沢　　市

（金沢市埋蔵文化財センター）

目　　次

第１章　金沢城下町の概要 …… 1
第２章　調査に至る経緯・位置と環境 …… 6
第３章　調査の概要 …… 7
第４章　総括 …… 48
写真図版
報告書抄録

凡　　例

遺物について

1．遺物図の縮尺は、次のとおりである。図版にはスケールを付し、表題末にも示している。

　　１／３　陶磁器、土器、木製品、石製品、金属製品、銭貨

　　１／４　瓦、煉瓦

遺物観察表について

1．「番号」欄には、図版ごとに振り直した番号をつけている。

2．「器種」欄には、磁器・陶器・土器などの材質も併記している。

3．「法量」は、a・b・c・dの４欄に分けて記入した。計測部位は凡例図のとおりである。口径は最大径、底径は接地部径である。計測値のうち( )数字について、陶磁器では復元数値に不安の残るもの、その他の遺物では現存長を示すのに用いた。

4．「遺存」欄には、径を復元する際に利用した部位と遺存度を記した。

5．「産地」欄には、器形や胎土等をもとに庄田が推定した産地を記してある。

6．「実測番号」欄は、実測者の通し番号で、遺物・実測図に付している番号と一致する。

7．「備考」欄の高台内圏線Ａは高台付け根、同Ｂは高台内中央付近に圏線が描かれるものを指す。

例　　言

1．本書は、石川県金沢市片町二丁目172番、173番、175番、176番地内に所在する片町二丁目遺跡（5番地点）の発掘調査報告書である。

2．片町二丁目遺跡（5番地点）では、金沢市都市政策局歴史建造物整備課による「まちなか学生交流拠点整備事業」に伴い、平成23年度に金沢市が発掘調査を実施した。

3．発掘調査の期間と場所、面積は次のとおりである。

　平成23年6月6日～8月31日（調査面積657㎡）

4．発掘調査は、金沢市埋蔵文化財調査委員会（委員長 橋本澄夫氏、谷内尾晋司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、庄田知充（文化財保護課主任主事）が担当した。

5．本書の編集・執筆は、庄田知充と新出敬子（文化財保護課主査）が担当した。本文の執筆を庄田が担当し、遺物図版の割付・観察表の作成を新出敬子が担当した。写真撮影及び全体図編集は景山和也（文化財保護課主査）が担当した。

6．本書に収録した遺物は、全て金沢市教育委員会が一括保管している。

7．本発掘調査及び本書の作成にあたり、下記の機関・個人からご教示、ご協力を賜った。記して感謝の意を申し上げる（50音順・敬称略）。

　佐野律子（旧土地所有者）、石川県立図書館、金沢市立玉川図書館近世史料館、
　公立大学法人金沢美術工芸大学

8．屋内整理および製図は、次の方々に協力していただいた（50音順、敬称略）。

　井川明子、蟹ヤエ子、車谷律子、境田早苗、関屋裕美、谷森真利、寺西悦子、土橋裕美、供田奈津子、
　畑尾ゆか、法桑加代、門谷藤代、米田夕美子

9．本書の遺構図の指示は以下の通りである。

(1)遺構図の方位は全て座標北である。座標は世界測地系に基づく国土座標第Ⅶ系（測地成果2000）に準拠し、真北からは1分、磁北からは7度21分東偏する。

(2)各図の縮尺については原則としてスケールを付し、表題末にも示している。

(3)遺構図の水平基準は海抜高で、単位はメートル（m）で記した。

(4)遺構名は、SE：井戸、SK：土坑、SD：溝、SP：小穴・柱穴、SA：石列・石積、SB：建物
　SX：その他の遺構などの略号を用いた。

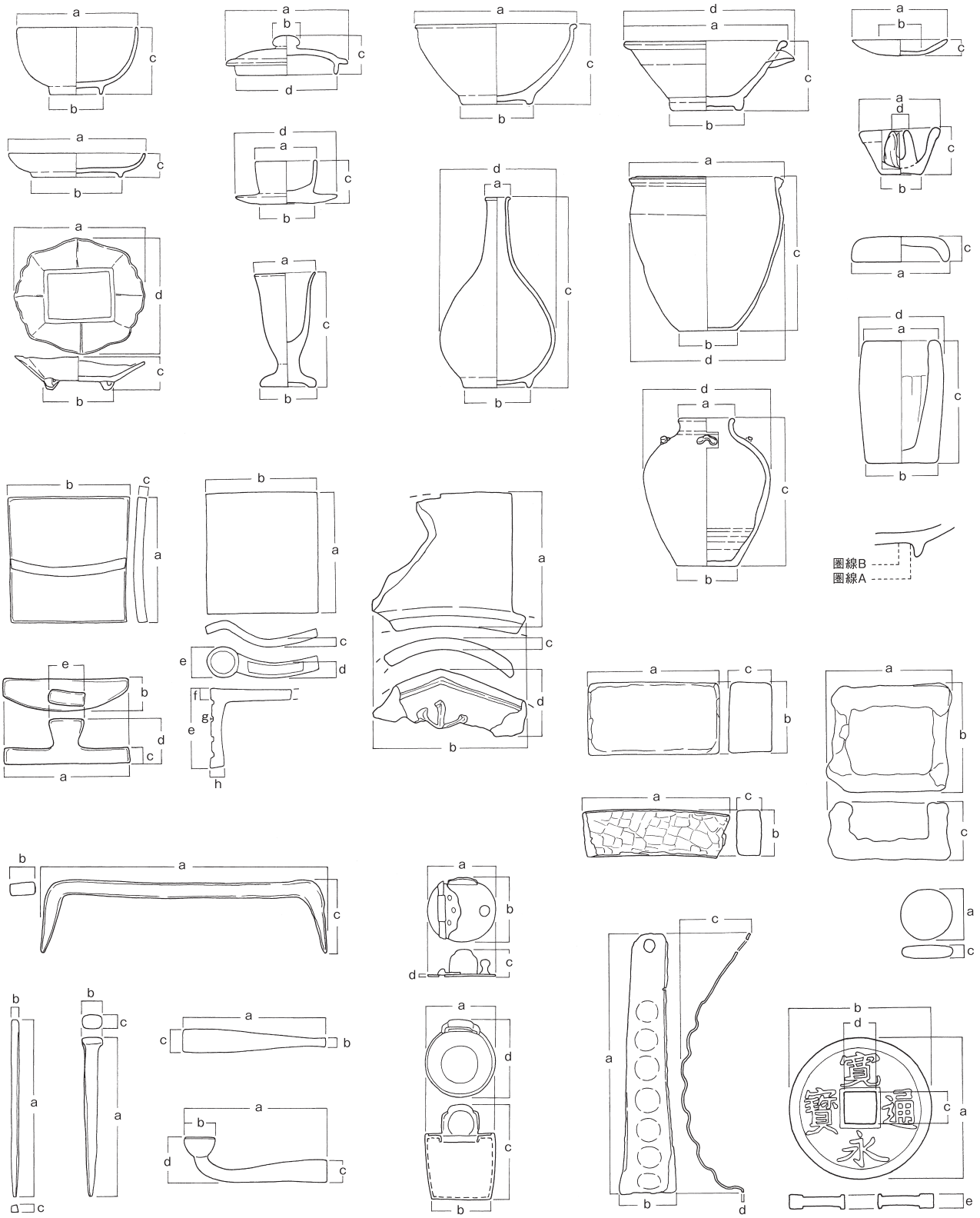
10．本書の遺物の記述には、下記の分類編年案による時期設定や分類を引用した。

　土師器皿の記述には滝川重徳氏による分類(滝川2002)を利用した。陶磁器の年代観のうち、堀内秀樹氏等による陶磁器編年案（堀内・成瀬2001）を引用した箇所については東大編年と略称した。瀬戸陶磁器については藤澤良祐氏による案（藤澤 1998）を引用した。越前陶器については木村孝一郎氏による案（木村 2004）を引用した。

凡　例　図

青磁釉　　釉薬　　灯芯油痕

漆継ぎ　　胎土目・砂目痕



第１章　金沢城下町の概要

金沢城下町の前史として、近年、発掘調査により城周辺で奈良時代の古代寺院跡が発見されなど、市街地中心部に古代以来の中核的施設や集落が展開していたことが判明してきている。一般的には文献史料に基づく中世以降の発展過程が知られている。すなわち、中世北加賀の流通拠点だった山崎窪市として端を発する現市街地中心部は、天文15年(1546)、浄土真宗本願寺金沢支坊としての金沢御堂がのちに金沢城が占地する小立野台地の突端部に築かれたことで、一向宗の拠り所となる寺内町として発達した。天正８年(1580)の佐久間盛政による御堂攻略後は、御堂跡地を城とし、織豊政権による近世城下町の形成が始まった。天正11年、佐久間に替わり前田利家が入府したが、このとき従った家臣団や商職人は城内に士庶雑居したとみられ、城内新丸調査区では天正期以前に遡る町屋遺構が確認されている。文禄元年（1592）以降、商職人は城外に移転し、近年の研究（木越2006）によると、慶長２年（1597）にはおよそ30町が成立していた。慶長４年(1599)には内惣構、慶長16年には外惣構を造成し城の守りを固めた結果、城を中心として小立野台地両裾部を起点に河岸段丘崖の高低差を利用した東・西の惣構が内・外二重に城下中心部を囲うこととなった。また、元和年間(1615 ～ 1624)には犀川の流れを整理して河原を埋め立て、城下町域を拡大した。また、寺院を北国街道犀川口の寺町と浅野川口の卯辰山山麓へと集め、すでに慶長年間に城の後背地にあたる小立野台に集められていた寺院群と併せて三大寺院群が形成された。寺院をして外部からの攻撃に対する防衛線とし、一向宗寺院を統制監視する役割をもねらったものとされる。寛永８年（1631）と12年の２度の大火により城と城下は大半が焼失し、街区改正の契機となった。上級武士を城近辺と城下の要所、町人を街道沿いに移動した。こうして17世紀中頃までには、金沢城下町の近世都市としての基本的な枠組みが完成した。宝暦９年（1759）と元禄３年（1690）に大火に見舞われたものの街区の大規模な変更はなく、城下町は周縁部を取り込みながら拡大を続け幕末を迎える。

第１図　遺跡の位置

第１図は、２万５千分の１地形図（金沢　国土地理院発行）上に、延宝期金沢城下図(1674年頃・石川県立図書館蔵)の武家地と町人地、寺社地の範囲を示したものである。寛永大火後40年経過し、再建された城下町の様相を示す。北国街道をはじめ宮腰往還、二俣越など主要道路沿いに町屋が並び、寺社の周囲には門前町が広がる。武家地は街区部分の大部分、城下全体の約７割を占める（田中1976）。一定の禄高（概ね千石）以上の武家にはその家臣居住地として下屋敷地が与えられた。

参考文献

田中喜男「城下町の成立･変容」『伝統都市の空間論･金沢』公詢社 1976

木越隆三「金沢城下内惣構の築造時期について」『陶磁器の社会史 吉岡康暢先生古希記念論集』桂書房 2006

金沢城研究調査室編『よみがえる金沢城１』石川県教育委員会 2006

第2図　城下町復元図と調査された遺跡

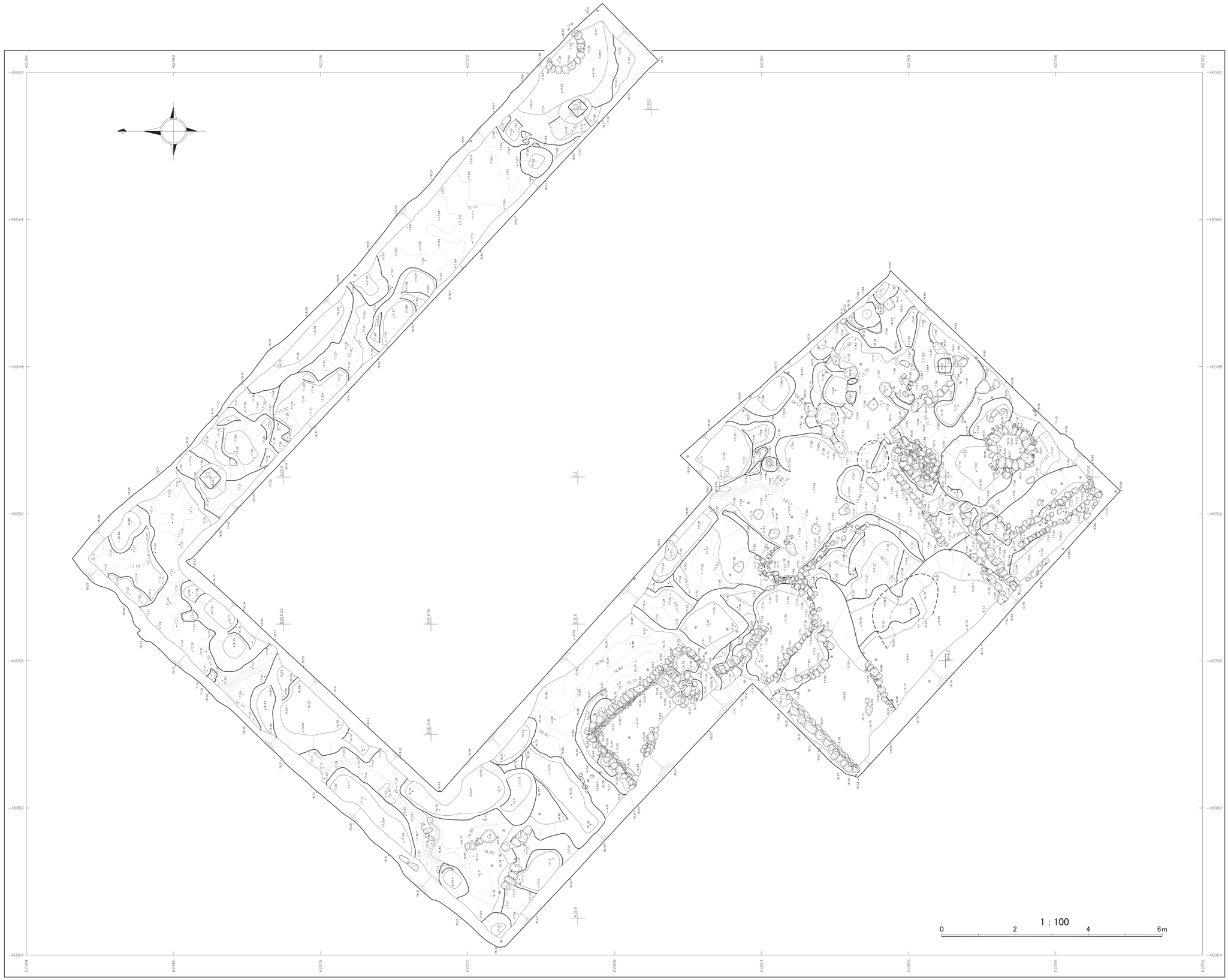
1.前田氏（長種系）屋敷跡地点 2.兼六園地点 3,4.本多氏屋敷跡地点 5,6.広坂地点　7.下本多町地点 8.兼六元町地点 9.丸ノ内七番地点 10～13.高岡町地点 14.彦三町一丁目地点 15.彦三町地点 16.青草町地点 17.下堤町地点 18.安江町遺跡 19.瓢箪町遺跡 20.片町二丁目遺跡 21.片町二丁目遺跡（５番地点） 22.長町遺跡 23.穴水町遺跡 24～27.本町一丁目遺跡 28.木ノ新保遺跡（七番丁地点） 29.木ノ新保遺跡（北安江地点） 30.久昌寺遺跡 31,32.宝町遺跡 33.経王寺遺跡 34.三社町遺跡 35.元菊町遺跡 36.昭和町遺跡 37.長田町遺跡 38.醒ヶ井遺跡 39.東兼六町五番地点 40.玉川町遺跡 41.東山一丁目遺跡 42.東山南水溜跡 43.東兼六地点 44.本多町三丁目地点 45.小立野四丁目遺跡 46.小立野ユミノマチ遺跡 47.兼六元町7番地点 48.長氏屋敷跡 49.飛梅町3番地点

A,B.西外惣構跡武蔵町地点 C.東内惣構跡枯木橋北地点 D.西内惣構跡主計町地点 E.西外惣構跡升形地点

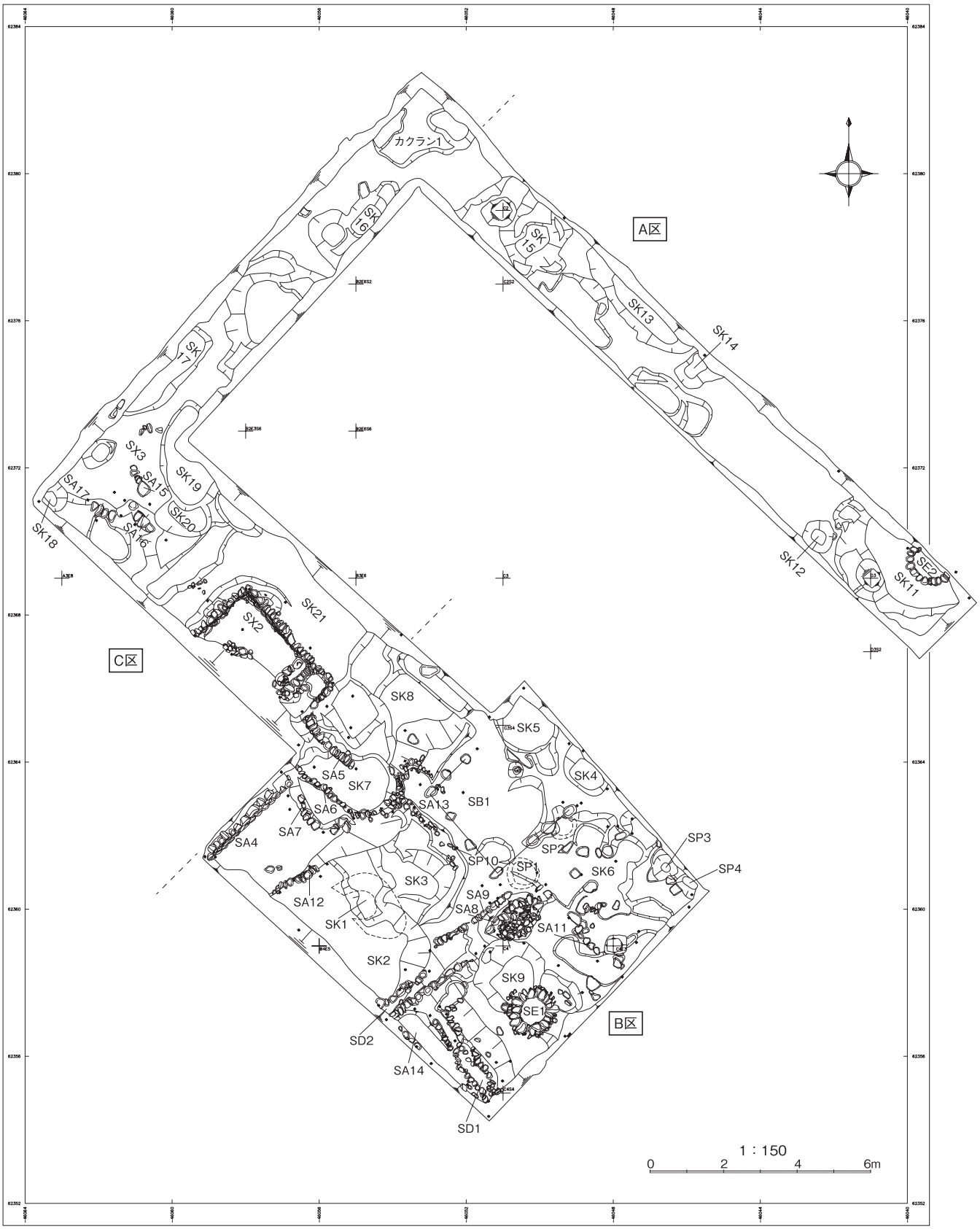
F.西外惣構跡本多町三丁目地点　G.東内惣構跡枯木橋南地点　　…以上、地点呼称分は、金沢城下町遺跡

a.金沢城跡（石川門前土橋地点） b.金沢城跡（新丸第２次調査）

あ.犀川大橋　い.香林坊橋　う.袋町橋　え.枯木橋　お.浅野川大橋



第３図　片町二丁目（５番地点）遺構全体図（S＝1/100）



第４図　遺構配置図（Ｓ＝1/150）

第２章　調査に至る経緯・位置と環境

（１）調査に至る経緯

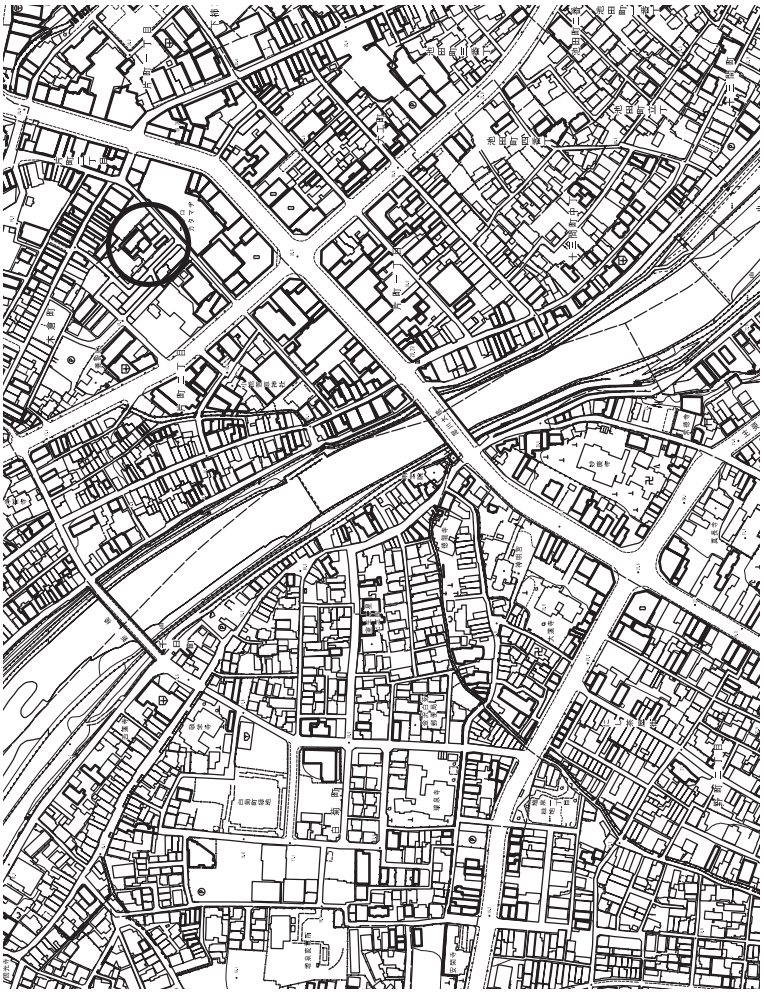
平成 22 年（2010）、金沢市歴史建造物整備課から、片町 2 丁目 169 番 2、170 番、172 番、173 番、175 番、176 番 657 ㎡について、まちなか学生交流拠点整備事業予定地として遺跡の調査依頼が提出された。文化財保護課は、これを受けて同年 9 月 8 日に試掘調査したところ、近世期の整地層が確認された。本調査地は、平成 23 年 4 月 1 日から周知の埋蔵文化財包蔵地として周知化された金沢城下町遺跡の範囲外ではあるが、文化財保護課としてはその関連遺跡として記録保存による遺跡の保護を図ることが必要であると判断し、この結果をもとに両課で協議し、地下遺構に影響を及ぼす新設の建築物が計画されている 200 ㎡を調査区として平成 23 年度に発掘調査を行うことで合意した。

発掘調査は平成 23 年 6 月 6 日～同年 8 月 31 日にかけて実施し、屋内整理および発掘調査報告書作成は、平成 24 ～ 25 年度に実施した。現地における遺構の測量については、土層断面・エレベーションを手実測、平面・石積み遺構の立面をデジタルカメラ（手持ち・ポール撮影）を利用したオルソ写真（レンズ補正写真）図化により行った。

（２）位置と環境

金沢市は、日本海に向かって突き出す能登半島の付け根付近に位置する。市の南東部には奈良岳・奥三方山・大門山など海抜 1,500m を越える山地を抱え、この山を水源とする犀川および浅野川の二大水系が市域を三分している。市街地の中央に位置する金沢城は、犀川・浅野川中流域に挟まれた小立野台地先端にあり、城下町は台地上および両河岸段丘上から扇状地にかけて展開する。

片町二丁目遺跡（５番地点）は、金沢城からみて南西方向にあり、現在の街区表示では片町二丁目５番地内に立地する。調査地の南東方向には、市道および街区を挟んで国道 359 号線（旧北国街道）があり、調査地は、西の福井方向からきた旧北国街道が犀川大橋を渡った川南町から片町にかけての町屋が建ち並ぶ繁華街の裏露地に面した武家屋敷街だった。



第５図　調査地位置図

第３章　調査の概要

（１）調査区の概要

調査地は、調査直前まで駐車場として利用されていた。旧地権者によると、駐車場の前は北西に隣接する旧地権者所有の民家の庭園だったということである。

調査区は、まちなか学生交流拠点整備事業における交流ホール建設予定地のうち、建物外周をめぐる廊下・裏舞台・収納スペース・前室・副玄関・縁・土縁および付属するスタッフルーム・便所・風防室部分に設定した。交流ホール中心部については、移築建物で地中梁以外の基礎が地下の遺構面に影響を及ぼさないことから、発掘調査対象外とした。交流ホール中心部の地中梁および、駐輪場の基礎部分については、掘削規模が狭小であったため、工事時に立会調査を実施した。

調査区は、南東辺が開口するコの字形を呈し、北東辺をＡ区、南東部の矩形部分をＢ区、南西角のＬ字形部分をＣ区とした。

（２）遺構

建物（ＳＢ）

SB1(第６図)Ｂ区北東部から南東部にかけて礎石と考えられる14個の偏平な石材を検出した。そのうち、①～⑦については、北西 - 南東約2.7m、北東 - 南西約2.7m以上の推定矩形の礎石建物で、方位軸は座標北から約40度西偏する。

SB2(第６図)Ｂ区南東辺付近で検出したSA1～３で構成される１段積みの石列を基壇とする建物（約4.6m×3.2m以上）である。南東側は調査区に続くため、全体の形状は不明である。枕状（幅約25～43cm、厚さ約16～26cm）の安山岩質川原石の小面の一面を大きく割って奥行き約20～49cmの石材とし、割面を矩形の建物外側に向けて一列に並べている。隅角部分には直方体（幅約30cm、厚さ約25cm、長さ約40cm）の凝灰岩質切石を他の石材よりも約10cm高く据えており、北隅角部分では両隣の川原石も同様の高さとしている。主柱の載る四隅の石材を礎石として壁材の載る石材よりも高くしているものと考えられる。礎石部分では、約15～30cm整地層を掘り、拳大の礫を根石として詰め込んでいる。石列直下から明治期のものと推定される九谷焼の色見磁器片が出土しており、近代以降の建物の基壇と考えられる。

石積み・石列・列状集石（ＳＡ）

SA1(第６図)Ｂ区南東辺付近でSB2の北東辺を構成する石列として検出した。長さ3.0m以上、高さ約0.35mで南東端部は調査区外へ延びていく。

SA2(第６図)Ｂ区南東辺付近でSB2の南西辺を構成する石列として検出した。長さ3.2m以上、高さ約0.35mで南東端部は調査区外へ延びていく。

SA3(第６図)Ｂ区南東辺付近でSB2の北西辺を構成する石列として検出した。長さ約4.6m、高さ約0.35mを測る。

SA4(第７図)Ｂ区北西角付近の調査区壁面近くで検出した長さ約3.1m、高さ約0.55mを測る北東－南西方向４段積みの石積みである。小面の幅約12～20cm・厚さ約12～20cm、奥行20～30cmの安山岩質川原石を使用し、小面を大きく割り揃えている。本調査区内で最も天場レベルの高い遺構である。

SA5(第７図)Ｂ区北西部で検出した長さ約1.9m、高さ約0.5mを測る北西－南東５段積みの石積みである。小面の幅約12～30cm・厚さ９～20cm、奥行き22～27cmの安山岩質川原石を使用し、南西を向いた小

面には自然面を残す。

SA6(第７図) B 区北西部で検出した SK7 を縁取る北西－南東方向１～ ２段積みの石列（石積み）で長さ約 1.75m、高さ約 0.15m を測る。小面の幅約 8 ～ 18cm・厚さ 7 ～ 12cm、奥行き 15 ～ 23cm の安山岩質川原石を使用し、南西を向いた小面には自然面を残す。

SA7(第７図) B 区北西部で検出した SK7 を縁取る北西－南東方向１段積みの石列で長さ約 1.05m、高さ約 0.17m を測る。小面の幅約 10 ～ 20cm・厚さ 10 ～ 18cm、奥行き 22 ～ 28cm の安山岩質川原石を使用し、北東を向いた小面には自然面を残す。

SA8(第７図) B 区中央付近で検出した長さ約 1.4m、高さ約 0.5m を測る北東－南西方向４段積みの石積みである。小面の幅約 10 ～ 35cm・厚さ約 10 ～ 15cm、奥行 17 ～ 32cm の安山岩質川原石を使用し、北西を向いた小面には自然面を残す。それぞれの年代は不明だが、SD2、SA9、SA14 とともに何らかの境界を示す施設と考えられる。SA9 後方に位置し SA9 上場よりも高い位置にあるが、同時性があるのかどうかは明らかに出来なかった。

SA9(第７図) B 区中央付近で検出した長さ約 2.5m、高さ約 0.2m を測る北東－南西方向２段積みの石積みである。小面の幅約 10 ～ 25cm・厚さ約 10 ～ 13cm、奥行 13 ～ 22cm の安山岩質川原石を使用し、北西を向いた小面には自然面を残す。それぞれの年代は不明だが、SD2、SA8、SA14 とともに何らかの境界を示す施設と考えられる。SA8 前方に位置し SA8 下場よりも低い位置にあるが、同時性があるのかどうかは明らかに出来なかった。

SA10(第４図) B 区中央付近で SK3 を縁取るように検出した北西－南東方向の列状集石で長さ約 2.4m を測る。幅約 10 ～ 25cm、長さ 10 ～ 15cm の自然面を残した安山岩質川原石を使用する。

SA11(第７図) B 区南東部で検出した長さ約 2.0m、高さ約 0.1m を測る北西－南東方向１段積みの石列である。小面の幅約 20cm・厚さ約 6 ～ 10cm、奥行 14 ～ 24cm の安山岩質川原石を使用し、南西を向いた小面には自然面を残す。

SA12(第７図) B 区北西部の SK2 底面付近で検出した長さ約 1.45m、高さ約 0.35m を測る北東－南西方向４段積みの石積みである。小面の幅約 10 ～ 22cm・厚さ約 7 ～ 18cm、奥行 20 ～ 23cm の安山岩質川原石を使用し、北西を向いた小面には自然面を残す。

SA13(第７図) B 区中央北寄りで検出した列状集石で、SK7・SK8 を縁取るように円弧を描き、長さ約 2.6m、高さ約 0.15m を測る。幅約 5 ～ 15cm、長さ 10 ～ 18cm、厚さ 5 ～ 15cm の自然面を残した安山岩質川原石を使用している。

SA14(第７図) B 区南西部の上層で検出した長さ約 0.85m、高さ約 0.2m を測る北東－南西方向２段積みの石積みで、高低差約 0.2m の斜面に沿って積まれている。小面の幅約 10 ～ 17cm・厚さ約 7 ～ 11cm、奥行 10 ～ 17cm の安山岩質川原石を使用し、北西を向いた小面には自然面を残す。それぞれの年代は不明だが、SD2、SA8、SA9 とともに何らかの境界を示す施設と考えられる。

SA15(第７図) C 区北西部の最下層で検出した長さ約 0.9m を測る北西－南東方向の列状集石である。幅約 10 ～ 40cm、長さ 15 ～ 35cm の安山岩質川原石を使用している。

SA16(第７図) C 区北西部の最下層で検出した長さ約 0.74m、高さ約 0.3m を測る北西－南東方向２段積みの石積みである。小面の幅約 20 ～ 35cm・厚さ約 10 ～ 20cm、奥行 10 ～ 33cm の安山岩質川原石を使用し、北東を向いた小面には自然面を残す。

SA17(第７図) C 区北西部の最下層で検出した長さ約 0.71m、高さ約 0.2m を測る北西－南東方向１段積みの石列である。小面の幅約 15 ～ 20cm・厚さ約 12 ～ 20cm、奥行 30 ～ 35cm の安山岩質川原石を使用し、北東を向いた小面には自然面を残す。

地下室・大形の土坑または落ち込み（ＳＸ）

SX1(第４・９図) Ｂ区南西角で検出した。調査区内では長さ約 4m 以上、幅約 2m 以上、深さ約 0.4m の、北東面が直線的な土坑として検出しているが、北西部は SK2 と重複し、南側は調査区外に遺構が続くため全体の平面形は不明である。SD1 は SX1 覆土の下の層で検出され、SD2 の覆土は SX1 を覆っている。

SX2(第８図) Ｃ区南東端で検出した長さ約 3.7m、幅約 2.2m 以上の矩形と推定される石積みの地下室で、南西部は調査区外に遺構が続いている。北西面に約 86cm、北東面に約 90cm の高さで石積み、南東面に１段約 14 ～ 26cm の石段が４段、総高約 1.0m が残る。土層断面からは室の深さがもともと約 1.35m 以上あったと考えられる。石積みは石面に自然面を残した川原石で、最下段に幅 20 ～ 35cm、厚さ約 10 ～ 15cm とやや大形の石を並べ、その上に大小粒が不揃いな石を乱積み気味に積み上げている。

SX3(第４図) Ｃ区北西部で検出した。推定直径約 4m の範囲で底面が平坦な浅い落ち込みとなっている。

溝（ＳＤ）

SD1(第９図) Ｂ区南西部の SX1 よりも下層で検出した。南東ー北西方向最大５段積みの石組み溝で、長さ約 2.7m 以上、幅約 0.58m、深さ約 28cm を測る。

SD2(第９図) Ｂ区南端で検出した北東 - 南西方向最大３段積みの石組みの溝で、長さ 2.7m 以上、幅 0.6m、深さ約 33 ㎝を測る。本遺構の覆土は SX1 上に堆積する。

井戸（ＳＥ）

SE1(第９図）Ｂ区南東部で検出した。検出部の内径約 0.6 ～ 0.7m の円形石組井戸で、内部は断ち割り時に深さ約 2.2m までを確認したが未完掘である。掘削最下部では内径 0.95m と、上部が内傾気味に狭まっている。石積みは石面に自然面を残した川原石で、幅 10 ～ 30cm、厚さ約 10 ～ 20cm、長さ約 20 ～ 30cm の大小粒が不揃いな石を乱積み気味に積み上げている。SE2 と比較すると石材の粒が大きめで、小面の長軸を垂直方向に向けて積み、石積み断面も蛇行するなどやや稚拙さが感じられる。SK9 を切って構築されている。

SE2(第９図）Ａ区東端で検出した。検出部の内径約 0.9m の円形石組井戸で、北東部は調査区外となっている。内部は断ち割り時に深さ約 1.35m までを確認したが未完掘である。石積みはほぼ垂直に積み上げられており、石面に自然面を残した川原石で、幅 10 ～ 20cm、厚さ約５～ 15cm の大小粒が不揃いな石を乱積み気味に積み上げている。SK11 は SE2 の掘り方と考えられ、掘り方内には焼土が多く含まれる。

土坑（ＳＫ）

SK1(第 10 図）Ｂ区南西側の上層遺構として検出した。長径約 2m、短径約 1.3m の楕円形土坑で、深さ約 0.6m を測る。SK2 と SK3 を切って掘削されている。

SK2・SK3(第 10 図）Ｂ区南西壁付近で検出した。SK2 は長さ約 4.5m 以上、短さ約 2.5m 以上の推定隅丸長方形の土坑で、深さ約 0.8m。南西部は調査区外にかかり、北西部は SK7 により切られる。SK3 は長さ約 3m 以上、幅約 2.4m 以上、深さ約 0.8m の不整形な土坑で北西斜面が SK2 の方向に下る断面階段状の形状となっているため、SK3 を階段部とする素掘りの地下室とも捉えられるが、SK7・SK8・SX1 と廃絶年代が近く、連続する区画溝のような遺構の可能性もある。上層に SK1 が掘削される。

SK4(第 10 図）Ｂ区北東部で検出した。長径約 1.4m、短径 0.8m 以上の推定楕円形土坑で、北東側は調査区外にかかる。深さ約 1.8m を測る。

SK5(第 10 図）Ｂ区北東部で検出した。推定直径約 1.7m の推定円形土坑。土坑の北側は調査区外にかかる。

深さ約 1m を測る。

SK6(第 10 図) B 区南東部で検出した。長さ約 3m 以上、幅約 2.7m、深さ 37cm を測る不整形な土坑。覆土中に炭化物を多く含む。

SK7(第 4 図) B 区北西隅で検出した。調査区外に土坑がかかり、長さ約 3m 以上、幅約 1.4m、深さ約 0.3m を測る。SK8・SK2・SX1 と廃絶年代が近く、連続する区画溝のような遺構の可能性がある。

SK8(第 11 図) B 区北東部で検出した。調査区外に土坑がかかり、長径約 3.2m、幅約 2.7m 以上、深さ約 0.6m を測る。SK7・SK2・SX1 と廃絶年代が近く、連続する区画溝のような遺構の可能性がある。

SK9(第 9 図) B 区南西部で検出した。直径約 2m の円形土坑で、深さ約 0.8m を測る。南西部を切って SE1 が構築されており、SE1 構築以前に埋められたと考えられる。

SK11(第 9 図) A 区南東部で検出した。直径約 4m 以上の円形と推定される土坑で、深さ約 1.3m まで掘削したが、さらに深くまで続く。SE2 の掘り方と考えられ、覆土中に橙色の焼土を多く含む。

SK12(第 4 図) A 区南東部で検出した。直径約 0.85m の円形土坑で深さは約 0.3m を測る。

SK13(第 11 図) A 区中央北東壁付近で検出した。北東部は調査区外に土坑がかかるため平面形は不明。長径 0.4m 以上、短径 0.1m 以上、深さ約 0.8m を測る。

SK14(第 4 図) A 区中央北東壁付近端で検出した。土坑の北東側が調査区外にかかるため全体の平面形は不明で、北西側は SK13 により切られている。長径 1m 以上、短径 0.8m 以上、深さ約 0.35m を測る。

SK15(第 11 図) A 区北西部で検出した。土坑の北西側が調査区外にかかるが、概ね長径約 1.85m、短径約 1.2m の楕円形と推定される。深さは 0.45m を測る。

SK16(第 4 図) C 区北東部の南東壁付近で検出した。土坑の南東側が調査区外にかかるため平面形は不明。長径 2.8m 以上、短径 1.2m 以上、深さ約 0.5m を測る。

SK17(第 4 図) C 区北西壁付近で検出した。土坑の北西側が調査区外にかかるため平面形は不明。長径 3.1m 以上、短径 0.7m 以上、深さ約 0.4m を測る。

SK18(第 4 図) C 区北西角の壁付近で検出した。土坑の北西部が調査区外にかかるため平面形は不明。長径 0.7m 以上、短径 0.6m 以上、深さ約 0.25m を測る。

SK19(第 4 図) C 区北西部の東壁付近で検出した。土坑の東側が調査区外にかかるが、概ね長径約 3m、短径約 1.5m 以上の楕円形土坑と推定される。測量時までに周囲を掘り下げてしまったため、残存していた深さは約 4 ㎝である。

SK20(第 4 図) C 区北西部で検出した。SK19 と重複する長径約 1.5m、短径 0.9m 以上の楕円形土坑と推定される。深さ約 0.3m を測る。

SK21(第 4 図) C 区南東壁付近の上層で検出した近代以降の土坑。形状の記録無く不明。

ピット（ＳＰ）

SP1(第 11 図) B 区中央付近で検出した。平面形は直径約 0.9m のほぼ正円で、深さ約 0.9m を測る。

SP2(第 11 図) B 区中央東寄りで検出した。平面形は長径約 0.8m、短径約 0.6m の楕円で、深さ約 0.5m を測る。

SP3(第 4 図) B 区南東角付近で検出した。平面形は直径約約 0.6m のほぼ正円で、深さ約 0.35m を測る。

SP4(第 4 図) B 区南東角付近で検出した。平面形は長径約 0.7m 以上、短径約 0.45m 以上の推定楕円で東側は遺構が調査区外へと続く。深さ約 0.3m を測る。

（3）遺物

（第 12 図）

SA4 構築面下の整地層から肥前陶器の藁灰釉を施した三足付の向付 (1)、肥前陶器灰釉砂目皿 (2)、Ⅰ1 類の在地系手捏ね土師器皿 (3) が出土した。SA5 前面の覆土からはⅠ1 類の在地系手捏ね土師器皿 (4) が出土した。これらは 17 世紀前半代の遺物群であるが、SA4 の構築年代を直接示すものではなく、その下層の SK7 の廃絶年代の下限を示すものと考えられる。SA4 の構築年代は横目地を揃え石面加工が顕著な石積みの特徴から、19 世紀前半以降であると考えられる。

SA9 前面の覆土からは肥前陶器灰釉砂目皿 (5) とⅠ1 類の在地系手捏ね土師器皿 (6) が出土した。17 世紀前半代に位置づけられ、SA9 の廃絶年代の下限を示す。

SX1 内覆土の最下層からは中国磁器の呉須赤絵瓶 (7)、越中瀬戸陶器天目形碗 (8)、外底部にムシロ痕が残るⅠ1 類の在地系手捏ね土師器皿 (9) が出土した。SX1 内北西寄りではいぶし瓦がまとまって出土したためその周辺の遺物を瓦溜まりとして取り上げた。ここからはやや薄手の肥前磁器碗 (10)、被熱痕と漆継ぎが残る中国磁器皿 (11)、被熱痕が残る肥前磁器皿 (12)、在地産焼塩壺蓋 (13)、Ⅰ3 類の在地系手捏ね土師器皿 (14) が出土した。SX1 内の瓦溜まりの上層で確認された砂利層からはいわゆる絵唐津の肥前陶器鉄絵向付 (15) が出土した。SX1 粗砂層からは中国磁器小杯 (16)、肥前磁器碗 (17 ～ 20)、肥前磁器皿 (21)、肥前陶器灰釉砂目溝縁皿 (22･23)、肥前陶器すり鉢 (24)、Ⅰ1 類 (25)・Ⅰ3 類 (26)・Ⅳ2 類 (27)・Ⅳ1 類 (28) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。これら SX1 出土遺物は 17 世紀前半～中頃に位置づけられるものが多いが、17・27・28 など 17 世紀後半代の遺物が混入する。

（第 13 図）

SX2 からは肥前陶器胎土目鉄絵皿 (1)、建水かと思われる越中瀬戸陶器 (2)、越前陶器すり鉢 (3)、Ⅰ3 類 (4)・Ⅲ類 (5) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。17 世紀前半代に位置づけられる。

SX3 下層からは、内面鎬文の肥前磁器青磁皿 (6)、越中瀬戸陶器碗 (7)、肥前陶器灰釉胎土目皿 (8)、口唇部の欠けが多い美濃陶器長石釉皿 (9)、いわゆる絵唐津の肥前陶器鉄絵向付 (10)、碁笥底の肥前陶器すり鉢 (11)、肥前陶器香炉 (12)、Ⅰ1 類の在地系手捏ね土師器皿 (13・14)、外面全面に油痕が付着するⅢ類在地系手捏ね土師器皿 (15)、Ⅱ類在地系手捏ね土師器皿 (16) が出土した。17 世紀前半代の遺物群に位置づけられる。

SX3 上層からは肥前磁器ミニチュア碗 (17)、瀬戸磁器型打皿 (18) が出土した。19 世紀中頃までの遺物群に位置づけられる。

SD1 の石積裏込部分からは、肥前陶器碗 (19)、肥前陶器すり鉢 (21)、Ⅰ1 類在地系手捏ね土師器皿 (22) が出土した。20 は SD1 直上に堆積し、SD1 検出時に除去した土から出土した肥前陶器灰釉砂目溝縁皿である。これらのことから SD1 は 17 世紀前半代に構築され間もなく廃絶されたと考えられる。

（第 14 図）

SE1 石積構築時の掘り方からは肥前磁器小杯 (1)、Ⅰ3 類在地系手捏ね土師器皿 (2) が出土した。SE1 内覆土のうち掘削した部分の下層にみられた炭層からは中国産の可能性がある磁器小杯 (3)、肥前磁器型打輪花皿 (4)、肥前磁器青磁鉢 (5)、美濃陶器青織部向付 (6)、Ⅰ3 類在地系手捏ね土師器皿 (7 ～ 10) が出土した。これらのことから SE1 は 17 世紀前半代に構築され、間もなく廃絶されたと考えられる。12 は SE1 内の上層に混入したと考えられる九谷磁器皿で、内面に赤・金で色絵が施されて赤字で文字がみえ、上絵付け焼成時に使用した色見と考えられる。

SK1 からは丸形 (17) と口縁が直立する腰張形 (18・19) の肥前磁器碗、薄手で高台断面が逆三角形の肥前磁器皿 (20・21)、肥前陶器銅緑釉見込蛇目釉剥皿 (22)、波縁 (23) と丸形内禿 (24) の越中瀬戸陶器皿、肥前陶器鉄釉すり鉢 (25) が出土した。また、九谷焼の上絵窯関連遺物として、煉瓦 (26・27) や窯道具と思われる土製品 (28)、朱色に金色で記号のような文様が書かれた上絵色見と考えられる九谷磁器の碗皿小片 (29 ～ 31) が出土した。近代にかけての遺物群に位置づけられる。

(第 15 図)

SK2 最下層からは肥前磁器の丸形小杯 (1)、肥前陶器鉄釉天目碗 (2)、Ⅰ1 類 (4・5)・Ⅰ3 類 (3) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。SK2 中層南側からは肥前磁器丸形碗 (6) や高台径の小さな肥前磁器皿 (7)、長石釉・鉄釉掛分の瀬戸美濃陶器碗 (8)、産地不明の陶器鉄釉碗 (9)、Ⅰ3 類在地系手捏ね土師器皿 (10・11) が出土した。SK2 上層からはコップ形焼塩壺 (12)、Ⅳ1 類在地系手捏ね土師器皿 (13) が出土した。

SK2 内 SA12 前面からは肥前陶器灰釉碗 (14)、肥前陶器灰釉瓶 (15)、Ⅰ1 類在地系手捏ね土師器皿 (16) が出土した。SK2 からは中国磁器の青花碗 (17) と明山手青花鉢 (18)、北九州系陶器碗 (19)、丸形の越中瀬戸陶器鉄釉碗 (20)、平底の肥前陶器灰釉小杯 (21)、瀬戸美濃陶器灰釉皿 (22)、は肥前陶器の灰釉砂目溝縁皿 (23・24)、内外面に透明釉を掛け鉄釉で施文した肥前陶器建水または鉢 (25)、越中瀬戸陶器すり鉢 (26)、口縁を鉄釉に漬けた肥前陶器すり鉢 (27)、Ⅰ1 類 (28)・Ⅱ類 (31)・Ⅲ類 (30)・Ⅳ3 類 (29) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。28 には一部に金箔が残存しており、内外面が金箔貼りであったと考えられる。SK2 出土遺物は概ね 17 世紀中頃までに位置づけられるが、中層以上の出土遺物には後世の遺物の混入が見られる。

(第 16 図)

SK4 からは九谷磁器馬上杯 (1)、産地不明瓦質土器皿 (2) が出土した。近代までの遺物群に位置づけられる。

SK5 からは肥前陶器灰釉砂目皿 (3)、常滑産と考えられる陶器甕 (4)、越前陶器すり鉢 (5)、Ⅰ1 類在地系手捏ね土師器皿 (6) が出土した。17 世紀前半の遺物群である。

SK6 下層からは半球形の肥前磁器小杯 (7)、肥前陶胎染付碗 (8)、肥前陶器すり鉢 (9・10)、Ⅰ1 類 (11)・Ⅳ1 類 (15)、Ⅳ2 類 (13・17)、Ⅳ3 類 (16)、Ⅴ類 (12・14・18) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。SK6 南側上層からはⅣ3 類 (19)・Ⅳ4 類 (20)・Ⅴ1 類 (21・22) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。

(第 17 図)

SK6 上層からは腰張形で高台断面が逆三角形の肥前磁器碗 (1)、透明釉と鉄釉を掛分けた天目形の肥前磁器碗 (2)、沢潟文の葉脈を墨弾き技法で白抜きした丸形の肥前磁器皿 (3)、菊形に型打ちした肥前磁器皿 (4)、中国磁器の芙蓉手青花鉢 (5)、内外面白泥刷毛目を施した肥前陶器碗 (6)、Ⅳ4 類 (9)・Ⅴ2 類 (7・8) の在地系手捏ね土師器皿、鉱滓に溶着した土師器皿片 (10) が出土した。また、11 は土師器壺である。

SK6 東側上層からは玉縁で体部が直線的に開く肥前陶器鉄釉すり鉢 (12) が出土した。これらのことから SK6 出土遺物は 18 世紀前半代までに位置づけられる。

SK8 からは中国磁器漳州窯系と考えられる青花角皿 (13)、体部外面に櫛目波状文を刻んだ越中瀬戸陶器灰釉香炉 (14) が出土した。14 は被熱している。SK8 上層からはⅠ1 類 (15) とⅢ類 (16) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。SK8 出土遺物は 17 世紀前半代に位置づけられる。

SK16 からは須佐陶器灰釉片口鉢 (17) が出土した。19 世紀前半代までに位置付けられる。

SK17 からは肥前陶器すり鉢 (18)、色見の可能性がある九谷磁器鉢 (19) が出土した。近代までの遺物群に位置づけられる。

（第 18 図）

SK7 最下層からは中国磁器青花碗 (1) と青花皿 (2)、型打成形の肥前磁器染付皿 (3)、越中瀬戸陶器の碗 (4) とすり鉢 (7)、肥前陶器の胎土目皿 (5) と砂目皿 (6)、鋳型 (8)、Ⅰ1 類 (10・11) とⅢ類 (9) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。SK7 出土遺物は 17 世紀前半代に位置づけられる。

SK13 からは腰張形の肥前磁器碗 (12・13)、肥前磁器皿 (14)、肥前磁器小杯 (15)、肥前陶器刷毛目碗 (16)、肥前陶器呉器手碗 (17)、須佐陶器鉄泥すり鉢 (18)、Ⅴ1 類 (20)・Ⅴ4 類 (19) の在地系手捏ね土師器皿が出土した。17 世紀末～ 18 世紀前半にかけての遺物群と位置づけられる。

SK21 からは肥前磁器碗 (21)、底部中心に孔があく産地不明磁器製品 (22) が出土した。近代までの遺物群に位置づけられる。

（第 19 図）

SK11 からは中国磁器青花碗 (2)、肥前磁器の丸形碗 (1・3)、肥前磁器小杯 (4)、肥前磁器皿 (5)、鉄釉天目形 (6)・越中瀬戸陶器の灰釉丸形碗 (9)、美濃陶器長石釉碗 (7)、肥前陶器灰釉碗 (8)、肥前陶器灰釉皿 (10)、美濃陶器長石釉皿 (11)、肥前陶器鉄絵四方向付 (12)、信楽陶器壺 (13)、越中瀬戸陶器天目台 (灯火具の可能性もある) (14)、在地系手捏ね土師器皿 (15 ～ 23) が出土した。15 ～ 17・21・22 はⅠ1 類、20 はⅠ3 類、18 はⅡ類であろう。17 世紀前半代に位置づけられる。

SP1 からは肥前磁器壺蓋 (24)、京・信楽系陶器碗 (25)、Ⅳ4 類の在地系手捏ね土師器皿 (26) が出土した。17 世紀末頃の遺物群に位置づけられる。

SP2 からはⅣ3 類の在地系土師器皿 (27) が出土した。17 世紀後半代に位置づけられる。

B 区第 3 層からは越中瀬戸陶器すり鉢 (28) が出土した。B 区第 2 層下黄砂からは高台に礫が付着する肥前磁器皿 (29)、筒形の肥前磁器碗 (30)、越中瀬戸陶器皿 (31) が出土した。B 区第 2 層黄砂からは上絵色見と考えられる九谷磁器皿 (32) が出土した。

（第 20 図）

A 区第 1 層からは内外面に格子目叩き痕が残る肥前陶器鉄釉甕 (1)、信楽陶器壺 (2)、北陸系陶器すり鉢 (3) が出土した。

（第 21 図）

B 区第 1 層からは肥前陶器片口鉢 (1)、肥前磁器紅皿 (2)、上絵色見と考えられる九谷磁器片 (3 ～ 11)、内面・外底部・割口に赤色顔料が付着する京・信楽系陶器の容器 (12) が出土した。B 区最下層からは瀬戸美濃陶器長石釉皿 (13) が出土した。C 区下層からは肥前磁器碗 (14) が出土した。A 区上層からは型打成形した肥前磁器色絵鉢 (15)、在地系土器の秉燭 (16)、上絵色見と推定される九谷磁器鉢 (17) が出土した。B 区整地層の土層セクション畦からは備前系陶器のすり鉢 (18) が出土した。B 区 SB1 土台の下層からは肥前磁器青磁皿 (19)、肥前陶器灰釉砂目溝縁皿 (20) が出土した。B 区 SB1 土台下上層からは肥前磁器皿 (21) と上絵色見と推定される九谷磁器片 (22 ～ 24) が出土した。

（第 22 図）

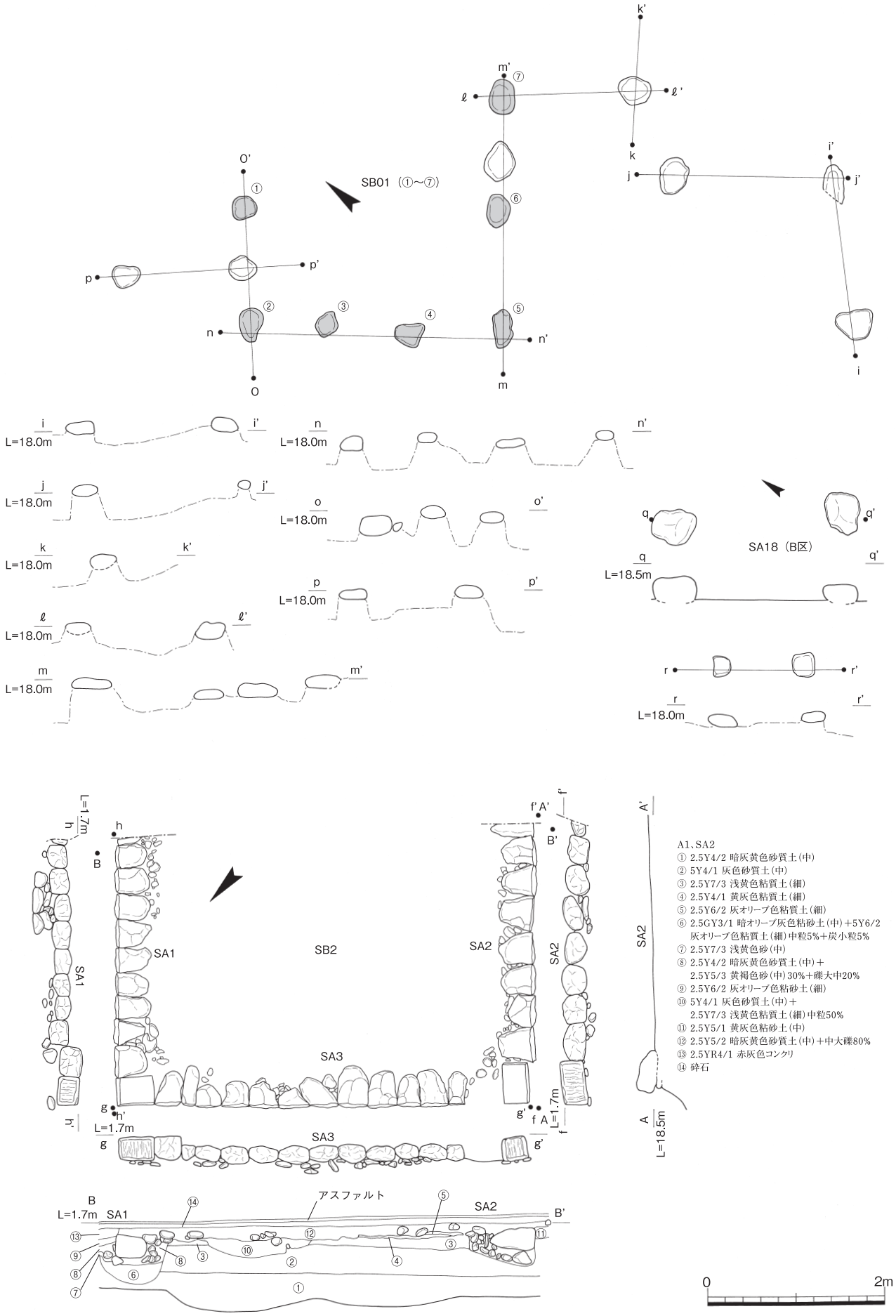
1 ～ 8 は石製品で、2 は茶臼の受皿部である。9 ～ 16 は銭貨で 14 は判読不明、その他は寛永通寶で 9・11 ～ 13 は古寛永、10 は波銭の四文銭である。17 ～ 32 は金属製品で、17 ～ 26 は煙管、27・28 は折頭釘、29・30 は矢立の墨壺とその蓋である。31 は火箸である。

（第 23 ～ 29 図）

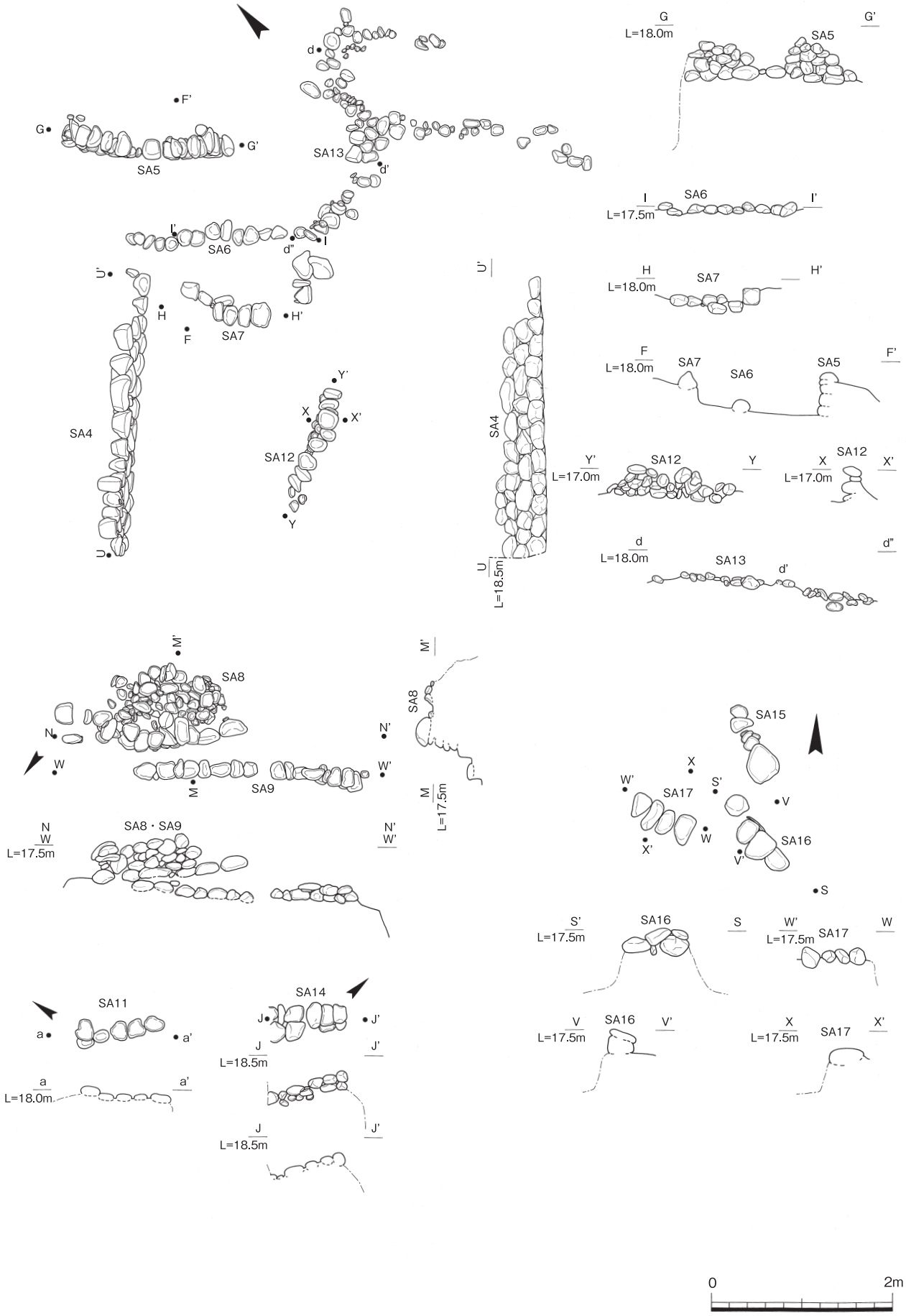
出土した瓦の一部を掲載した。第 6 表に釉薬・形態等種類毎に計測した重量を示した。

（掲載外の遺構について出土遺物が示す廃絶年代）

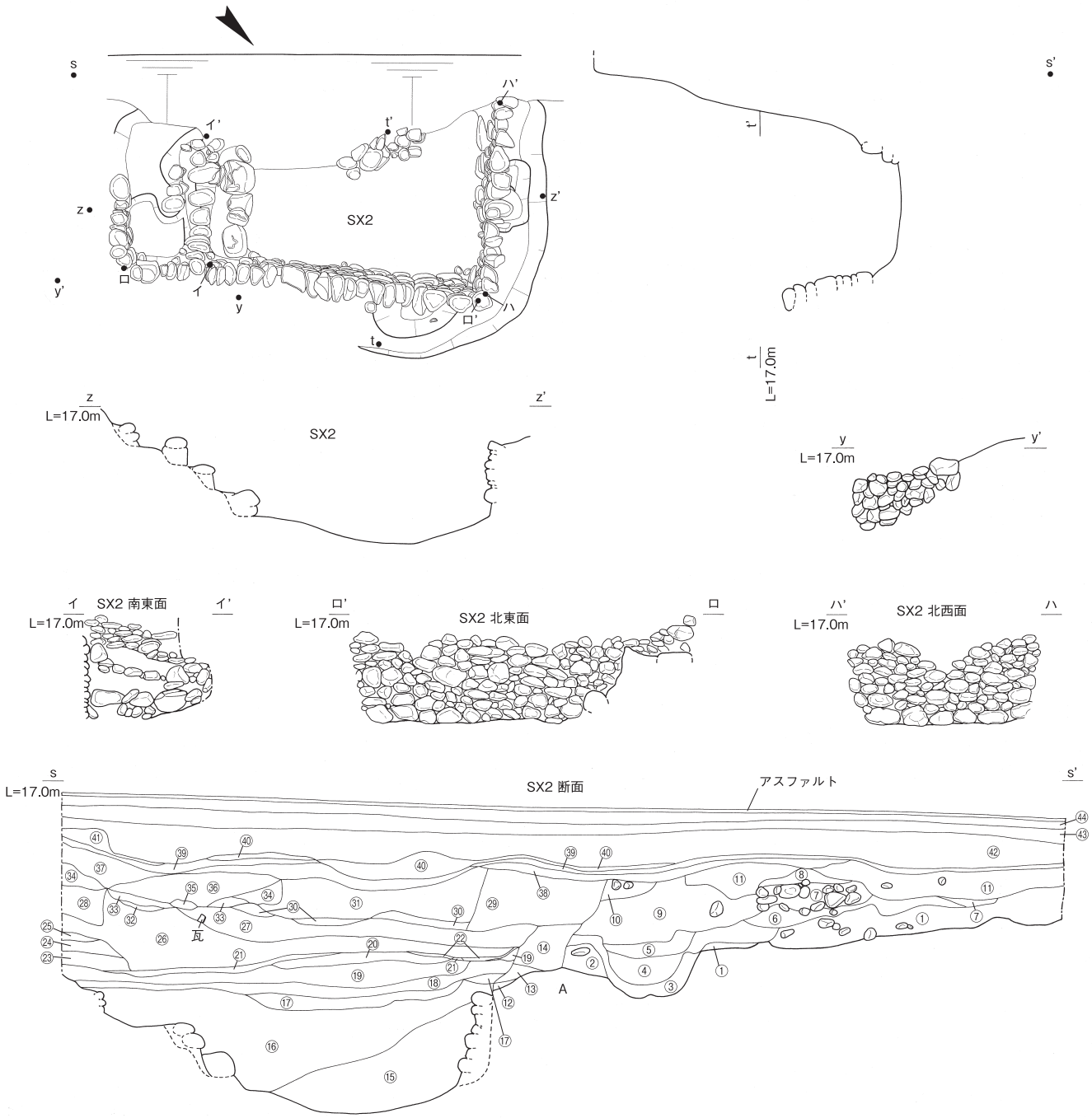
SK3 は 17 世紀前半代、SK9 は 17 世紀前半～中頃、SK14 は 18 世紀以降、SK15 は 17 世紀代、SK19・SK20 は近代、SP3 は 17 世紀前半～中頃に埋められて廃絶されたと考えられる。SA12 の構築年代は裏込出土遺物から 17 世紀後半代と考えられる。



第６図　B区石列（SB・SA）平断面図（S＝1/60）



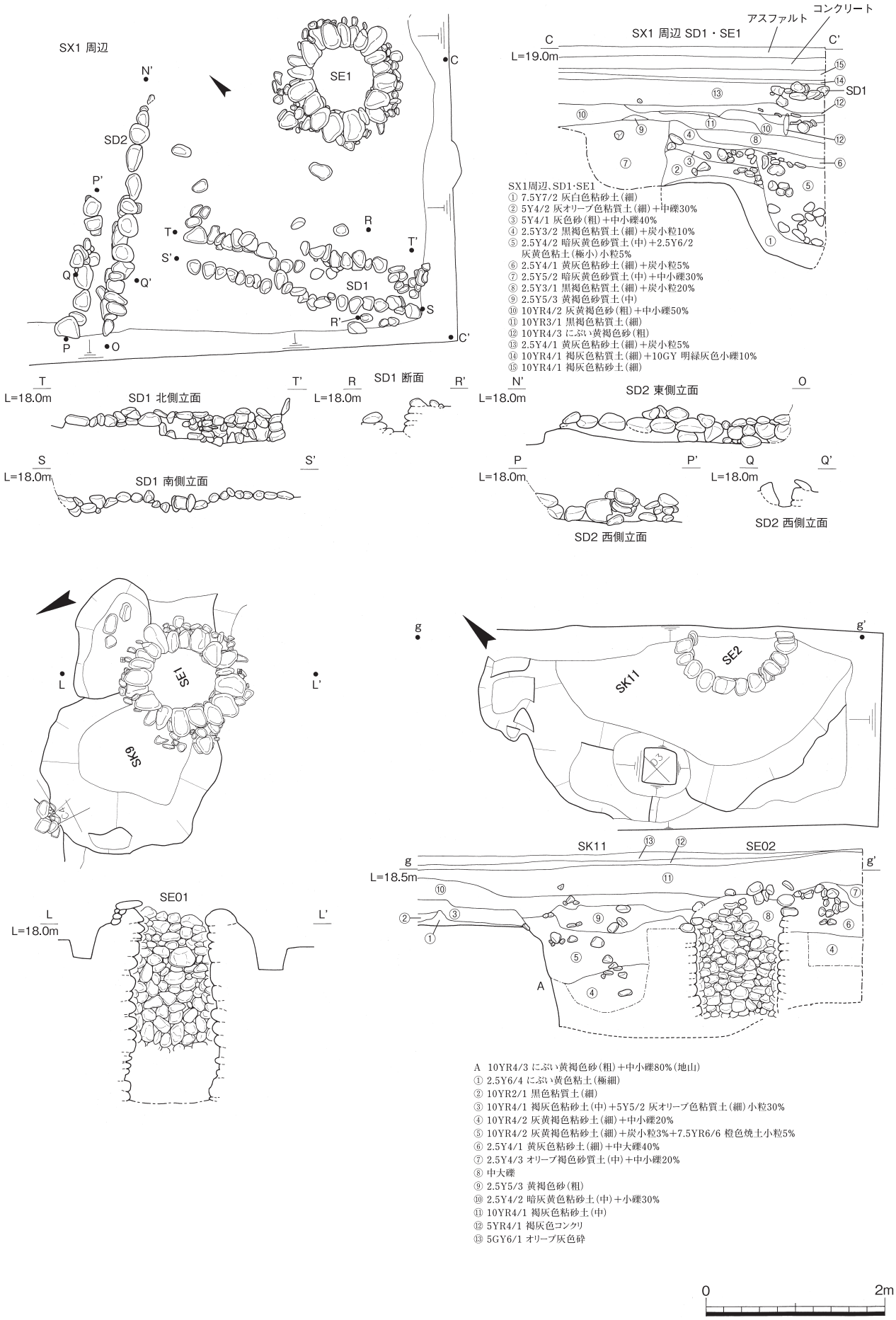
第７図　B区石列（SA）平断面図（S＝1/60）



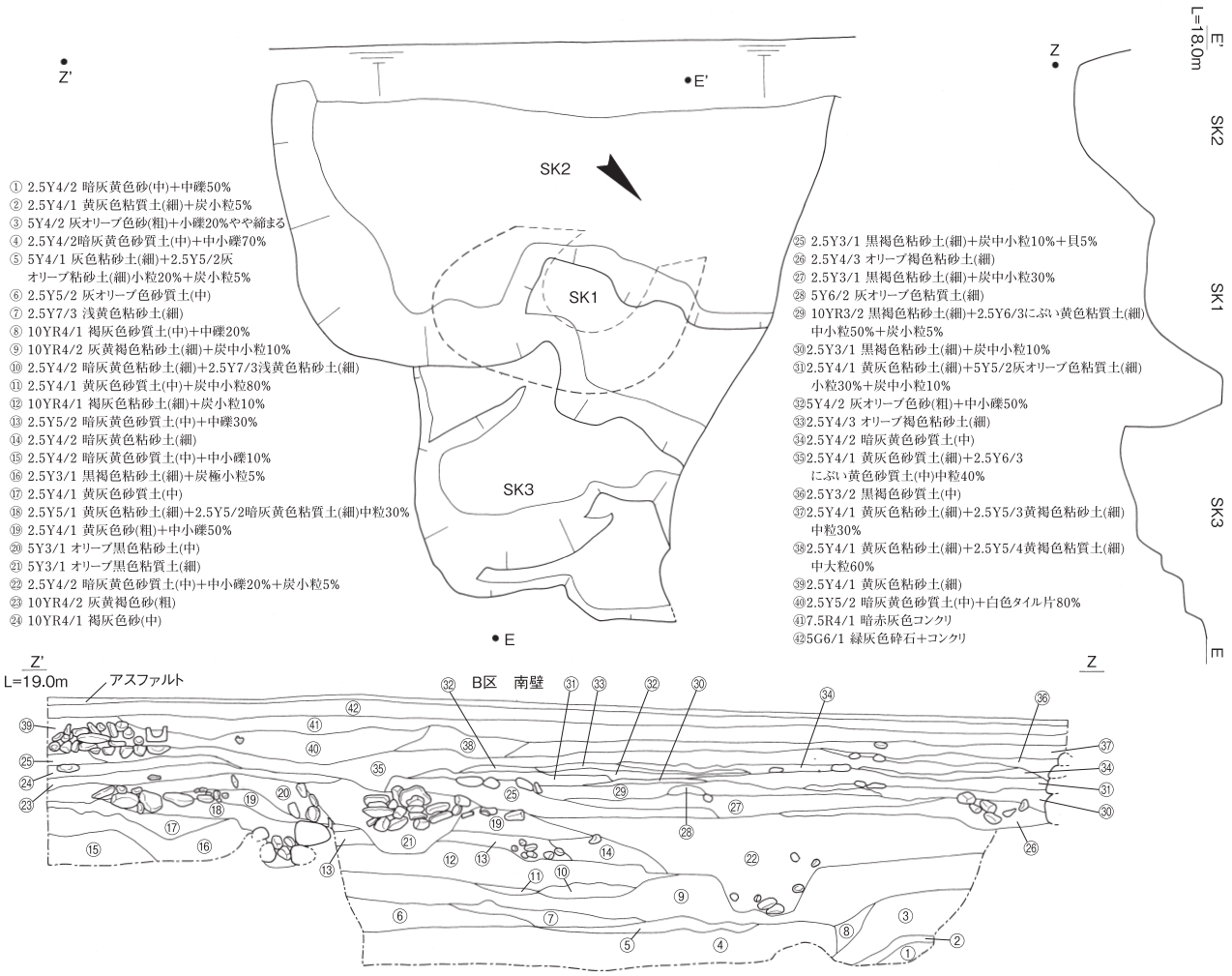
C区SX
A 2.5Y6/2 灰オリーブ色砂(粗)＋中小礫60%(地山)…固結
① 2.5Y5/4 黄褐色粘砂土(細)
② 5Y4/3 暗オリーブ色砂質土(粗)＋中小礫40%
③ 5Y4/2 灰オリーブ色粘砂土(細)
④ 5Y3/2 オリーブ黒色粘砂土(細)
⑤ 5Y5/2 灰オリーブ色粘砂土(細)
⑥ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)＋2.5Y5/4 黄褐色粘砂土(細)小粒5%
⑦ 2.5Y3/2 黒褐色粘砂土(中)
⑧ 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土(細)
⑨ 10YR4/1 褐灰色粘砂土(中)
⑩ 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(中)＋中大礫50%
⑪ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(中)
⑫ 5Y7/2 灰白色粘質土(細)
⑬ 5Y4/3 暗オリーブ色砂質土(粗)
⑭ 5Y5/2 灰オリーブ色砂質土(中)
⑮ 2.5Y5/4 黄褐色粘質土(細)＋中大礫60%
⑯ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(中)＋中大礫80%
⑰ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(中)
⑱ 2.5Y3/2 黒褐色粘砂土(中)
⑲ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土(細)
⑳ 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(細)
㉑ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(中)
㉒ 2.5Y5/4 黄褐色砂(粗)
㉓ 10YR4/2 灰黄褐色砂(粗)＋小礫80%
㉔ 10YR4/1 褐灰色粘質土(細)＋炭小粒5%
㉕ 2.5Y4/1 黄灰色砂(粗)＋中小礫50%
㉖ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)
㉗ 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(中)
㉘ 2.5Y3/1 黒褐色粘質土(細)＋小礫60%
㉙ 2.5Y5/4 黄褐色粘砂土(中)
㉚ 10YR4/2 灰黄褐色粘質土(細)
㉛ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)
㉜ 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂(粗)
㉝ 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土(細)
㉞ 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(中)
㉟ 5Y5/2灰 オリーブ色粘土(極細)
㊱ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土(細)
㊲ 10YR3/1 黒褐色粘砂土(中)
㊳ 5Y3/2 オリーブ黒色粘質土(細)
㊴ 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色粘質土(細)
㊵ 5Y4/1 灰色粘質土(細)＋炭小粒80%
㊶ 2.5Y5/3 黄褐色砂(中)
㊷ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(細)＋2.5Y5/6 黄褐色粘土(極細)小粒5%
㊸ 戸室砕石＋コンクリ
㊹ 青砕石

0 2m

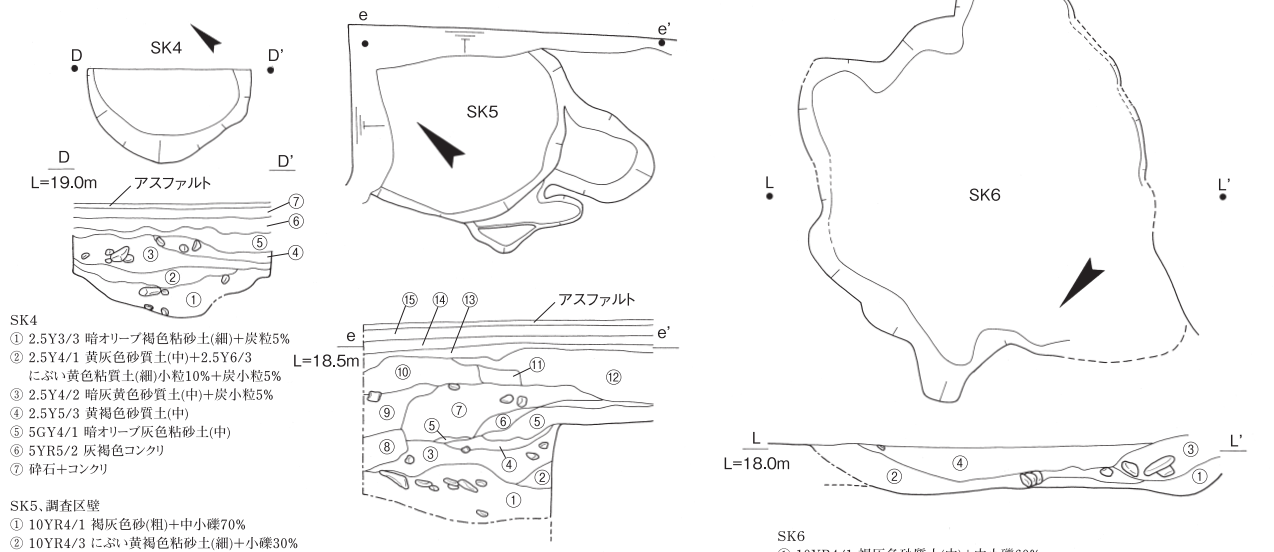
第８図　C区SX２ 平・断面図（S＝1/60）



第９図　A・B区SD・SX・SK・SE平断面図（S＝1/60）



① 2.5Y4/2 暗灰黄色砂(中)+中礫50%
② 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(細)+炭小粒5%
③ 5Y4/2 灰オリーブ色砂(粗)+小礫20%やや締まる
④ 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土(中)+中小礫70%
⑤ 5Y4/1 灰色粘砂土(細)+2.5Y5/2灰オリーブ粘砂土(細)小粒20%+炭小粒5%
⑥ 2.5Y5/2 灰オリーブ色砂質土(中)
⑦ 2.5Y7/3 浅黄色粘砂土(細)
⑧ 10YR4/1 褐灰色砂質土(中)+中礫20%
⑨ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(細)+炭中小粒10%
⑩ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(細)+2.5Y7/3浅黄色粘砂土(細)
⑪ 2.5Y4/1 黄灰色砂質土(中)+炭中小粒80%
⑫ 10YR4/1 褐灰色粘砂土(細)+炭小粒10%
⑬ 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土(中)+中礫30%
⑭ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(細)
⑮ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土(中)+中小礫10%
⑯ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(細)+炭極小粒5%
⑰ 2.5Y4/1 黄灰色砂質土(中)
⑱ 2.5Y5/1 黄灰色粘砂土(細)+2.5Y5/2暗灰黄色粘質土(細)中粒30%
⑲ 2.5Y4/1 黄灰色砂(粗)+中小礫50%
⑳ 5Y3/1 オリーブ黒色粘砂土(中)
㉑ 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土(細)
㉒ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土(中)+中小礫20%+炭小粒5%
㉓ 10YR4/2 灰黄褐色砂(粗)
㉔ 10YR4/1 褐灰色砂(中)
㉕ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(細)+炭中小粒10%+貝5%
㉖ 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘砂土(細)
㉗ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(細)+炭中小粒30%
㉘ 5Y6/2 灰オリーブ色粘質土(細)
㉙ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(細)+2.5Y6/3にぶい黄色粘質土(細)中小粒50%+炭小粒5%
㉚2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(細)+炭中小粒10%
㉛2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)+5Y5/2灰オリーブ色粘質土(細)小粒30%+炭中小粒10%
㉜5Y4/2 灰オリーブ色砂(粗)+中小礫50%
㉝2.5Y4/3 オリーブ褐色粘砂土(細)
㉞2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土(中)
㉟2.5Y4/1 黄灰色砂質土(細)+2.5Y6/3にぶい黄色砂質土(中)中粒40%
㊱2.5Y3/2 黒褐色砂質土(中)
㊲2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)+2.5Y5/3黄褐色粘砂土(細)中粒30%
㊳2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)+2.5Y5/4黄褐色粘質土(細)中大粒60%
㊴2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)
㊵2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土(中)+白色タイル片80%
㊶7.5R4/1 暗赤灰色コンクリ
㊷5G6/1 緑灰色砕石+コンクリ



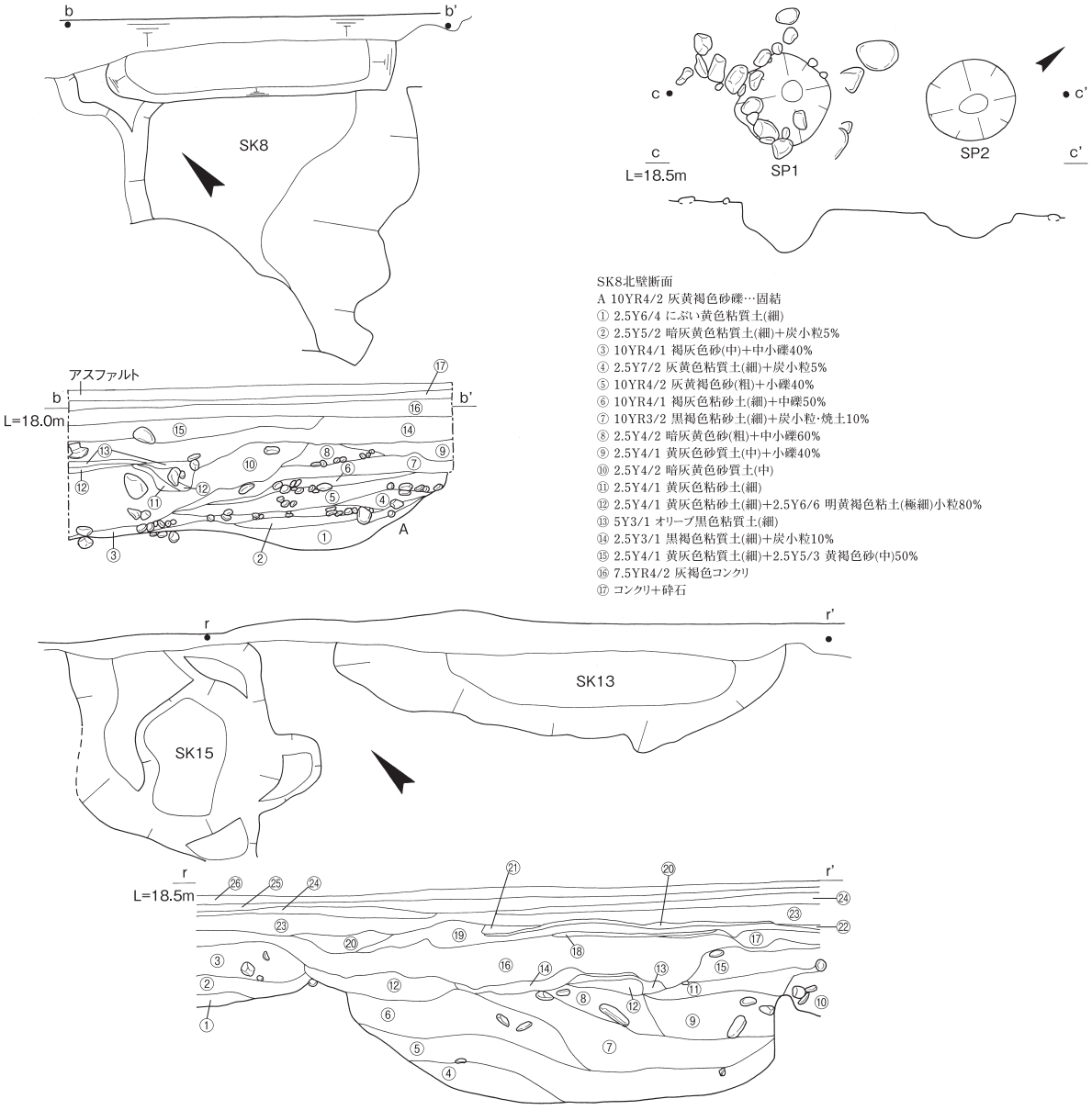
SK4
① 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘砂土(細)+炭粒5%
② 2.5Y4/1 黄灰色砂質土(中)+2.5Y6/3にぶい黄色粘質土(細)小粒10%+炭小粒5%
③ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土(中)+炭小粒5%
④ 2.5Y5/3 黄褐色砂質土(中)
⑤ 5GY4/1 暗オリーブ灰色粘砂土(中)
⑥ 5YR5/2 灰褐色コンクリ
⑦ 砕石+コンクリ

SK5、調査区壁
① 10YR4/1 褐灰色砂(粗)+中小礫70%
② 10YR4/3 にぶい黄褐色粘砂土(細)+小礫30%
③ 10YR5/6 黄褐色粘砂土(細)+小礫20%
④ 7.5YR4/1 褐灰粘質土(細)+炭極小粒3%
⑤ 10YR4/4 褐色粘質土(細)+炭小粒5%
⑥ 10YR3/4 暗褐色粘砂土(細)+焼土小粒10%
⑦ 10YR4/2 灰黄褐色砂質土(粗)+中小礫80%
⑧ 10YR4/3 にぶい黄褐色砂(粗)+小礫80%
⑨ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(中)
⑩ 10YR3/1 黒褐色粘砂土(中)+炭小粒10%
⑪ 10YR3/1 黒褐色粘砂土(中)+炭小粒20%
⑫ 10YR4/3 にぶい黄褐色粘砂土(細)
⑬ 5G3/1 暗緑灰色粘砂土(中)
⑭ 2.5YR4/2 灰赤色コンクリ
⑮ 砕石+コンクリ

SK6
① 10YR4/1 褐灰色砂質土(中)+中小礫60%
② 2.5Y4/2 暗灰黄色砂(粗)+中礫70%
③ 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)+2.5Y7/3 浅黄色粘砂土(細)小粒10%+炭小粒5%
④ 5Y2/1 黒色粘質土(細)+炭小粒1 0 %

0　2m

第10図　B区 南壁，SK、平断面図（S＝1/60）

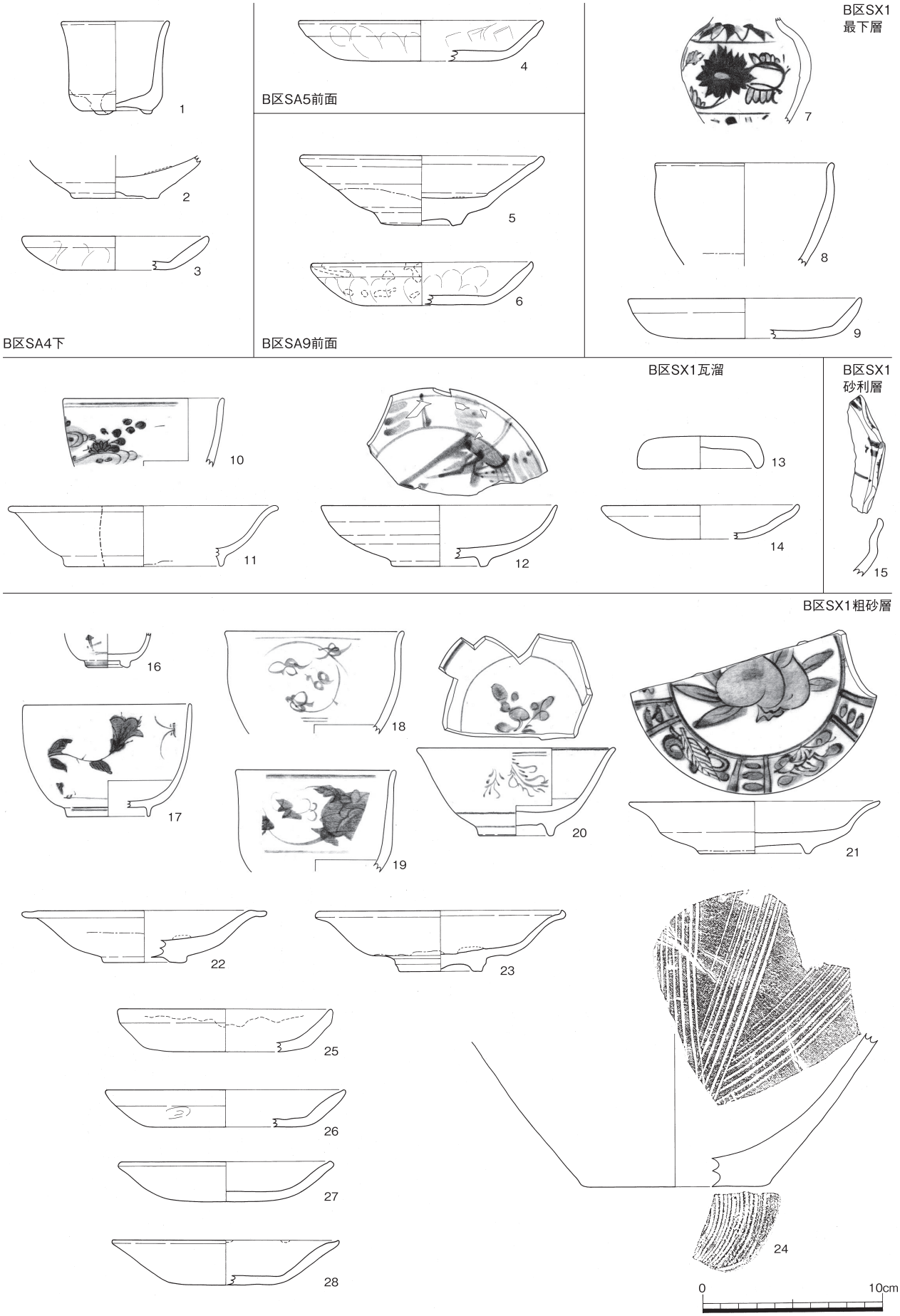


SK8北壁断面
A 10YR4/2 灰黄褐色砂礫…固結
① 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土(細)
② 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土(細)+炭小粒5%
③ 10YR4/1 褐灰色砂(中)+中小礫40%
④ 2.5Y7/2 灰黄色粘質土(細)+炭小粒5%
⑤ 10YR4/2 灰黄褐色砂(粗)+小礫40%
⑥ 10YR4/1 褐灰色粘砂土(細)+中礫50%
⑦ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(細)+炭小粒・焼土10%
⑧ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂(粗)+中小礫60%
⑨ 2.5Y4/1 黄灰色砂質土(中)+小礫40%
⑩ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土(中)
⑪ 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)
⑫ 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(細)+2.5Y6/6 明黄褐色粘土(極細)小粒80%
⑬ 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土(細)
⑭ 2.5Y3/1 黒褐色粘質土(細)+炭小粒10%
⑮ 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(細)+2.5Y5/3 黄褐色砂(中)50%
⑯ 7.5YR4/2 灰褐色コンクリ
⑰ コンクリ+砕石

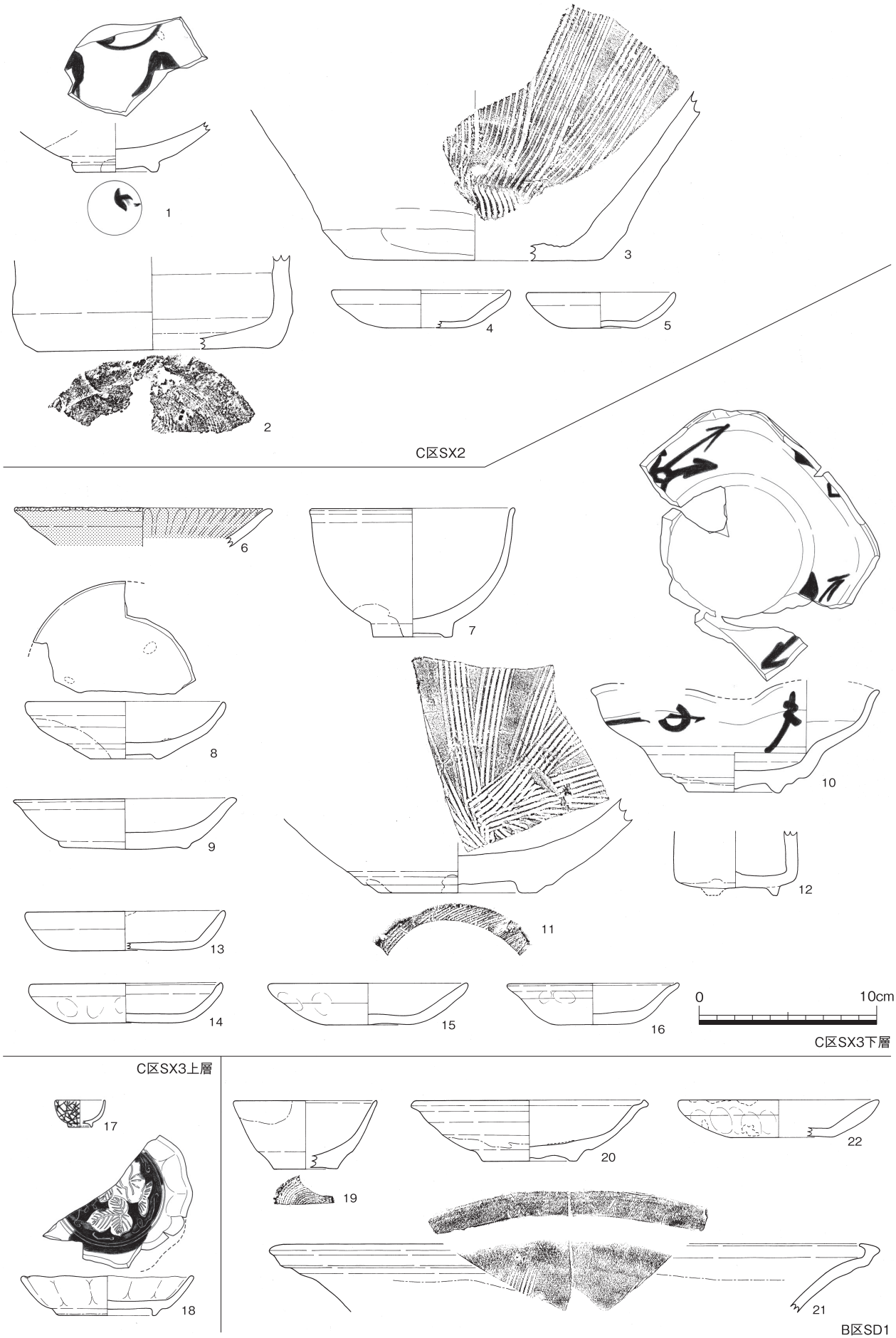
① 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(中)+2.5Y7/3 浅黄色粘質土(細)中粒80%
② 2.5Y4/1 黄灰色粘砂土(中)
③ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)+2.5Y6/6 明黄褐色粘質土(細)小粒5%
④ 10YR3/3 暗褐色砂質土(中)+炭小粒3%
⑤ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(中)+炭小粒5%
⑥ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(中)+2.5Y6/4 にぶい黄色粘砂土(細)小粒10%
⑦ 10YR3/2 黒褐色粘砂土(中)
⑧ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(中)
⑨ 2.5Y4/1 黄灰色粘質土(細)+中小礫50%
⑩ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土(細)+中大礫80%
⑪ 10YR4/2 灰黄褐色粘砂土(細)
⑫ 10YR3/1 黒褐色粘砂土(粗)+炭小粒3%
⑬ 2.5Y5/3 黄褐色砂(中)
⑭ 2.5Y3/2 黒褐色粘質土(細)+2.5Y6/4 にぶい黄色砂(細)40%
⑮ 10YR3/1 黒褐色粘質土(細)+中小礫20%
⑯ 2.5Y3/1 黒褐色粘砂土(粗)+2.5Y6/6 明黄褐色粘質土(細)小粒5%+炭小粒5%
⑰ 2.5Y6/6 明黄褐色粘質土(細)
⑱ 10GY7/1 明緑灰色砕石砂(粗)
⑲ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)
⑳ 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土(細)
㉑ 5Y7/2 灰白色砂(細)
㉒ 2.5Y6/6 明黄褐色粘質土(細)
㉓ 2.5Y4/2 暗灰黄色粘砂土(中)
㉔ 2.5GY3/1 暗オリーブ灰色粘質土(細)
㉕ 5YR4/1 褐灰色コンクリ
㉖ 5GY6/1 オリーブ灰色砕石

0 2m

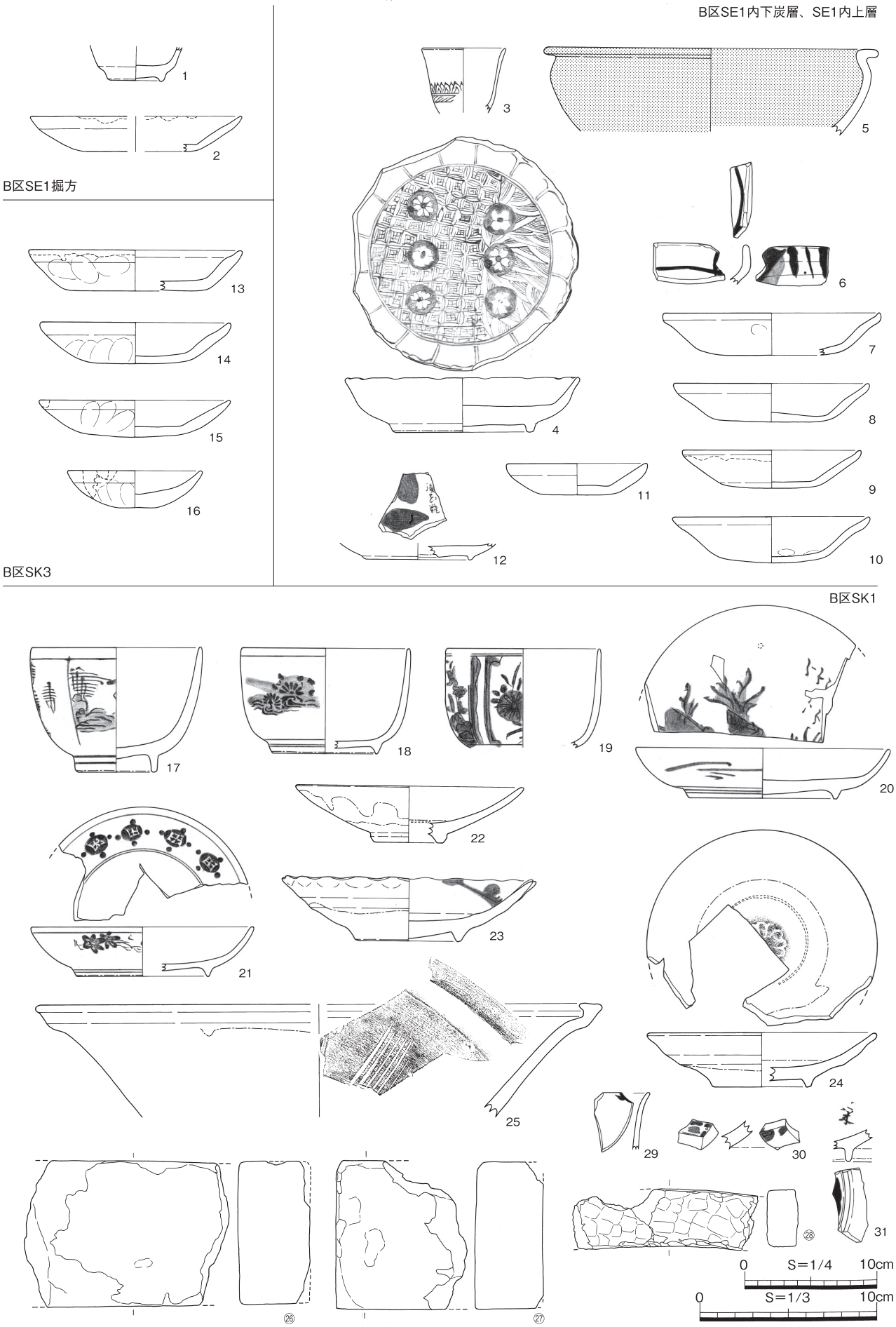
第11図　A・B区 SK・SP平断面図（S＝1/60）



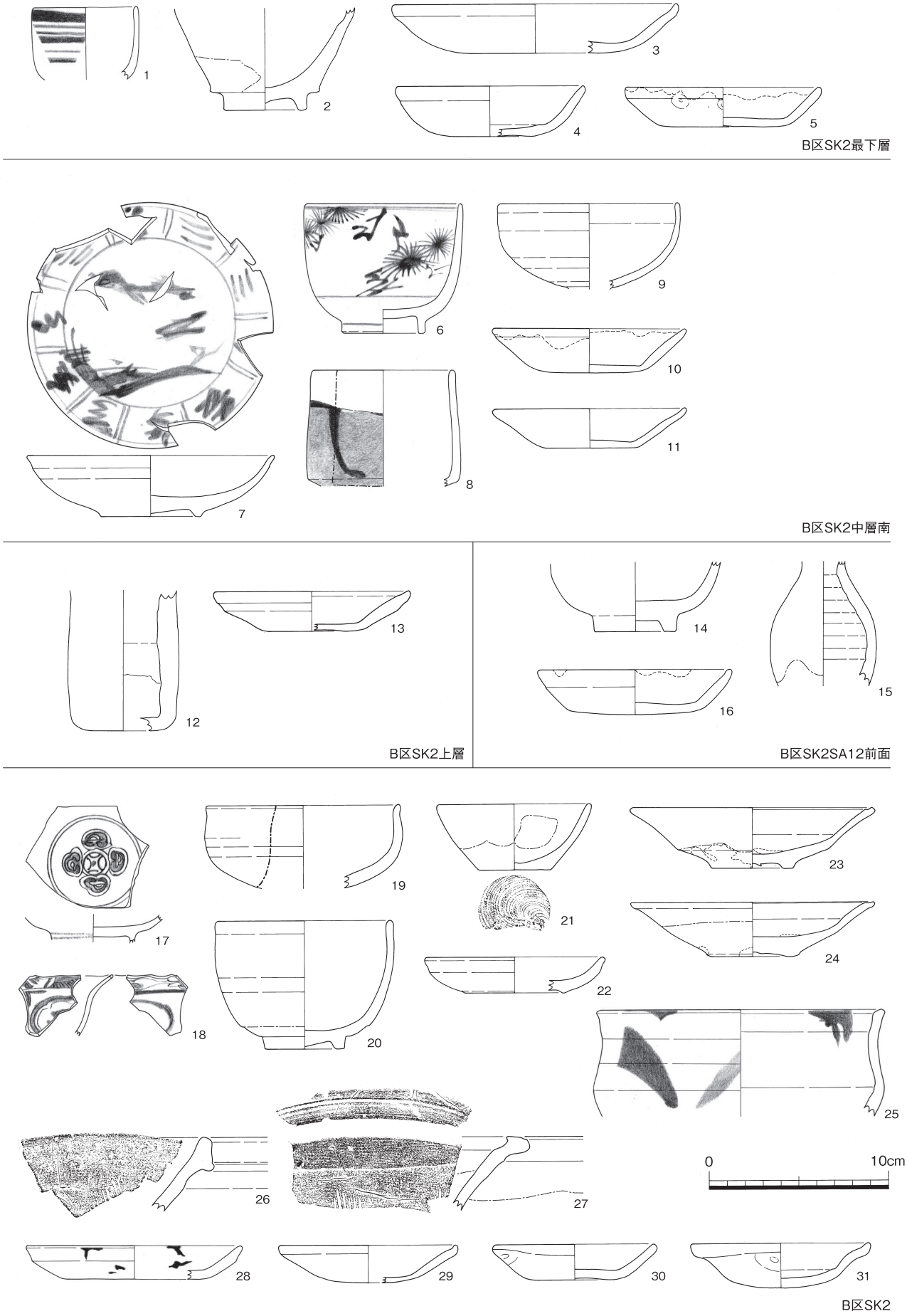
第12図 SA4下、SA6･SA7上、SA5前面、SA9前面、SX1最下層、SX1瓦溜、SX1砂利層、SX1粗砂層 出土陶磁器･土器（S＝1/3）



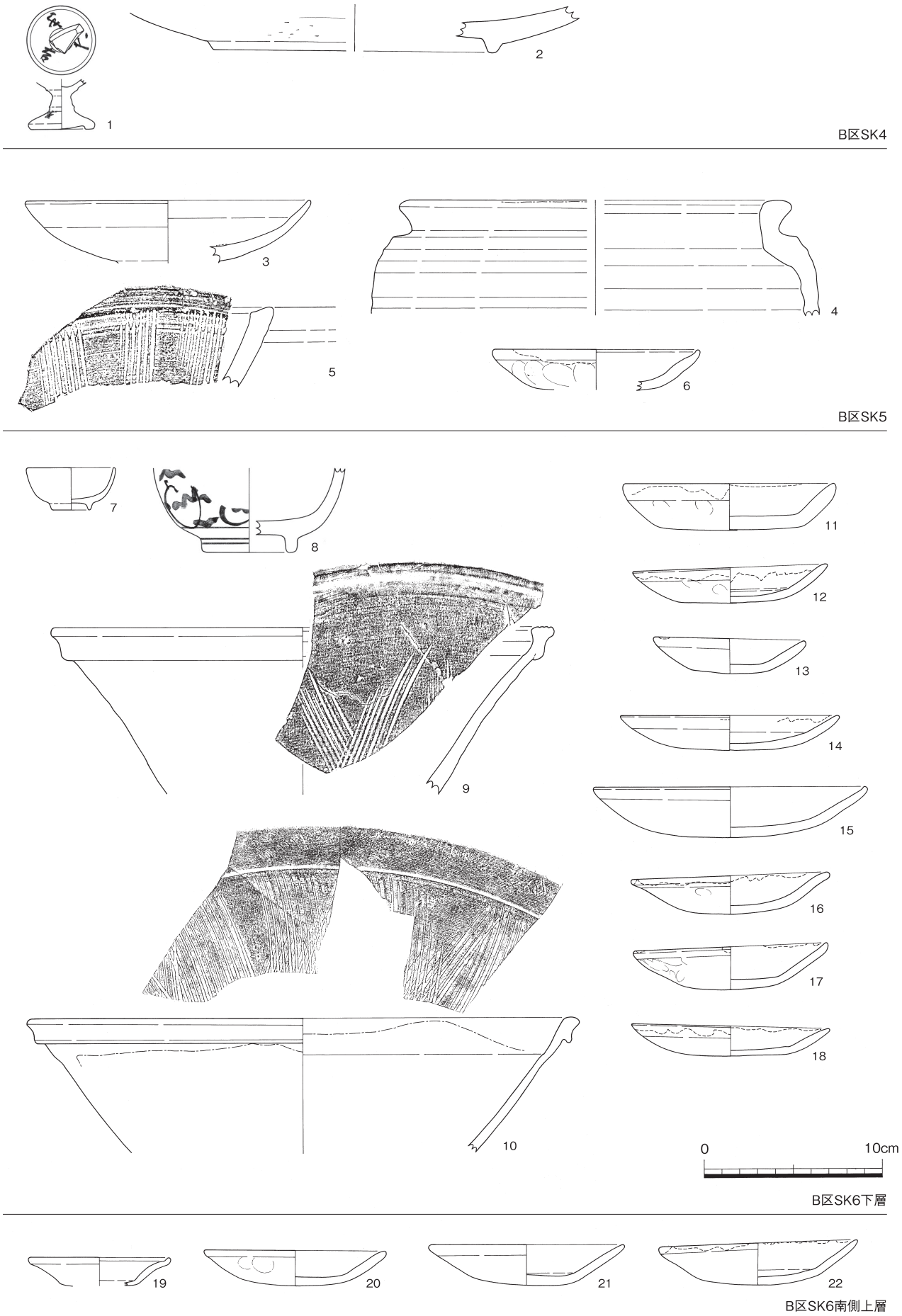
第13図　SX2、SX3下層、SX3上層、SD1　出土陶磁器･土器（S＝1/3）



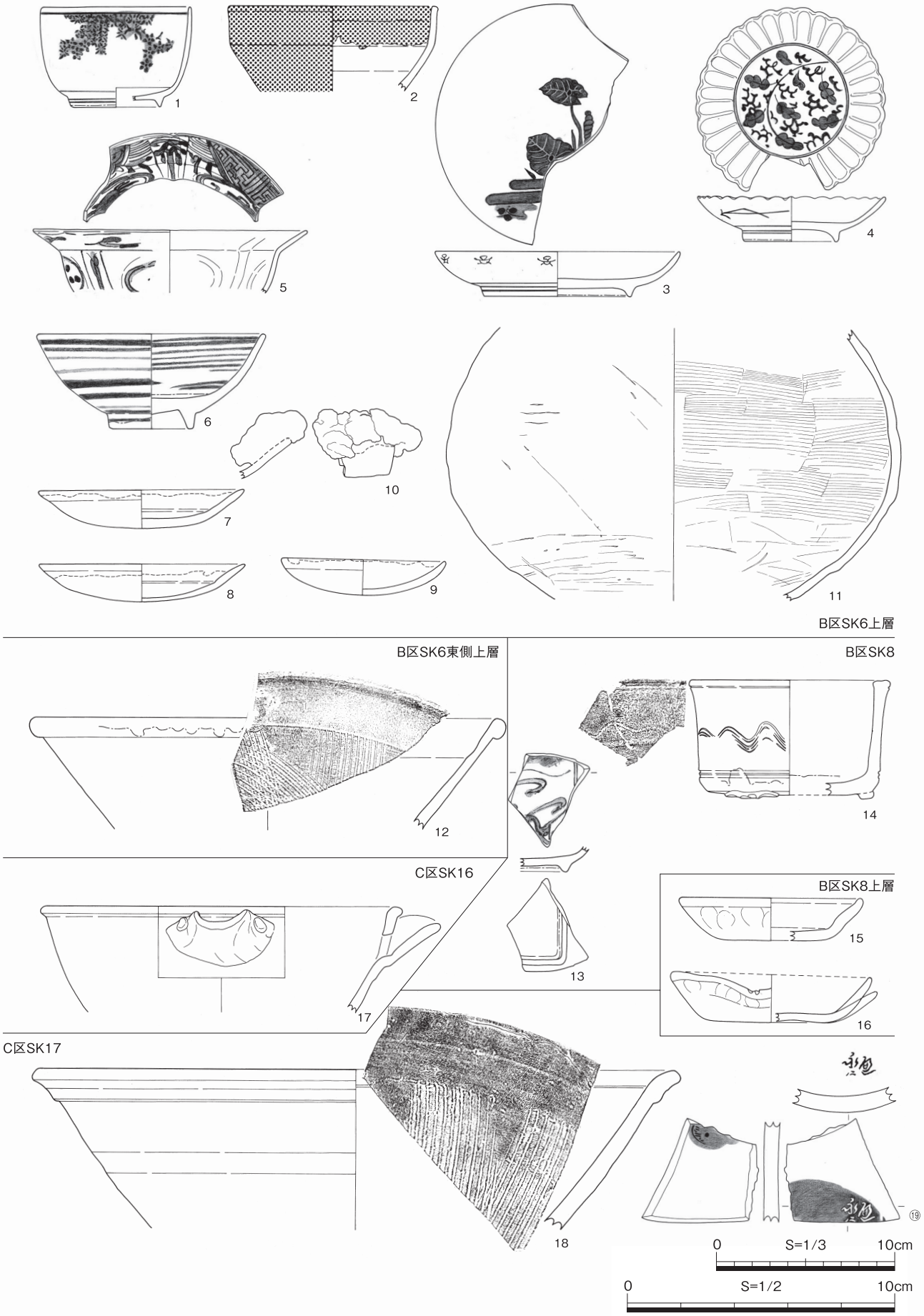
第14図　SE1掘方、SE1内下炭層、SE1内上層、SK3、SK1出土陶磁器・土器（S＝1/3、○数字はS＝1/4）



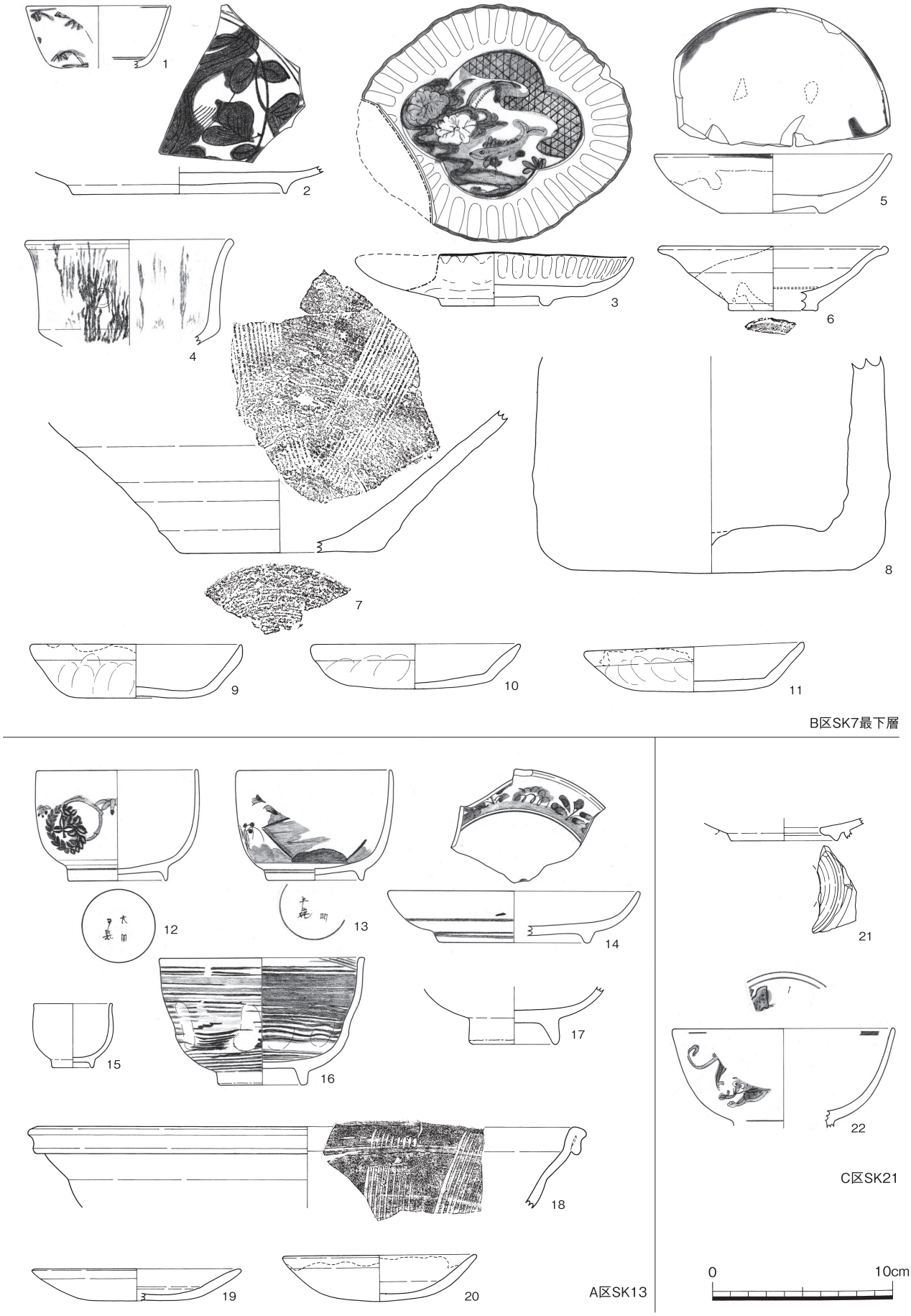
第15図　SK2最下層、SK2中層南、SK2上層、SK2SA12前面、SK2出土陶磁器・土器（S＝1/3）



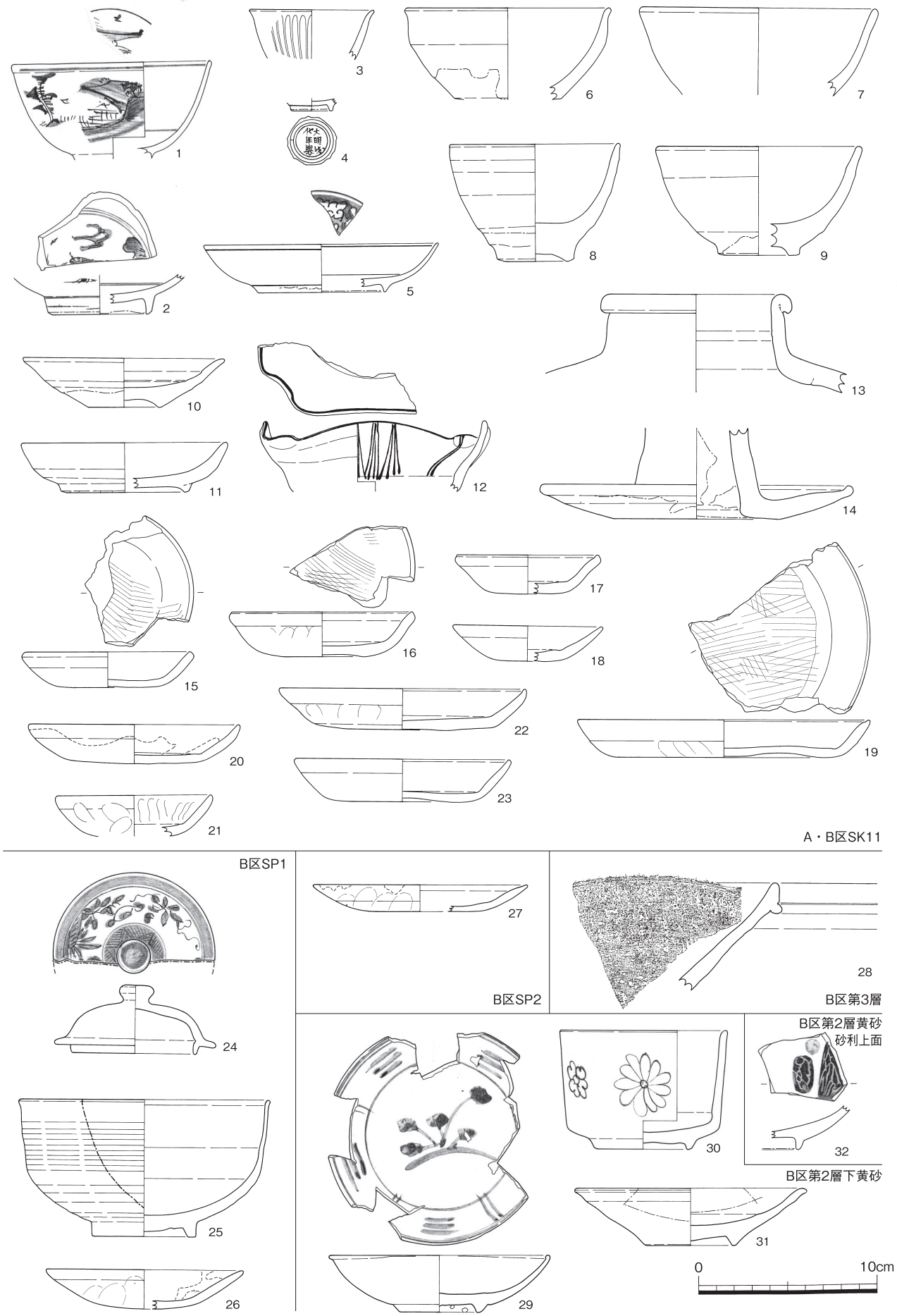
第16図　SK4、SK5、SK6下層、SK6南側上層出土陶磁器・土器（S＝1/3）



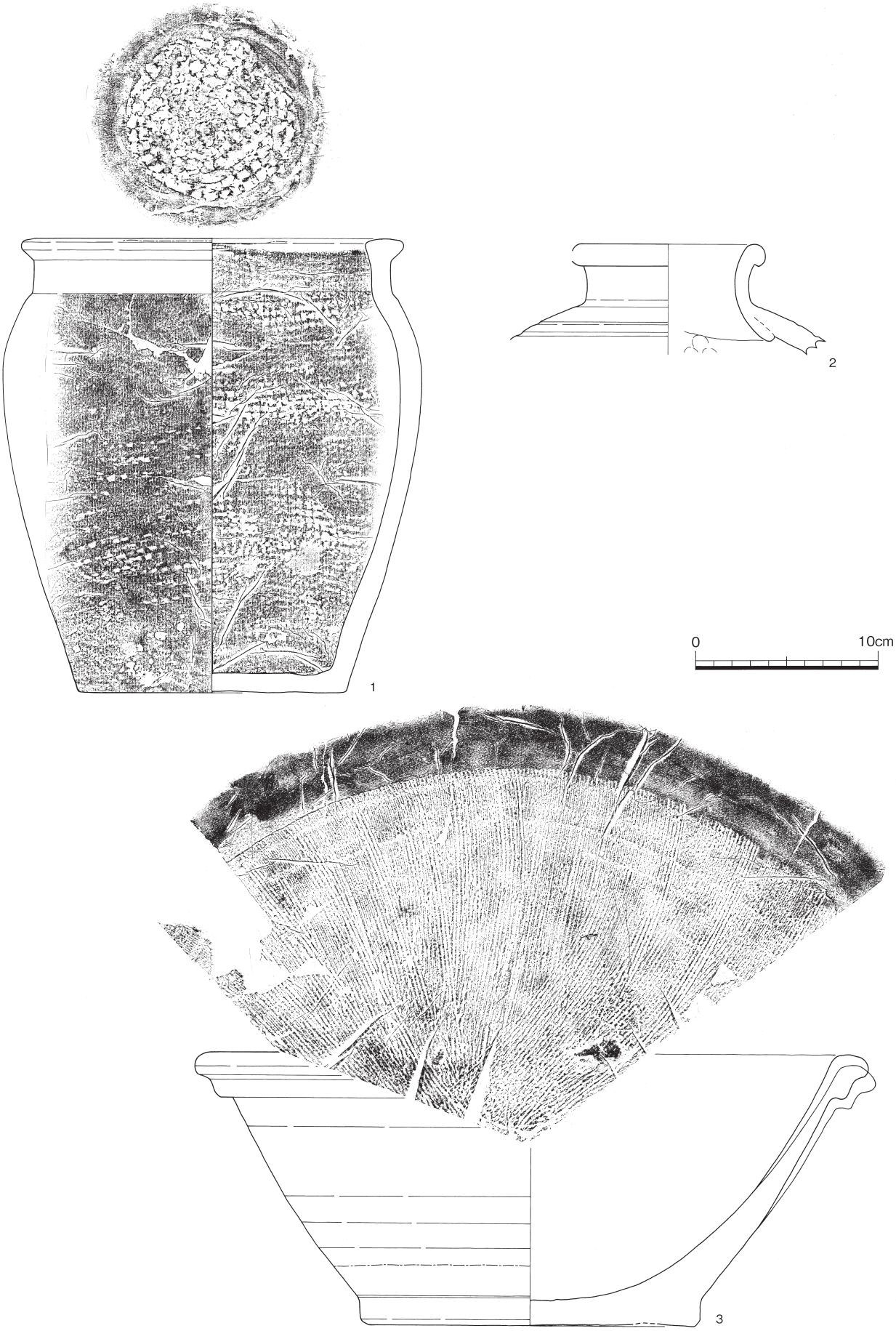
第17図　SK6上層、SK6東側上層、SK8、SK8上層、SK16、SK17出土陶磁器・土器（S＝1/3、○数字はS＝1/2）



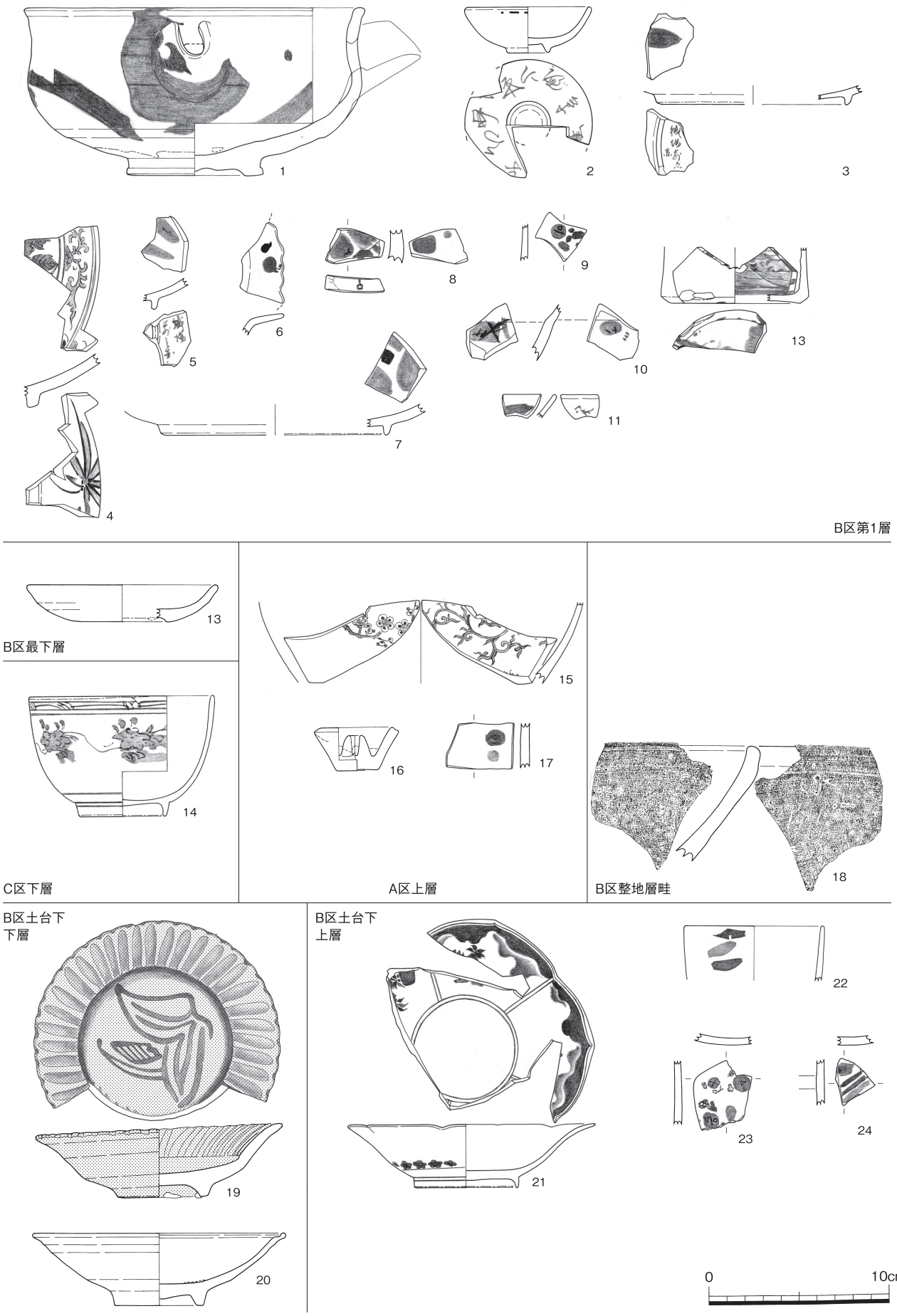
第18図　SK7最下層、SK13、SK21出土陶磁器・土器（S＝1/3）



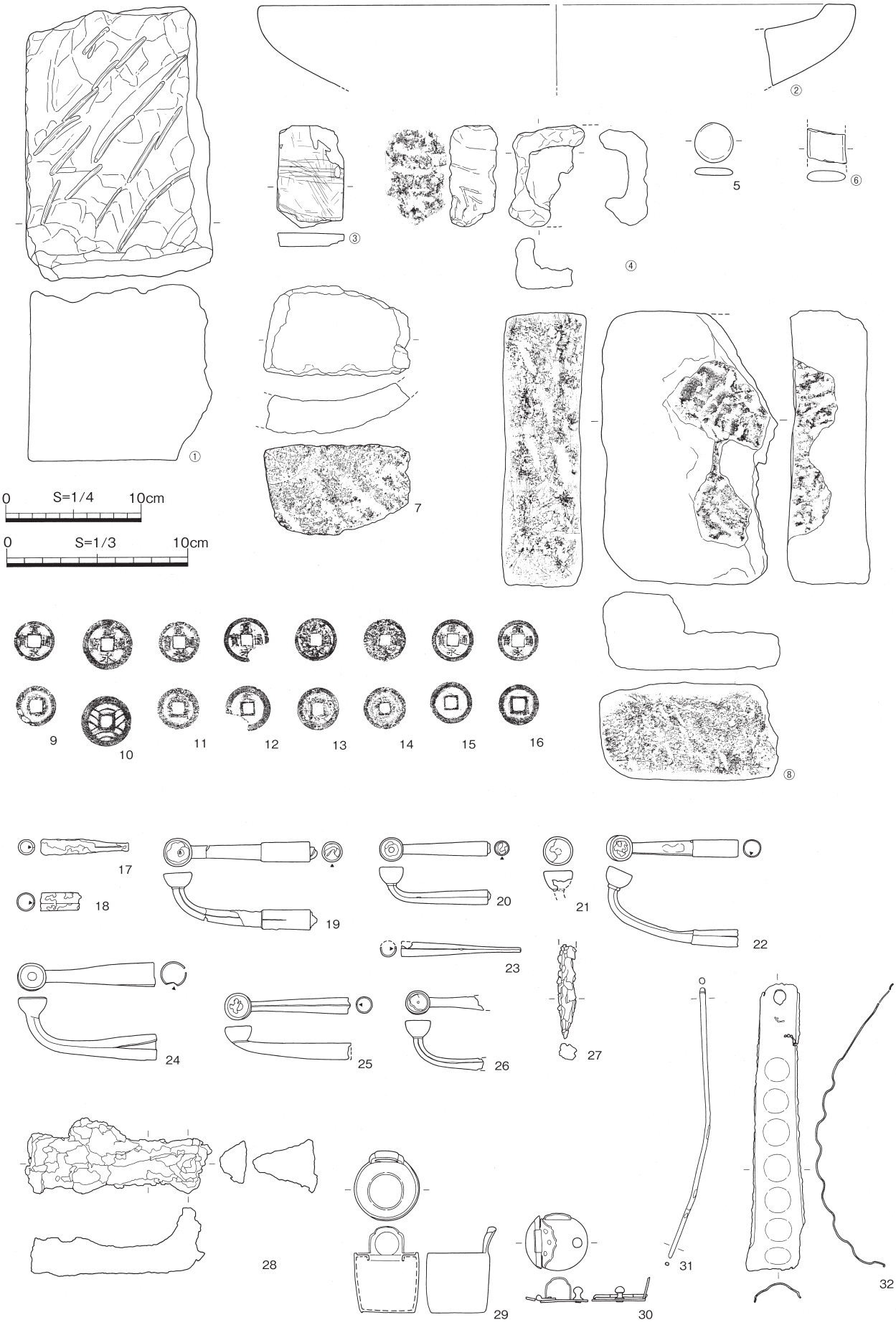
第19図　SK11、SP1、SP2、B区第3層、B区第2層下黄砂、B区第2層黄砂砂利上面 出土陶磁器・土器（S＝1/3）



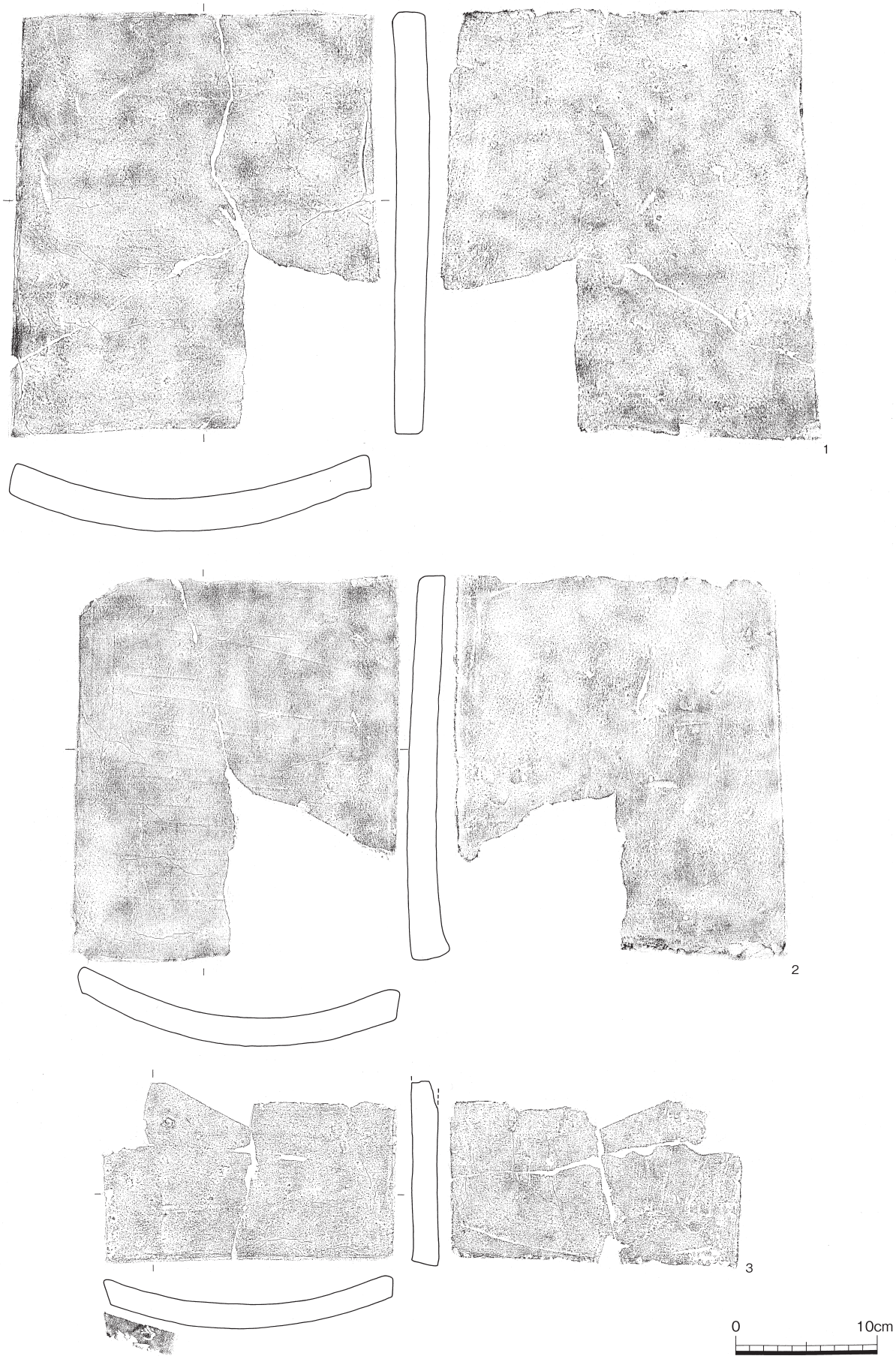
第20図　A区第1層 出土陶器（S＝1/3）



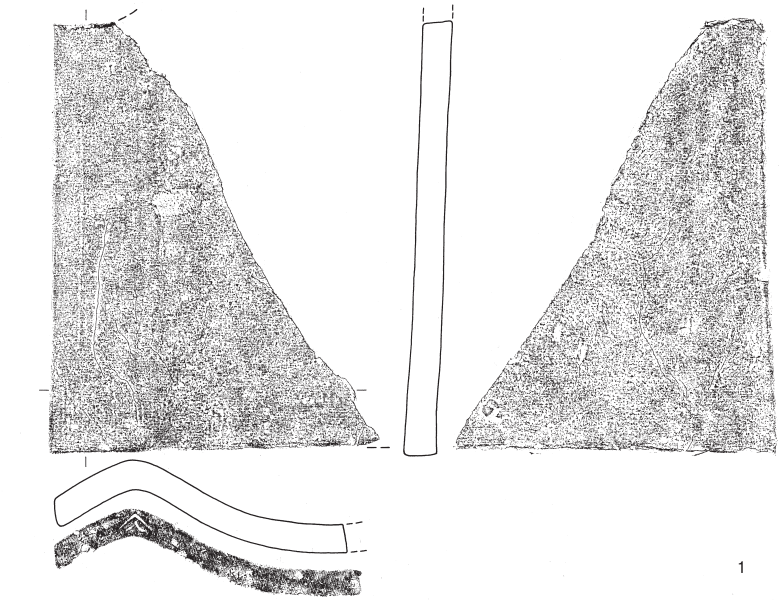
第21図　B区第1層、B区最下層、C区下層、A区上層、B区土台下下層・上層、B区整地層畦出土陶磁器・土器（S＝1/3）

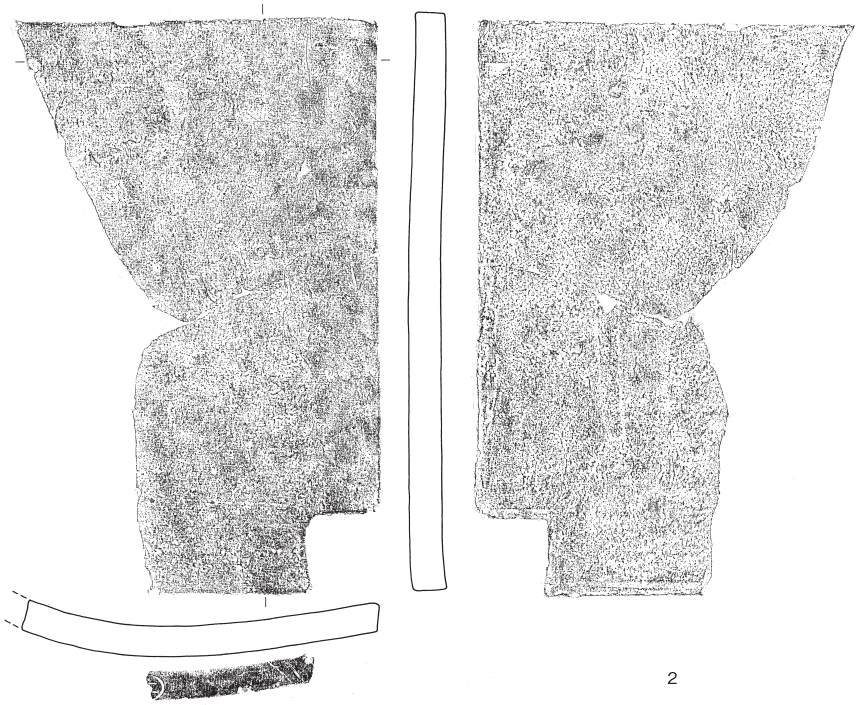


第22図　石製品（S=1/3、○数字はS=1/4）、銭（S=1/3）、金属製品（S=1/3）

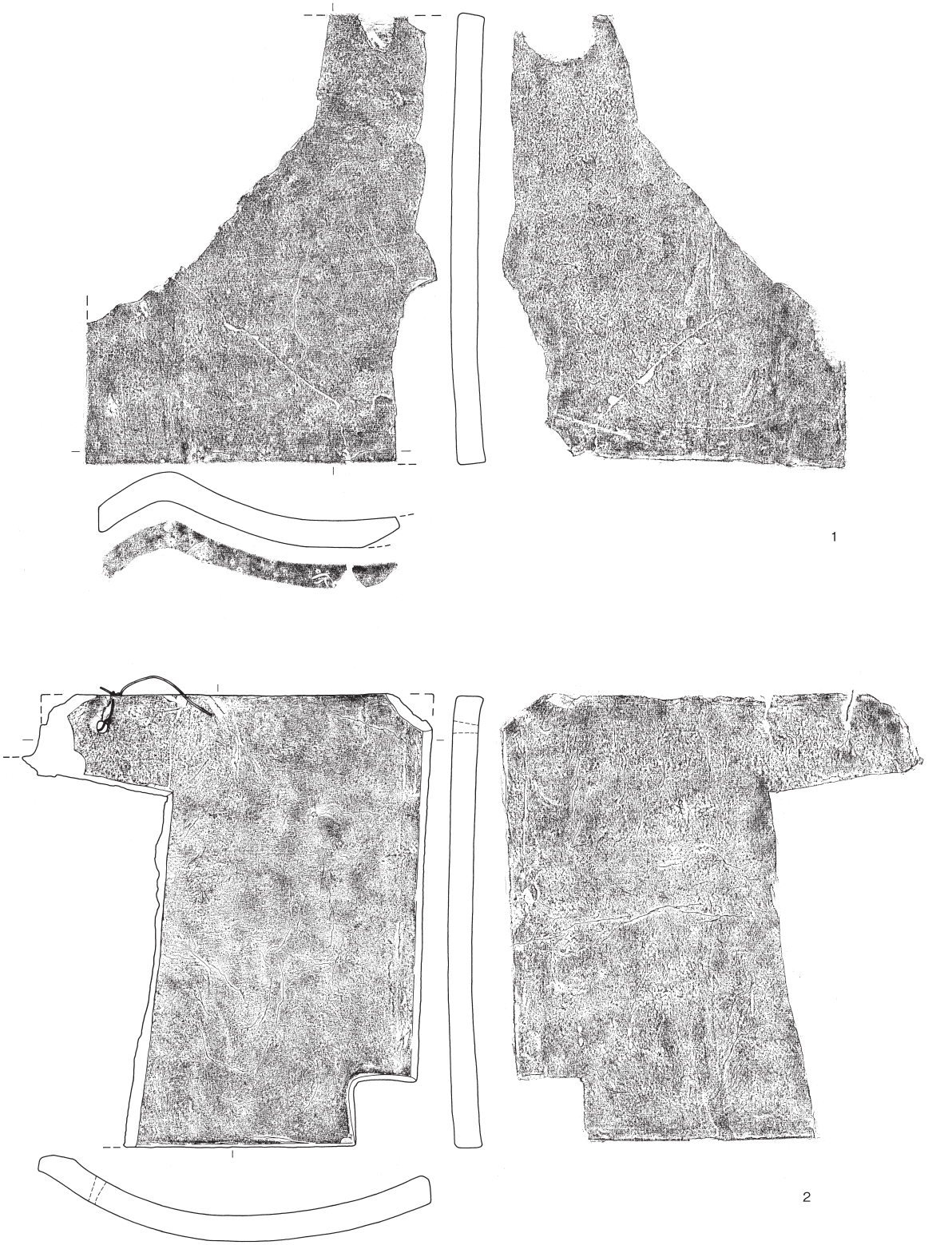


第23図　SE1、B区第2層下瓦溜出土瓦（S＝1/4）

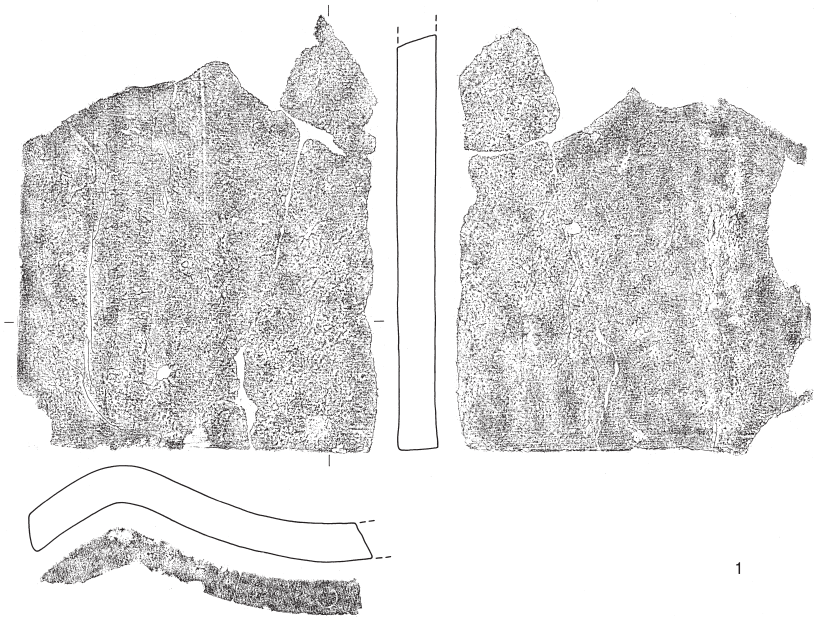


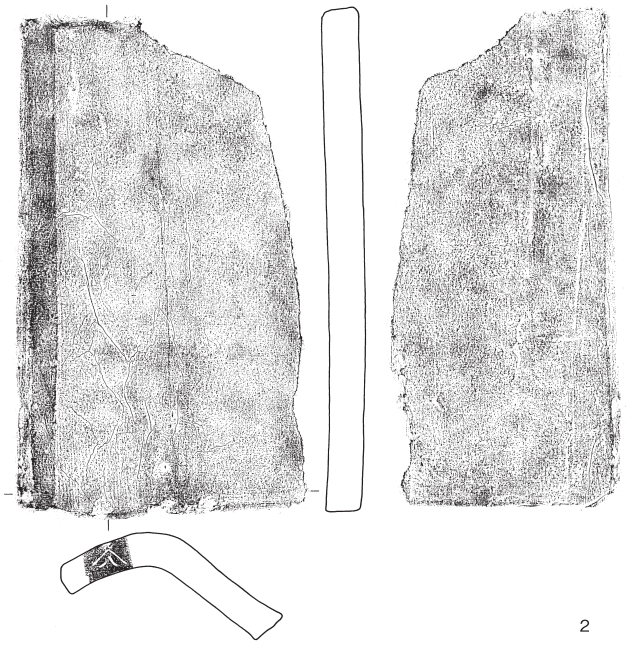


第24図　A区第1層出土瓦（S＝1/4）

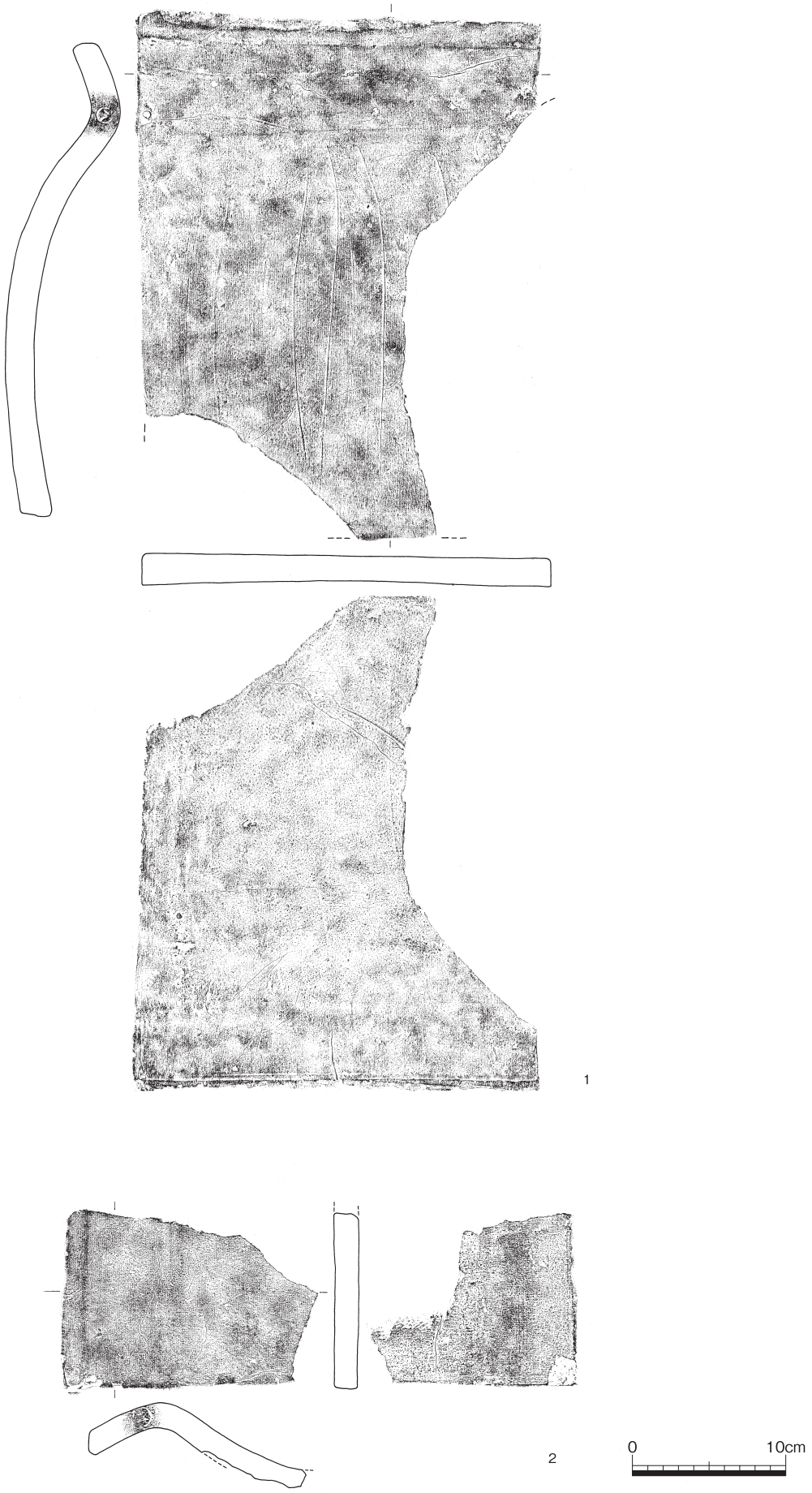


第25図　A区第1層出土瓦（S＝1/4）

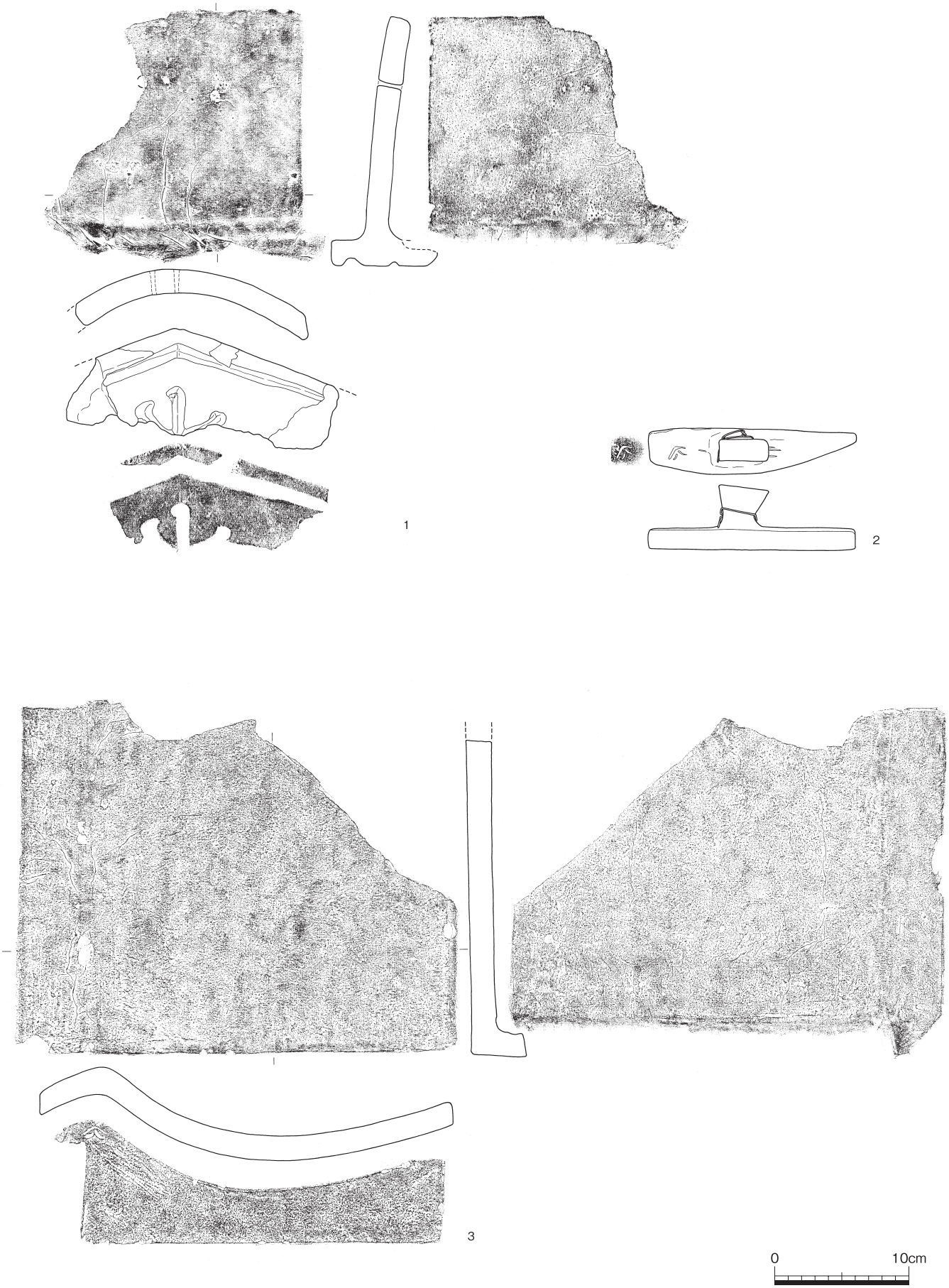




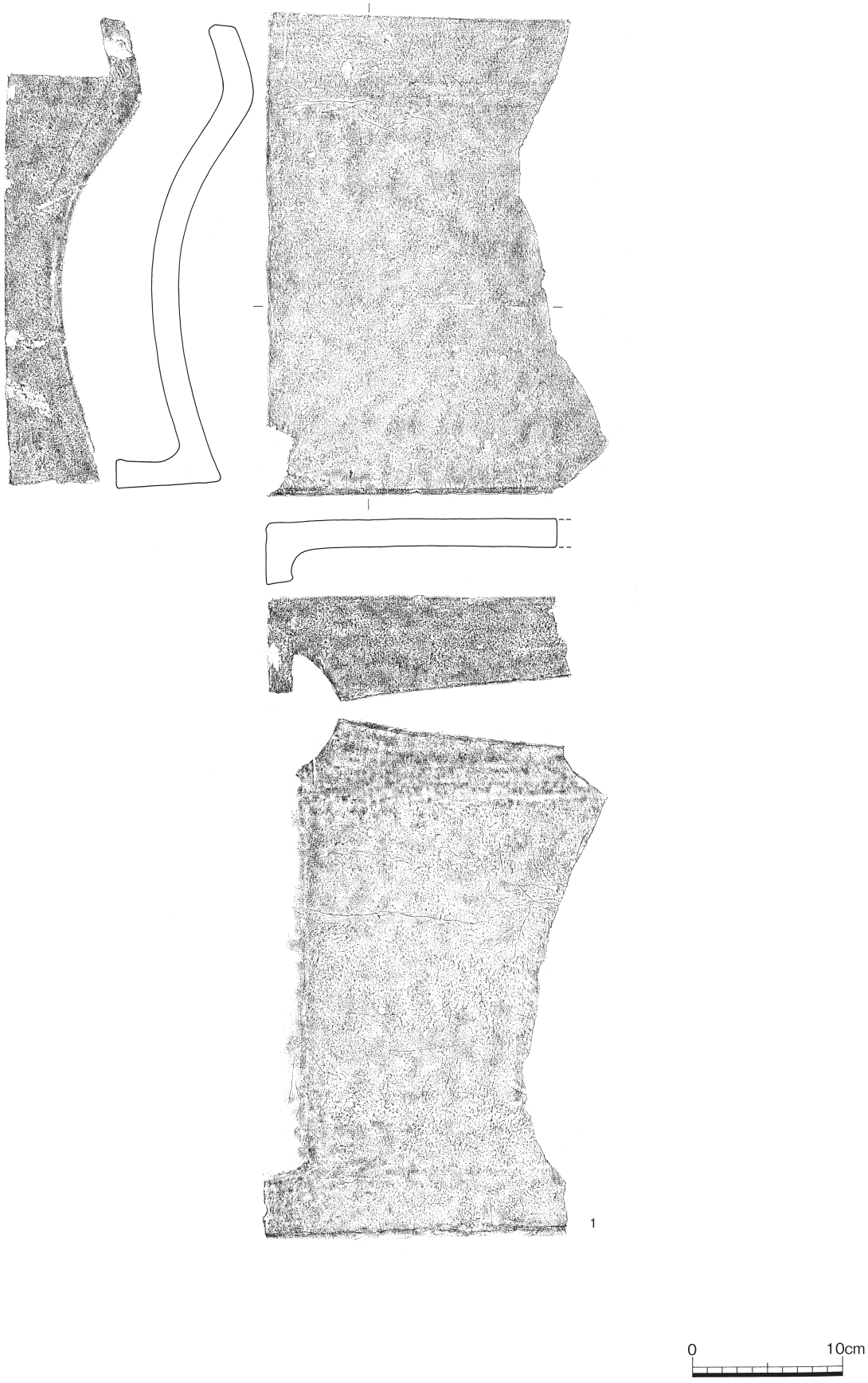
第26図　A区第1層、C区上層出土瓦（S＝1/4）



第27図　C区上層出土瓦（S＝1/4）



第28図　C区上層出土瓦（S＝1/4）



第29図　C区上層出土瓦（S＝1/4）

第１表　陶磁器・土器観察表

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種材質	法量a法量b	法量c法量d	遺存	釉薬絵付	胎土色調	産地	備考	実測番号
12	1	B	SA4下SA6・SA7上	向付陶器	6.0 4.0	5.2 －	口 3/12	藁灰釉 －	5Y8/1 灰白	肥前	足1残	N33
12	2	B	SA4下SA6・SA7上	皿陶器	－ 4.8	－ －	底 12/12	灰釉 －	7.5YR7/3 にぶい橙	肥前	見込砂目4残	N31
12	3	B	SA4下SA6・SA7上	土師器皿土器	10.4 内6.2	1.9 －	口 2/12		10YR7/4 にぶい黄橙	在地		N32
12	4	B	SA5前面	土師器皿土器	13.6 内9.6	2.3 －	口 2/12		10YR7/4 にぶい黄橙	在地		N34
12	5	B	SA9前面	皿陶器	13.6 4.8	3.9 －	口 2/12	灰釉 －	2.5Y5/6 明赤褐	肥前	見込砂目4残、高台砂目2残	N36
12	6	B	SA9前面	土師器皿土器	12.4 内8.0	2.4 －	口 3/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕2残	N35
12	7	B	SX1最下層	瓶磁器	－ －	－ 胴7.2	胴 5/12	透明釉 染付・色絵(赤・薄緑)	9/ 白	中国		T41
12	8	B	SX1最下層	碗陶器	10.0 －	－ －	口 2/12	鉄釉 －	2.5Y8/3 淡黄	越中瀬戸		T39
12	9	B	SX1粗砂層	土師器皿土器	13.0 内9.4	2.3 －	口 1/12		2.5Y8/2 灰白	在地	外底部ﾑｼﾛ痕	T38
12	10	B	SX1瓦溜	碗磁器	9.0 －	－ －	口 4/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前		T37
12	11	B	SX1瓦溜	皿磁器	15.0 8.8	3.4 －	口 1/12	透明釉	9/ 白	中国	漆継、高台無釉、被熱	T36
12	12	B	SX1瓦溜	皿磁器	13.2 5.4	3.4 －	口 3/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台砂付着、被熱	T35
12	13	B	SX1瓦溜	焼塩壺蓋土器	7.0 －	1.8 －	口 5/12		2.5YR7/6 橙	在地		T33
12	14	B	SX1瓦溜	土師器皿土器	11.0 内5.0	1.9 －	口 1/12		7.5YR8/3 浅黄橙	在地		T34
12	15	B	SX1砂利層	向付陶器	－ －	－ －	口 2/12	透明釉 鉄絵	5Y6/1 灰	肥前	絵唐津	T40
12	16	B	SX1粗砂層	小杯磁器	－ 2.4	－ －	底 9/12	透明釉 染付	9/ 白	中国		T42
12	17	B	SX1粗砂層	碗磁器	9.4 4.6	6.3 －	口 3/12	透明釉 染付	5Y8/1 灰白	肥前	高台内一重圏線、内外面貫入	T43
12	18	B	SX1粗砂層	碗磁器	10.0 －	－ －	口 2/12	透明釉 染付	5Y8/1 灰白	肥前		T45
12	19	B	SX1粗砂層	碗磁器	9.0 －	－ －	口 3/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前		T44
12	20	B	SX1粗砂層	碗磁器	11.0 4.2	4.9 －	底 7/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台・見込砂付着	T46
12	21	B	SX1粗砂層	皿磁器	14.0 6.2	2.9 －	口 5/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台砂付着、内外面貫入	T47
12	22	B	SX1粗砂層	皿陶器	13.6 4.6	2.9 －	口 1/12	灰釉 －	5Y7/1 灰白	肥前	見込砂目2残、高台砂目1残	T49
12	23	B	SX1粗砂層	皿陶器	14.0 4.6	3.4 －	口 2/12	灰釉 －	5Y7/1 灰白	肥前	見込・高台砂目各3残	T48
12	24	B	SX1粗砂層	すり鉢陶器	－ 10.6	－ －	底 2/12		2.5YR6/6 橙	肥前		T50
12	25	B	SX1粗砂層	土師器皿土器	12.0 内7.6	2.4 －	口 2/12		10YR8/4 浅黄橙	在地	油痕2/12以上	T52
12	26	B	SX1粗砂層	土師器皿土器	13.4 内8.8	2.1 －	口 2/12		10YR8/4 浅黄橙	在地		T51
12	27	B	SX1粗砂層	土師器皿土器	12.0 内6.4	2.3 －	口 1/12		10YR8/4 浅黄橙	在地		T53
12	28	B	SX1粗砂層	土師器皿土器	12.6 内6.0	2.5 －	口 1/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	油痕2残	T54
13	1	C	SX2内	皿陶器	－ 4.6	－ －	底 12/12	透明釉 鉄絵	7.5YR7/4 にぶい橙	肥前	高台内墨書、見込胎土目1残、焼成不良	E24
13	2	C	SX2	建水か陶器	－ 13.2	－ －	底 4/12	鉄釉 －	2.5Y7/1 灰白	越中瀬戸		E26
13	3	C	SX2内	すり鉢陶器	－ 14.0	－ －	底 2/12		10YR8/4 浅黄橙	越前	外面底部縄起こし痕	E23
13	4	C	SX2内	土師器皿土器	10.0 内5.2	2.1 －	口 3/12		10Y8/6 黄橙	在地		E21

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種 材質	法量a 法量b	法量c 法量d	遺存	釉薬 絵付	胎土 色調	産地	備考	実測番号
13	5	C	SX2内	土師器皿 土器	8.4 内4.4	2.0 -	口 3/12		7.5YR7/6 橙	在地		E22
13	6	C	SX3 下層	皿 磁器	14.4 -	- -	口 2/12	青磁釉 -	N8 灰白	肥前	内外面貫入	E37
13	7	C	SX3 下層	碗 陶器	11.4 4.4	7.2 -	底 12/12	鉄釉 -	10YR7/2 にぶい黄橙	越中瀬戸		E36
13	8	C	SX3 下層	皿 陶器	11.2 3.8	3.2 -	底 6/12	灰釉 -	7.5Y6/4 にぶい橙	肥前	見込胎土目2残	E28
13	9	C	SX3 下層	皿 陶器	12.4 7.0	2.8 -	底 8/12	長石釉 -	2.5Y8/2 灰白	美濃	口唇部欠け多い	E34
13	10	C	SX3 下層	向付 陶器	- 5.0	6.0 -	底 11/12	透明釉 鉄絵	2.5Y7/1 灰白	肥前	SK8と接合	E38
13	11	C	SX3 下層	すり鉢 陶器	- 9.0	- -	底 5/12		5YR5/3 にぶい赤褐	肥前	碁笥底、見込・高台胎土目跡各2残	E29
13	12	C	SX3 下層	香炉 陶器	- 6.9	3.5 -	底 2/12	灰釉 -	7/ 灰白	肥前	外面貫入	E35
13	13	C	SX3 下層	土師器皿 土器	11.2 内7.8	2.2 -	底 3/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	油痕1以上、内外面剥離	E30
13	14	C	SX3 下層	土師器皿 土器	10.8 内6.4	2.2 -	底 2/12		10YR6/2 灰黄褐	在地		E33
13	15	C	SX3 下層	土師器皿 土器	11.2 内5.6	2.3 -	口 5/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	外面全面油痕	E32
13	16	C	SX3 下層	土師器皿 土器	9.6 内5.2	2.3 -	口 3/12		7.5YR7/6 橙	在地		E31
13	17	C	SX3 上層	ﾐﾆﾁｭｱ碗 磁器	2.8 1.4	1.5 -	口 6/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前		E25
13	18	C	SX3 上層	皿 磁器	9.6 5.6	2.2 -	底 6/12	透明釉 染付	9/ 白	瀬戸	型打、輪花12弁	E27
13	19	B	SD01 裏込	碗 陶器	8.0 3.6	- 3.8	口 3/12	灰釉 -	N7/1 灰白	肥前		N29
13	20	B	SD検出土	皿 陶器	13.2 5.4	3.4 -	口 4/12	灰釉 -	7.5YR5/4 にぶい褐	肥前	見込・高台砂目各3残	N26
13	21	B	SD01 裏込	すり鉢 陶器	34.0 -	- -	口 2/12	鉄釉 -	2.5YR5/2 灰赤	肥前		N30
13	22	B	SD01 裏込	土師器皿 土器	11.2 内5.6	2.1 -	口 3/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	油痕2残	N28
14	1	B	SE1内 掘方	小杯 磁器	- 3.2	- -	底 9/12	透明釉 -	9/ 白	肥前	高台砂付着	F19
14	2	B	SE1内 掘方	土師器皿 土器	- -	- -	口 1/12		7.5YR7/4 にぶい橙	在地	油痕1/12以上	F22
14	3	B	SE1内 下炭層	小杯 磁器	4.7 -	- -	口 3/12	透明釉 染付	9/ 白	中国か		F17
14	4	B	SE1内 下炭層	皿 磁器	13.2 8.0	3.1 -	底 12/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台砂付着、輪花16弁	F18
14	5	B	SE1内 下炭層	鉢 磁器	19.0 -	- -	口 2/12	青磁釉 -	2.5Y8/1 灰白	肥前	内外面貫入	F20
14	6	B	SE1内 下炭層	向付 陶器	- -	- -		緑釉・長石釉 鉄絵	2.5Y7/1 灰	美濃	青織部、内外面貫入	F21
14	7	B	SE1内 下炭層	土師器皿 土器	12.4 内7.6	2.4 -	口 4/12		10YR8/3 浅黄橙	在地		F15
14	8	B	SE1内 下炭層	土師器皿 土器	11.1 内6.4	2.2 -	口 5/12		10YR8/3 浅黄橙	在地		F16
14	9	B	SE1内 下炭層	土師器皿 土器	10.2 内4.4	2.2 -	口 5/12		10YR8/2 灰白	在地	油痕5/12以上、内外面黒斑	F12
14	10	B	SE1内 下炭層	土師器皿 土器	11.2 内5.8	2.6 -	口 6/12		10YR8/2 灰白	在地	内面ｽｽ付着	F13
14	11	B	SE1内 下炭層	土師器皿 土器	8.0 内3.6	1.8 -	口 3/12		10YR8/2 灰白	在地	内外面黒色付着物	F14
14	12	B	SE1内 上層	皿 磁器	- 6.0	- -	底 2/12	透明釉 色絵(赤・金)	9/ 白	九谷	蛇目凹形高台、内面赤、金、赤文字、色見か	M45
14	13	B	SK3	土師器皿 土器	12.0 内8.0	2.3 -	口 2/12		7.5YR7/4 にぶい橙	在地	油痕全周	N19
14	14	B	SK3	土師器皿 土器	10.8 内6.2	2.3 -	口 10/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地		N16
14	15	B	SK3	土師器皿 土器	10.8 内5.6	2.1 -	口 4/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕1残	N17

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種 材質	法量a 法量b	法量c 法量d	遺存	釉薬 絵付	胎土 色調	産地	備考	実測番号
14	16	B	SK3	土師器皿 土器	7.6 内4.2	2.1 -	口 2/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	油痕1残	N18
14	17	B	SK1	碗 磁器	9.7 4.6	7.0 -	底 12/12	透明釉 染付	N8 灰白	肥前	被熱	F3
14	18	B	SK1	碗 磁器	9.6 6.0	6.0 -	口 4/12	透明釉 染付	N8 灰白	肥前	高台内一重圏線A	F9
14	19	B	SK1	碗 磁器	8.8 -	- -	口 4/12	透明釉 染付	N8 灰白	肥前		F4
14	20	B	SK1	皿 磁器	14.4 8.3	2.7 -	口 4/12	透明釉 染付	N8 灰白	肥前	高台内一重圏線A、見込目跡1残、被熱	F8
14	21	B	SK1	皿 磁器	12.6 7.5	2.8 -	口 4/12	透明釉 染付	N8 灰白	肥前	高台内一重圏線A	F5
14	22	B	SK1	皿 陶器	13.0 4.0	3.2 -	口 4/12	外面：透明釉 内面：銅緑釉	5Y7/ 灰白	肥前	見込蛇目釉剥、見込砂目1残、B区SX1粗砂層と接合	F6
14	23	B	SK1	皿 陶器	14.4 6.0	3.6 -	口 6/12	灰釉 鉄釉	7.5YR7/3 にぶい橙	越中瀬戸	見込無釉	F7
14	24	B	SK1	皿 陶器	13.0 5.6	3.1 -	口 7/12	灰釉 印花	7.5YR7/3 にぶい橙	越中瀬戸	見込無釉、SX1粗砂層と接合	F1
14	25	B	SK1	すり鉢 陶器	- -	- -	口 1/12以下	鉄釉 -	10YR7/1 灰白	肥前		F2
14	26	B	SK1	煉瓦	(15.2) 10.9	5.4 -			10YR5/4 赤褐		1,160g	F10
14	27	B	SK1	煉瓦	(9.8) 11.2	5.1 -			5YR7/6 橙		605g	F11
14	28	B	SK1	窯道具 土製品	(14.0) (4.3)	(2.4) -			10YR8/3 浅黄橙			Q67
14	29	B	SK1	碗 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤)	10YR8/1 灰白	九谷	内面と割口に赤、色見か	M42
14	30	B	SK1	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・桃・不明・金)	10YR8/1 灰白	九谷	内面に赤・桃・不明、外面に赤、金、割口に赤、色見か	M41
14	31	B	SK1	皿 磁器	- 12.0	- -	底 1/12	透明釉 色絵(赤)	10YR8/1 灰白	九谷	高台内に赤,見込に赤文字,色見か	M40
15	1	B	SK2 最下層	小杯 磁器	5.8 -	- -	口 4/12	透明釉 染付	10YR8/2 灰白	肥前		T16
15	2	B	SK2 最下層	碗 陶器	- 4.6	- -	底 7/12	鉄釉 -	2.5Y6/8 橙	肥前		T9
15	3	B	SK2 最下層	土師器皿 土器	16.0 内10.0	2.7 -	口 1/12		10YR8/2 灰白	在地	見込油痕	T15
15	4	B	SK2 最下層	土師器皿 土器	10.6 内5.8	2.8 -	口 3/12		10YR8/2 灰白	在地	口縁歪み有	T7
15	5	B	SK2 最下層	土師器皿 土器	11.0 内6.8	2.2 -	口 3/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕3/12以上	T8
15	6	B	SK2 中層南	碗 磁器	8.8 4.6	7.2 -	口 9/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台砂付着	T4
15	7	B	SK2 中層南	皿 磁器	13.8 5.6	3.4 -	口 9/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台砂付着、SX1瓦溜と接合	T5
15	8	B	SK2 中層南	碗 陶器	8.0 -	- -	口 2/12	鉄釉・長石釉掛分 -	2.5Y7/1 灰白	瀬戸美濃	漆継	T3
15	9	B	SK2 中層南	碗 陶器	10.2 -	- -	口 2/12	鉄釉 -	5Y7/1 灰白	不明		T6
15	10	B	SK2 中層南	土師器皿 土器	10.8 内5.0	2.5 -	口 6/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕6/12以上	T1
15	11	B	SK2 中層南	土師器皿 土器	10.8 内5.4	2.2 -	口 3/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	外面底部ヘラ起こし痕	T2
15	12	B	SK2 上層	焼塩壷 土器	- 4.0	- 胴6.2	底 4/12		7.5YR8/4 浅黄橙	在地		T11
15	13	B	SK2 上層	土師器皿 土器	11.0 内5.0	2.2 -	口 4/12		7.5YR8/4 浅黄橙	在地	外面底部ヘラ起こし痕	T10
15	14	B	SK2 SA12前面	碗 陶器	- 4.6	- -	底 8/12	灰釉 -	5Y7/1 灰白	肥前	内外面貫入	T31
15	15	B	SK2 SA12前面	瓶 陶器	- -	- 胴6.0	胴 4/12	灰釉 -	5YR6/4 にぶい橙	肥前		T13

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種材質	法量a法量b	法量c法量d	遺存	釉薬絵付	胎土色調	産地	備考	実測番号
15	16	B	SK2 SA12前面	土師器皿 土器	10.8 内6.6	2.5 -	口 6/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕2残、外底部ﾊｼﾛ痕	T12
15	17	B	SK2 中層南	碗 磁器	- -	- -		透明釉 染付	9/ 白	中国	高台内ｶﾝﾅ目	T25
15	18	B	SK2 中層南	鉢 磁器	- -	- -	口 1/12以下	透明釉 染付	9/ 白	中国		T26
15	19	B	SK2	碗 陶器	10.8 -	- -	口 3/12	鉄釉・藁灰釉 -	N7 灰白	北九州系	漆継	T24
15	20	B	SK2	碗 陶器	9.8 4.4	7.1 -	口 3/12	鉄釉 -	7.5Y7/1 灰白	越中瀬戸		T20
15	21	B	SK2	小杯 陶器	8.6 4.0	3.7 -	口 3/12	灰釉 -	7.5Y7/1 灰白	肥前	底部回転糸切、SK2中層南と接合	T23
15	22	B	SK2	皿 陶器	10.0 5.6	2.0 -	口 2/12	灰釉 -	5Y8/1 灰白	瀬戸美濃	高台内砂付着、貫入	T28
15	23	B	SK2	皿 陶器	13.6 4.6	3.4 -	口 5/12	灰釉 -	2.5Y7/1 灰白	肥前	内面見込・外面高台に砂目各2残、B区SK3・SX9と接合	T18
15	24	B	SK2	皿 陶器	13.6 5.2	3.0 -	口 2/12	灰釉 -	5YR6/6 橙	肥前	見込に砂目3残、高台に砂目2残、SK2上層と接合	T17
15	25	B	SK2	建水か 陶器	16.0 -	- -	口 2/12	透明釉 鉄絵	10YR7/1 灰白	肥前		T14
15	26	B	SK2	すり鉢 陶器	27.8 -	- -	口 1/12	鉄泥 -	10YR8/3 浅黄橙	越中瀬戸		T21
15	27	B	SK2	すり鉢 陶器	30.0 -	- -	口 1/12	鉄釉 -	7.5YR7/4 にぶい橙	肥前		T22
15	28	B	SK2	土師器皿 土器	12.0 内7.8	1.9 -	口 1/12		10YR8/2 灰白	在地	全面金箔	T27
15	29	B	SK2	土師器皿 土器	10.0 内3.8	2.1 -	口 3/12		5Y7/1 灰白	在地	SK2中層南と接合	T19
15	30	B	SK2	土師器皿 土器	9.2 内4.6	2.0 -	口 6/12		2.5Y8/3 淡黄	在地	口縁歪み	T29
15	31	B	SK2	土師器皿 土器	10.0 内5.6	2.5 -	口 2/12		2.5Y8/3 淡黄	在地		T30
16	1	B	SK4	馬上杯 磁器	- 3.8	- -	底 12/12	透明釉 色絵(赤)	7.5Y8/1 灰白	九谷	赤文字「吉きた」	N25
16	2	B	SK4	皿 瓦質土器	- (16.0)	- -	底 1/12		5Y8/1 灰白	不明		N24
16	3	B	SK5	皿 陶器	16.0 -	- -	口 1/12	灰釉(白) -	7.5YR6/4 にぶい橙	肥前	見込砂目跡1残	N21
16	4	B	SK5	甕 陶器	22.0 -	- -	口 1/12	鉄釉 -	2.5YR5/6 明赤褐	常滑か?		N23
16	5	B	SK5	すり鉢 陶器	- -	- -	口 1/12以下		5Y5/1 灰	越前		N22
16	6	B	SK5	土師器皿 土器	11.6 内7.4	- -	口 2/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地	油痕1残	N20
16	7	B	SK6 下層	小杯 磁器	5.0 2.2	2.4 -	完形	透明釉 -	9/ 白	肥前		M11
16	8	B	SK6 下層	碗 陶器	- 5.3	- -	底 12/12	透明釉・白泥 染付	6/ 灰	肥前	全面白泥、貫入	M2
16	9	B	SK6 下層	すり鉢 陶器	28.4 -	- -	口 2/12		2.5YR5/6 明赤褐	肥前		M1
16	10	B	SK6 下層	すり鉢 陶器	31.0 -	- -	口 2/12	鉄釉 -	7.5R3/2 暗赤褐	肥前		M5
16	11	B	SK6 下層	土師器皿 土器	12.0 内7.6	2.7 -	口 3/12		7.5YR7/4 にぶい橙	在地	油痕3/12以上	M12
16	12	B	SK6 下層	土師器皿 土器	11.0 内6.3	2.2 -	完形		5YR7/4 にぶい橙	在地	SK6上層と接合、油痕全周	M10
16	13	B	SK6 下層	土師器皿 土器	8.6 内4.0	2.1 -	完形		10YR8/2 灰白	在地	油痕1残	M6
16	14	B	SK6 下層	土師器皿 土器	12.4 内8.5	2.0 -	口 8/12		10YR7/4 にぶい黄橙	在地	油痕4以上	M9
16	15	B	SK6 下層	土師器皿 土器	15.4 内9.2	2.9 -	口 6/12		2.5YR7/2明赤灰	在地	SK6上層と接合、内外底部黒斑	M4
16	16	B	SK6 下層	土師器皿 土器	11.0 内6.0	2.4 -	ほぼ完形		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕10/12以上	M13

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種材質	法量a法量b	法量c法量d	遺存	釉薬絵付	胎土色調	産地	備考	実測番号
16	17	B	SK6下層	土師器皿土器	11.0内5.4	2.7-	完形		5YR7/4にぶい橙	在地	油痕8残	M8
16	18	B	SK6下層	土師器皿土器	11.2内6.2	1.8-	完形		7.5YR7/4にぶい橙	在地	油痕全周	M3
16	19	B	SK6南側上層	土師器皿土器	8.0内4.0	--	口3/12		10YR7/2にぶい黄橙	在地		E2
16	20	B	SK6畦炭層	土師器皿土器	10.2内5.6	2.0-	口3/12		10YR6/3にぶい黄橙	在地		E6
16	21	B	SK6南側上層	土師器皿土器	11.0内5.0	2.3-	口6/12		7.5YR7/3にぶい橙	在地		E1
16	22	B	SK6南側上層	土師器皿土器	11.2内6.2	2.6-	口8/12		10YR7/4にぶい黄橙	在地	油痕8/12以上、内外面剥離	E3
17	1	B	SK6上層	碗磁器	8.45.0	5.6-	底2/12	透明釉染付	9/白	肥前	高台内二重圏線A、型紙刷	E9
17	2	B	SK6上層	碗磁器	11.6-	--	口3/12	透明釉・鉄釉-	8/灰白	肥前	掛分	E7
17	3	B	SK6上層	皿磁器	13.68.2	2.5-	底7/12	透明染付	8/灰白	肥前	高台内一重圏線B、ﾊﾘ目1、墨弾	E8
17	4	B	SK6上層	皿磁器	10.45.3	2.5-	底12/12	透明釉染付	9/白	肥前	口縁歪み、高台砂付着、輪花32弁	E11
17	5	B	SK6上層	鉢磁器	15.2-	--	口3/12	透明釉染付	9/白	中国		M16
17	6	B	SK6上層	碗陶器	12.74.7	5.3-	口8/12	透明釉白泥	5YR7/4にぶい橙	肥前	見込蛇目釉剥、被熱	M7
17	7	B	SK6上層	土師器皿土器	11.4内7.0	2.2-	口7/12		5YR7/6橙	在地	油痕7/12以上、	E5
17	8	B	SK6上層	土師器皿土器	11.4内7.8	2.1-	口9/12		7.5YR7/3にぶい橙	在地	油痕9/12以上、	E13
17	9	B	SK6上層	土師器皿土器	9.1内4.6	2.0-	口3/12		10YR8/3浅黄橙	在地	油痕3/12以上	E12
17	10	B	SK6上層	土師器皿土器	--	--			7.5YR8/3浅黄橙	在地	油痕、鉱滓に溶着	M39
17	11	B	SK6上層	壺か土器	--	-胴24.5	胴4/12		7.5YR7/3にぶい橙		内面：ﾊｹ調整、外面：ﾅﾃﾞ・ｹｽﾞﾘ調整	E14
17	12	B	SK6東側上層	すり鉢陶器	26.4-	--	口2/12	鉄釉-	10YR4/4赤褐	肥前		E4
17	13	B	SK8	角皿磁器	--	--	底3/12	透明釉染付	9/白	中国		Q4
17	14	B	SK8	香炉陶器	11.29.2	6.6-	口4/12	灰釉-	10YR8/3浅黄橙	越中瀬戸	足1残、被熱、外面櫛書	Q1
17	15	B	SK8上層	土師器皿土器	10.2内6.4	2.4-	口4/12		10YR7/4にぶい黄橙	在地		Q2
17	16	B	SK8	土師器皿土器	11.2内6.7	2.7-	口3/12		10YR8/3浅黄橙	在地	口縁歪み	Q3
17	17	C	SK16	片口鉢陶器	20.0-	--	口1/12	灰釉-	10YR7/3にぶい黄橙	須佐		M26
17	18	C	SK17	すり鉢陶器	36.0-	--	口1/12	鉄釉-	10YR4/4赤褐	肥前		M23
17	19	C	SK17	鉢か磁器	--	--		透明釉色絵(赤・金)	10YR8/1灰白	九谷	内面赤塗後、金彩、外面赤塗白抜文字、色見か	Q60
18	1	B	SK7最下層	碗磁器	8.0-	--	口1/12	透明釉染付	9/白	中国		N10
18	2	B	SK7最下層	皿磁器	-12.2	--	底2/12	透明釉染付	N7/1灰白	中国	高台内小石付着	N7
18	3	B	SK7最下層	皿磁器	15.46.0	3.013.3	口9/12	透明釉染付	9/白	肥前	輪花、口紅(鉄釉)、高台小石付着	N14
18	4	B	SK7最下層	碗陶器	11.6-	--	口2/12	鉄釉-	2.5Y7/2浅黄	越中瀬戸	胴部に凹み1	N8
18	5	B	SK7最下層	皿陶器	13.26.0	3.3-	口5/12	灰釉鉄釉流掛	7.5YR5/4にぶい褐	肥前	見込胎土目跡2残	N6
18	6	B	SK7最下層	皿陶器	12.85.0	3.6-	口3/12	灰釉-	7.5YR5/4にぶい褐	肥前	見込・高台砂目跡残	N9
18	7	B	SK7最下層	すり鉢陶器	-11.8	--	底3/12		10YR8/4浅黄橙	越中瀬戸		N5
18	8	B	SK7最下層	鋳型土器	-18.4	--	底5/12		10YR7/3にぶい黄橙	在地	SK2最下層と接合	N4

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種材質	法量a法量b	法量c法量d	遺存	釉薬絵付	胎土色調	産地	備考	実測番号
18	9	B	SK7最下層	土師器皿土器	11.8内8.0	3.0-	口5/12		10YR8/3浅黄橙	在地	油痕2残	N13
18	10	B	SK7最下層	土師器皿土器	11.6内7.6	2.6-	口7/12		2.5Y8/2灰白	在地	SK2最下層と接合 外底部ﾑｼﾛ痕	N11
18	11	B	SK7最下層	土師器皿土器	12.2内8.0	2.8-	口4/12		10YR8/4浅黄橙	在地	油痕2残	N12
18	12	A	SK13	碗磁器	9.05.5	6.1-	底12/12	透明釉染付	9/白	肥前	高台内一重圏線A・「大明年製」	M18
18	13	A	SK13	碗磁器	8.65.4	6.1-	口1/12以下	透明釉染付	9/白	肥前	高台内一重圏線A・「大明年製」	M15
18	14	A	SK13	皿磁器	14.08.4	2.9-	底3/12	透明釉染付	9/白	肥前	高台内一重圏線A	M14
18	15	A	SK13	小杯磁器	4.42.3	3.6-	口10/12	透明釉-	9/白	肥前		M21
18	16	A	SK13	碗陶器	11.45.0	7.1-	底12/12	透明釉白泥	5YR7/4にぶい橙	肥前	刷毛目、体部凹2残	M20
18	17	A	SK13	碗陶器	-5.0	---	底12/12	透明釉-	2.5Y8/1灰白	肥前	高台砂目3残	M19
18	18	A	SK13	すり鉢陶器	31.0-	---	口1/12	鉄泥-	5YR7/4にぶい橙	須佐	SK15と接合	M17
18	19	A	SK13	土師器皿土器	11.6内6.6	1.8-	口3/12		10YR7/3にぶい黄橙	在地		M24
18	20	A	SK13	土師器皿土器	10.8内6.6	2.6-	口4/12		7.5YR7/4にぶい橙	在地	油痕4/12以上	M22
18	21	C	SK21	不明磁器	-6.0	---	底3/12	透明釉-	9/白	不明		Q61
18	22	C	SK21	碗磁器	12.4-	---	口1/12以下	透明釉染付・色絵(赤)	9/白	肥前		M25
19	1	B	SK11	碗磁器	11.2-	---	口3/12	透明釉染付	9/白	肥前		Q8
19	2	B	SK11	碗磁器	-5.8	---	底4/12	透明釉染付	9/白	中国	高台内ｶﾝﾅ目	Q7
19	3	B	SK11	碗磁器	7.0-	---	口1/12以下	透明釉-	9/白	肥前	外面鎬	Q19
19	4	B	SK11	小杯磁器	-2.4	---	底12/12	透明釉染付	9/白	中国	高台内「大明成化年製」	Q18
19	5	A	SK11	皿磁器	13.27.2	2.7-	口1/12	透明釉染付	8/灰白	中国		Q17
19	6	A	SK11	碗陶器	11.6-	---	口1/12	鉄釉-	10YR7/2にぶい黄橙	越中瀬戸	畳付砂付着	Q15
19	7	A	SK11	碗陶器	13.4-	---	口5/12	長石釉-	5Y8/2灰白	美濃	SK12接合	Q16
19	8	A	SK11	碗陶器	9.64.3	6.6-	口1/12	灰釉-	5YR4/1褐灰	肥前	被熱	Q11
19	9	A	SK11	碗陶器	11.64.6	6.1-	口2/12	灰釉-	2.5Y7/2灰黄	越中瀬戸	被熱、内面ｽｽ付着	Q12
19	10	B	SK11	皿陶器	11.34.1	2.8-	口6/12	灰釉-	2.5YR7/1灰白	肥前	SK21と接合	Q5
19	11	B	SK11	皿陶器	11.67.2	2.8-	底3/12	長石釉-	10YR8/3浅黄橙	美濃	志野	Q6
19	12	B	SK11	向付陶器	12.5-	-最大径12.9	口3/12	透明釉鉄絵	7.5YR7/3にぶい橙	肥前		Q9
19	13	A	SK11	壺陶器	10.7-	---	口1/12		10YR7/1灰白	信楽	降灰、自然釉	Q13
19	14	A	SK11	天目台陶器	-9.4	-最大径17.6	底3/12	鉄釉-	10YR8/2灰白	越中瀬戸	被熱	Q14
19	15	A	SK11	土師器皿土器	9.6内5.8	2.0-	口2/12		10YR4/1褐灰	在地	SK11と接合、内外面油痕、内面ﾊｹ目	Q27
19	16	A	SK11	土師器皿土器	10.4内6.9	2.5-	口1/12		10YR8/3浅黄橙	在地	内面ﾊｹ目、黒斑	Q21
19	17	A	SK11	土師器皿土器	16.4内12.1	2.1-	口2/12		10YR8/3浅黄橙	在地	見込ﾊｹ目	Q22
19	18	A	SK11	土師器皿土器	8.2内4.4	2.2-	口2/12		10YR8/4浅黄橙	在地		Q20
19	19	A	SK11	土師器皿土器	8.4内3.2	2.0-	口2/12		7.5YR7/6橙	在地		Q25

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種 材質	法量a 法量b	法量c 法量d	遺存	釉薬 絵付	胎土 色調	産地	備考	実測番号
19	20	B	SK11	土師器皿 土器	11.9 内6.8	2.2 -	口 5/12		10YR8/3 浅黄橙	在地	油痕5/12以上、見込油痕	Q10
19	21	A	SK11	土師器皿 土器	13.9 内9.3	2.4 -	口 8/12		7.5YR7/4 にぶい橙	在地	外底部ﾑｼﾛ痕	Q24
19	22	A	SK11	土師器皿 土器	12.2 内8.2	2.4 -	口 2/12		10YR8/4 浅黄橙	在地		Q23
19	23	A	SK11	土師器皿 土器	8.8 内5.2	- -	口 2/12		10YR7/3 にぶい黄橙	在地		Q26
19	24	B	SP1	蓋 磁器	9.0 1.9	3.8 7.1	口 6/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	漆継	N38
19	25	B	SP1	碗 陶器	14.0 5.8	7.7 -	底 12/12	灰釉 -	5Y7/1 灰白	京・信	漆継、被熱	N37
19	26	B	SP1	土師器皿 土器	11.0 内6.2	2.2 -	口 3/12		10YR7/4 にぶい黄橙	在地	油痕1残	N39
19	27	B	SP2	土師器皿 土器	12.0 内7.8	1.5 -	口 3/12		7.5YR7/4 にぶい橙	在地	油痕2残	N40
19	28	B	3層(砂層)	すり鉢 陶器	30.3 -	- -	口 1/12	鉄泥 -	10YR8/3 浅黄橙	越中瀬戸		Q31
19	29	B	第2層下黄砂	皿 磁器	12.4 4.7	3.2 -	口 6/12	透明釉 染付	N8/ 灰白	肥前	高台内礫付着	Q30
19	30	B	第2層下黄砂	碗 磁器	9.4 5.5	6.7 -	口 3/12	透明釉 染付	N8/ 灰白	肥前	高台畳付砂目	Q28
19	31	B	第2層下黄砂-砂利上面	皿 陶器	13.0 5.1	3.2 -	口 1/2	鉄釉掛分 -	10YR8/3 浅黄橙	越中瀬戸		Q29
19	32	B	第2層下黄砂	皿 磁器	- 9.1	- -	底 1/12	透明釉 色絵(緑・赤・朱)	10YR8/1 灰白	九谷	色見か	Q63
20	1	A	第1層	甕 陶器	20.9 14.7	25.0 -	口 2/12	鉄釉 -	10R5/8 赤色	肥前	内外面・内面底部ﾀﾀｷ	M39
20	2	A	第1層	壺 陶器	10.6 -	- -	口 1/12		8/ 灰白	信楽	自然釉	M32
20	3	A	第1層	すり鉢 陶器	37.6 18.6	15.0 -	底 12/12	鉄釉 -	10YR5/1 褐灰	北陸系	見込・高台胎土目5残	E39
21	1	B	第1層	片口鉢 陶器	18.9 7.6	9.3 最大幅 22.0	口 2/12	灰釉 鉄絵	5YR6/1 褐灰	肥前	見込・高台胎土目3残	M34
21	2	B	第1層	紅皿 磁器	7.1 2.4	2.5 -	口 6/12	透明釉 染付・色絵(赤)	9/ 白	肥前		M35
21	3	B	第1層	皿 磁器	- 10.8	- -	底 1/12	透明釉 色絵(赤)	7.5YR8/1 灰白	九谷	上絵付窯製品か	M36
21	4	B	第1層	皿か鉢 陶器	- -	- -		透明釉 色絵	10YR8/1 灰白	九谷	色絵(赤・黒・緑・金・不明)	M49
21	5	B	第1層	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤)	7.5YR8/1 灰白	九谷	上絵付窯製品か	M37
21	6	B	第1層	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・金)	9/ 白	九谷	色見か	M51
21	7	B	第1層	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・茶・黒・不明)	10YR8/1 灰白	九谷	色見か	M46
21	8	B	第1層	不明 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・金・不明)	10YR8/1 灰白	九谷	色見か、金は記号か	M47
21	9	B	第1層	不明 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・金・不明)	9/ 白	九谷	色見か、金は記号か	M50
21	10	B	第1層	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤・金・黒)	10YR8/1 灰白	九谷	色見か、金は記号か	M48
21	11	B	第1層	皿 磁器	- -	- -		透明釉 色絵(赤)	7.5YR8/1 灰白	九谷	上絵付窯製品か	M38
21	12	B	第1層	窯道具 陶器	- 7.2	- -	底 2/12	灰釉 -	2.5Y8/2 灰白色	京・信か	内面と外底部・割口に赤色顔料付着	Q68
21	13	B	最下層	皿 陶器	10.6 5.1	2.05 -	口 2/12	灰釉 -	2.5Y8/1 灰白	瀬戸美濃	貫入	Q34

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種 材質	法量a 法量b	法量c 法量d	遺存	釉薬 絵付	胎土 色調	産地	備考	実測番号
21	14	C	下層	碗 磁器	10.3 4.85	6.7 －	口 9/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台内一重圏線A、高台内砂付着	Q35
21	15	A	上層	鉢 磁器	－ －	－ －		透明釉 色絵(金・赤・黒・緑・茶)・金彩	9/ 白	肥前		M44
21	16	A	上層	秉燭 土器	4.7 2.4	2.4 芯径 1.1	底 12/12		10YR7/2 にぶい黄橙	在地		M33
21	17	A	上層	鉢 磁器	－ －	－ －		透明釉 色絵(赤・不明)	9/ 白	九谷	色見か	M43
21	18	B	整地層畦	すり鉢 陶器	(36.8) －	－ －	口 1/12以下		5Y6/1 灰	備前		Q32
21	19	B	土台下 下層	皿 磁器	13.7 5.0	4.1 －	口 8/12	青磁釉 －	N8 灰白	肥前	見込刻花、畳付砂付着	Q33
21	20	B	土台下 下層	皿 陶器	14.0 5.0	4.0 －	口 4/12	灰釉(白) －	2.5Y8/2 灰白	肥前	見込砂目跡2残	N15
21	21	B	土台下 上層	皿 磁器	14.4 5.8	3.5 －	底 10/12	透明釉 染付	9/ 白	肥前	高台内一重圏線B、輪花5弁	E10
21	22	B	土台下 上層	碗 磁器	－ －	－ －		透明釉 色絵(青か・緑か・薄紫)	9/ 白	九谷	色見か	Q64
21	23	B	土台下 上層	不明 磁器	－ －	－ －		透明釉 色絵(赤・金・不明)	9/ 白	九谷	色見か、金は記号か	Q65
21	24	B	土台下 上層	不明 磁器	－ －	－ －		透明釉 色絵(赤・薄紫・不明2色)	9/ 白	九谷	色見か	Q66

第２表　瓦観察表

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	種別 表面処理	胎土色	釉色 表面色	礫	砂	法量a 法量b	法量c 法量d	備考	実測番号
23	1	B	SE1	平瓦 いぶし	N8 灰白色	N4 灰色	－	並	29.8 25.5	2.4 －		E15
23	2	B	SE1	平瓦 いぶし	N8 灰白色	N4 灰色	－	並	27.1 22.7	2.7 －		E16
23	3	B	第2層下 瓦溜	平瓦 いぶし	N7 灰白色	N4 灰色	－	並	(13.0) 20.2	1.8 －	刻印	T32
24	1	A	第1層	桟瓦 全面施釉	2.5YR5/8 明赤褐色	N1.5/0 黒色	少	少	(23.0) (16.4)	1.6 －	刻印、 光沢有	M30
24	2	A	第1層	桟瓦 全面施釉	7.5YR8/6 浅黄橙色	N1.5/0 黒色	少	少	30.6 (18.9)	1.8 －	刻印、 光沢有	M31
25	1	A	第1層	桟瓦 全面施釉	7.5YR7/6 橙色	N1.5/0 黒色	少	並	30.0 (22.6)	1.9 －	刻印、 光沢有	M27
25	2	A	第1層	桟瓦 全面施釉	5YR7/6 橙色	5YR3/6 暗赤褐色	少	－	30.0 (27.1)	1.85 －	穿孔1、 その孔に 針金有	M28
26	1	A	第1層	桟瓦 全面施釉	10YR5/8 赤色	10YR1.7/1 赤黒色	少	少	(23.0) (18.2)	2.0 －	刻印、 光沢無	M29
26	2	C	上層	桟瓦 全面施釉	10YR7/6 明黄褐色	5YR2/1 黒褐色	少	少	26.5 (11.7)	1.9 －	刻印、 光沢有	E42
27	1	C	上層	桟瓦 全面施釉	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR1.7 黒色	－	－	26.8 30.8	2.0 －	刻印、 光沢有	E43
27	2	C	上層	桟瓦 全面施釉	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR2/1 黒色	－	－	(11.4) (14.2)	1.6 －	刻印、 光沢有	E41
28	1	C	上層	鬼瓦 全面施釉	5YR6/6 橙色	2.5YR2/1 赤黒色	－	－	18.5 (20.0)	1.8 (9.0)	e:7.7 穿孔2	E44
28	2	C	上層	面戸瓦 全面施釉	7.5YR8/3 浅黄橙色	N2/1 黒色	－	－	15.4 3.4	1.6 4.8	刻印、 光沢有 針金	E40
28	3	C	上層	軒桟瓦 全面施釉	5YR7/6 橙色	N1.5/0 黒色	少	少	(26.5) 30.8	2.0 9.5	刻印、 光沢有	M40
29	1	C	上層	軒鎌桟瓦 全面施釉	7.5YR8/6 浅黄橙色	N1.5/0 黒色	少	少	(23.3) 30.0	1.85 9.2	刻印、 光沢有	M39

第３表　石製品観察表

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器種	法量				色調	備考	実測番号
					長さ	幅	厚さ	重量(g)			
22	1	B	SK1	切石	(20.0)	(13.6)	13.0	4800	2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色	粗粒	N3
22	2	B	SK8	茶臼	(44.0)			495	10YR6/3 にぶい黄橙色	細粒、割口を一部砥石として転用	N2
22	3	B	SK8	砥石	7.5	4.9	1.0	64.27	2.5Y7/3 浅黄色	細粒	N1

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器　種	法　量				色調	備　　考	実測番号
					長さ	幅	厚さ	重量(g)			
22	4	C	SX3 上層	容器か	7.4	(5.4)	1.5	78.39	10Y8/ 灰白	粗粒、側面に工具痕	E18
22	5	B	第2層 黄砂	碁石	2.2		0.4	3.22	N1.5/ 黒	細粒、完形	E17
22	6	B	検出土	不明	(2.6)	1.8	0.8	10.33	2.5GY7/1明 ｵﾘｰﾌﾞ灰色	細粒	N27
22	7	B	第1層	不明	(6.5)	(10.7)	(2.6)	226	7.5Y7/ 灰白	粗粒	E20
22	8	B	土台下 上層	容器か	22.0	12.8	6.0	1430	2.5Y8/1 灰白	粗粒	E19

第４表　金属製品観察表

図版番号	番号	発掘区	遺構層位	器　種	法　量					材質	備　　考	実測番号
					a	b	c	d	重量			
22	17	B	SX1 瓦溜	煙管吸口	4.8	0.41	0.84		5.02	銅	内外面錆多	Q54
22	18	B	SK2 上層	煙管吸口	(2.25)	－	1.0		2.39	銅		Q46
22	19	B	SE1内 下炭層	煙管雁首	8.5	1.6	1.09	3.2	11.42	銅	羅宇残	Q52
22	20	B	SK2 上層	煙管雁首	6.1	1.32	0.81	2.1	7.59	銅	羅宇残	Q47
22	21	B	SK6 下層	煙管雁首	－	1.6	－	－	1.56	銅	火皿のみ残	Q49
22	22	B	SK6南側 上層	煙管雁首	7.3	1.4	0.97	4.45	8.65	銅	火皿内に褐色残留物有	Q48
22	23	B	SK6 下層	煙管吸口	6.61	0.27	0.85		2.77	銅		Q50
22	24	B	SK6 畦炭層	煙管雁首	7.6	1.55	1.4	3.6	11.75	銅		Q51
22	25	C	上層	煙管雁首	7.0	1.47	0.9	1.9	10.63	銅	内部に繊維状物質(羅宇か)残	Q55
22	26	B	上層 土台下	煙管雁首	(4.3)	1.36	－	(2.75)	3.95	銅	火皿に炭化物残	Q53
22	27	B	第2層 黄砂	釘	(5.2)	1.0	0.9		5.16	鉄		Q59
22	28	B	第2層 黄砂	鎹	10.3	4.2	3.85		125	鉄		Q58
22	29	B	第1層	携帯墨入	3.6	3.0	4.75	3.85	52.19	銅	容器高3.3㎝、把手孔直径1.3㎝、容器内部に黒色固形物有	Q45
22	30	B	第1層	携帯墨入蓋	3.4	3.2	1.3	0.1	11.22	銅		Q44
22	31	B	第1層	火箸	15.35	0.3	0.33		6.68	銅		Q57
22	32	B	整地層 畦	不明	(15.4)	3.3	4.6	0.05	28.3	銅		Q56

第５表　銭貨観察表

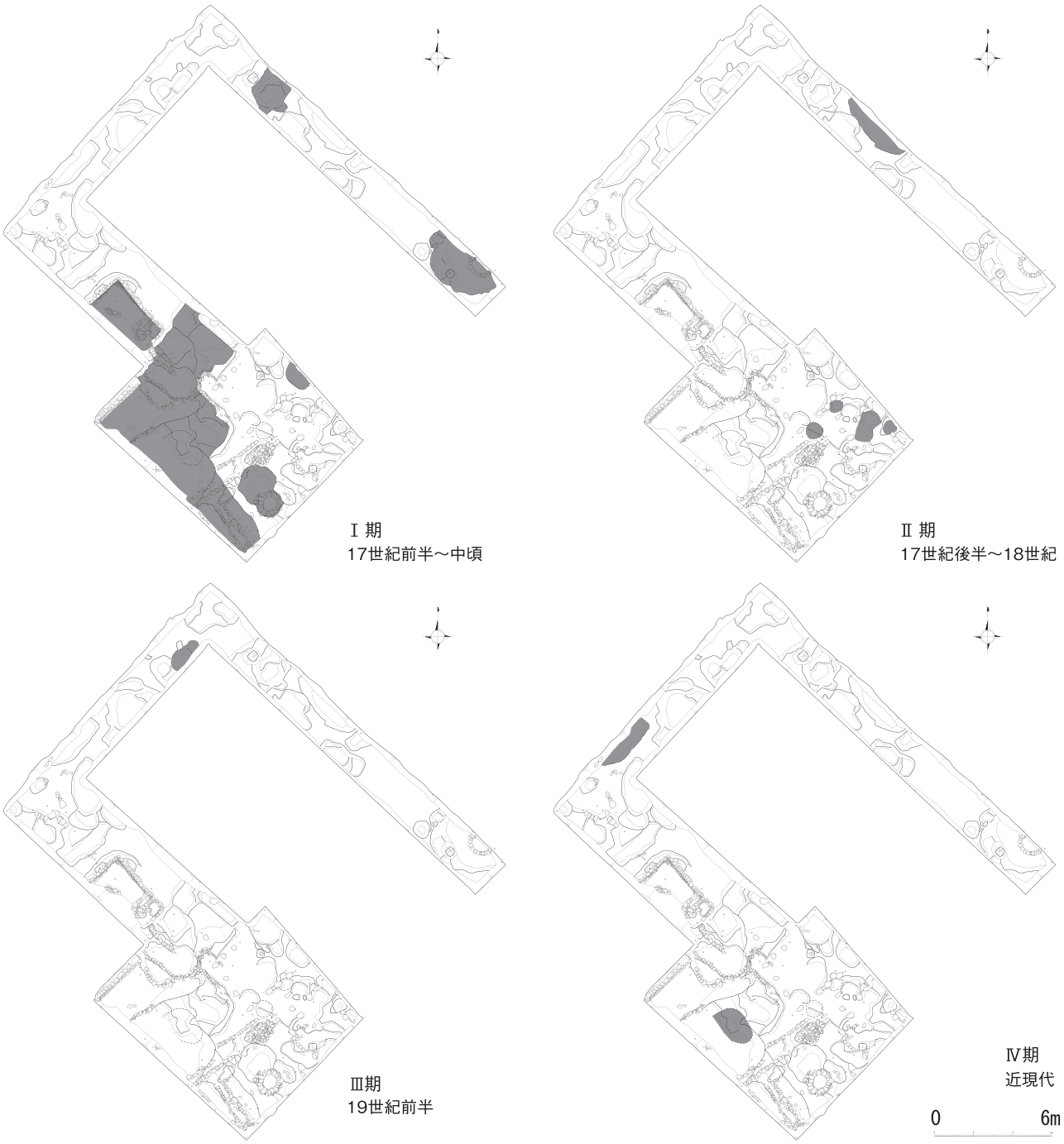
図版番号	番号	発掘区	遺構層位	法　量			材質	表文	裏文	銭種	備考	実測番号
				a b	c d	e 重量						
22	9	B	SE1内 上層	2.25 2.25	0.70 0.70	0.11 2.32	銅	寛永通宝		新寛永		Q40
22	10	B	SK1	2.82 2.83	0.67 0.68	0.14 4.18	銅	寛永通宝	波文	新寛永	波銭	Q39
22	11	B	第2層 黄砂	2.32 2.33	0.65 0.65	0.13 2.59	銅	寛永通宝				Q42
22	12	B	第1層	2.52 2.52	0.60 0.60	0.15 2.91	銅	寛永通宝	文	新寛永		Q36
22	13	B	第1層	2.40 2.38	0.68 0.65	0.12 2.71	銅	寛永通宝				Q37
22	14	B	第1層	2.39 2.36	0.60 0.61	0.20 2.66	銅				判読不明 鉄錆も付着	Q38
22	15	C	上層	2.39 2.37	0.59 0.60	0.14 3.10	銅	寛永通宝		新寛永		Q43
22	16	B	土台下 上層	2.30 2.30	0.69 0.69	0.12 2.51	銅	寛永通宝				Q41

第４章　総括

調査地は、犀川大橋と香林坊に挟まれた北国街道沿いの繁華街から一本裏道に入った街区で、絵図で居住者が判明する寛文７年以降は、直臣平士クラスの武家屋敷地であった。旧町名では古寺町にあたり、元和年間以前には多数の寺院が集中していた地域として伝えられている。延宝金沢図では阿部甚右衛門・大窪六之丞、文政期の金沢図では阿部・大久保・寺尾喜左エ門、嘉永元年の金城下図では阿部の名が見える。阿部氏は徳川家康に仕えた八右衛門を祖とし、元和２年に甚右衛門が 2000 石で前田利常に仕え、－甚右衛門吉長－甚右衛門吉忠－三十郎－権太夫以忠（1500 石）－甚右衛門昌左衛門忠恕－甚右衛門忠喬－久米助と続く。明治初年には粂助直忠の子甚十郎（1500 石）がおり、菩提寺は常松寺である。大久保六丞は大久保忠左衛門直重（600 石）の弟で 300 石を録し、－左兵衛喜之－喜三太夫依庸－平馬－直記－作次郎－六平忠順と続く。明治初年には忠順の子八忠英（200 石）がいた。寺尾氏の詳細は不明である。調査区の内、A 区南側と B 区は阿部邸、A 区北側と C 区は大窪（大久保）邸および寺尾邸跡と推定される。

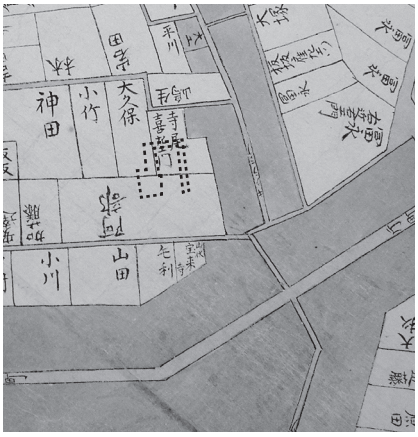
最も古い段階の遺構は、I 期（17 世紀前半～中頃）で、石室 SX2、連続する土坑群で区画溝の可能性もある SX1・SK2・SK7・SK8・SK15、土坑 SK3・SK5・SK9・SX3、井戸 SE1 と SE2 およびその掘り方の SK11、石積み溝 SD1、石積み SA9 である。SK11 では覆土に寛永大火（1631 年と 1635 年）のものと思われる焼土が多く含まれていた。Ⅱ期（17 世紀後半～ 18 世紀）に廃絶される遺構は土坑 SK6・SK13 と小形土坑 SP1 ～ 3 である。Ⅲ期（19 世紀前半）に廃絶される遺構は土坑 SK16 である。Ⅳ期（近代以降）に廃絶される遺構は土坑 SK1・SK4・SK17・SK19 ～ 21・カクラン 1 と建物基壇 SB2 である。

本遺跡では、赤絵金彩の色見片と考えられる磁器片や窯道具と考えられる耐火粘土製品、煉瓦などが出土した。幕末～明治の阿部家当主、阿部甚十郎は加賀藩馬廻組で阿部碧海を号し、明治２年に古寺町の自邸に５基の陶窯を築き、80 人余の陶工を集めて輸出用の九谷焼を製作させ殖産興業に努めた。石川県立美術館所蔵の色絵金彩海龍図遊環花瓶は、底銘に「大日本九谷／阿部碧海製／春名繁春画」と記され、当時金沢九谷の名工として知られた春名繁春の絵付による明治 11 年（1878）製造のもので、阿部邸内で生産された輸出用磁器を偲ぶことが出来る製品の一つである。『定本九谷』には功労者列伝として次のように記される。「阿部碧海　舊加賀藩士馬廻組にて祿千五百石を食む、明治維新に際しては大に勤王に盡し、同二年長崎及び神戸に支店を出し、且つ士族授産の為め民山窯の後を承け、金澤古寺町に五基の陶窯を築き、八十餘名の工人を養ひ、内海吉藏を工場長として大に生産に努め、以て金澤九谷の礎を成せり（此窯十二年廃す）、且つ能美郡の松本佐平・松原新助・九谷庄三・江沼郡の大藏清七・淺井幸八等に作業を授け、大に海外輸出に力を注ぎ、巨資を費消して業果に貢献せり、次で圓中孫平の海外貿易を輔け、或は前田侯爵家々令加藤恒を介して宮内省・各宮家・内外貴紳に納品して馨價宣揚に努め功績頗る多し、故を以て明治十八年農商務卿より一等功勞賞を授與せらる、明治四十三年歿す歳六十九。昭和十一年第一回金澤商工祭に際し其功を追頌して祭神に加ふ。（この祭神の撰薦は金澤文化協會評議員八田健一氏、同松本佐太郎の兩名專らこれに任じ、阿部碧海・圓中孫平・納富介二郎ほか五柱を奉奠せり）」また、同書「金澤繪附」の項では、「（前略）明治二年舊藩士阿部碧海は古寺町の自邸に錦窯數基を築いて内海吉造を職長として、任田德次（號旭山）小寺藤兵衛（號椿山）其他民山窯以來の陶畫工及び徒弟八十餘名を從業せしめ、盛んに良品を作って神戸及び長崎に支店を設け、内外に販路を擴げた。」とある。なお、『阿部甚十郎旧蔵史料（阿部碧海資料）』が公立大学法人金沢美術工芸大学に所蔵されている。

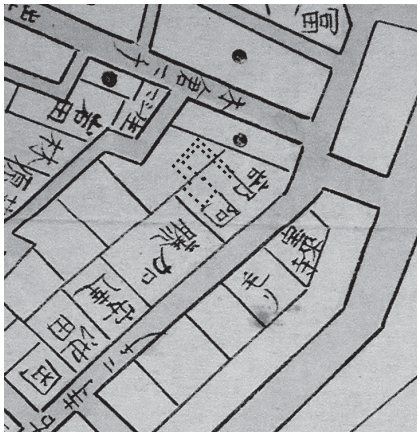


第 30 図 片町２丁目遺跡（５番地点）遺構変遷図

延宝金沢図（石川県立図書館蔵）
延宝期（1673 ～ 81 年）



金沢図（金沢市立玉川図書館蔵）
文政期（1818 ～ 30 年）槻橋弥三郎図



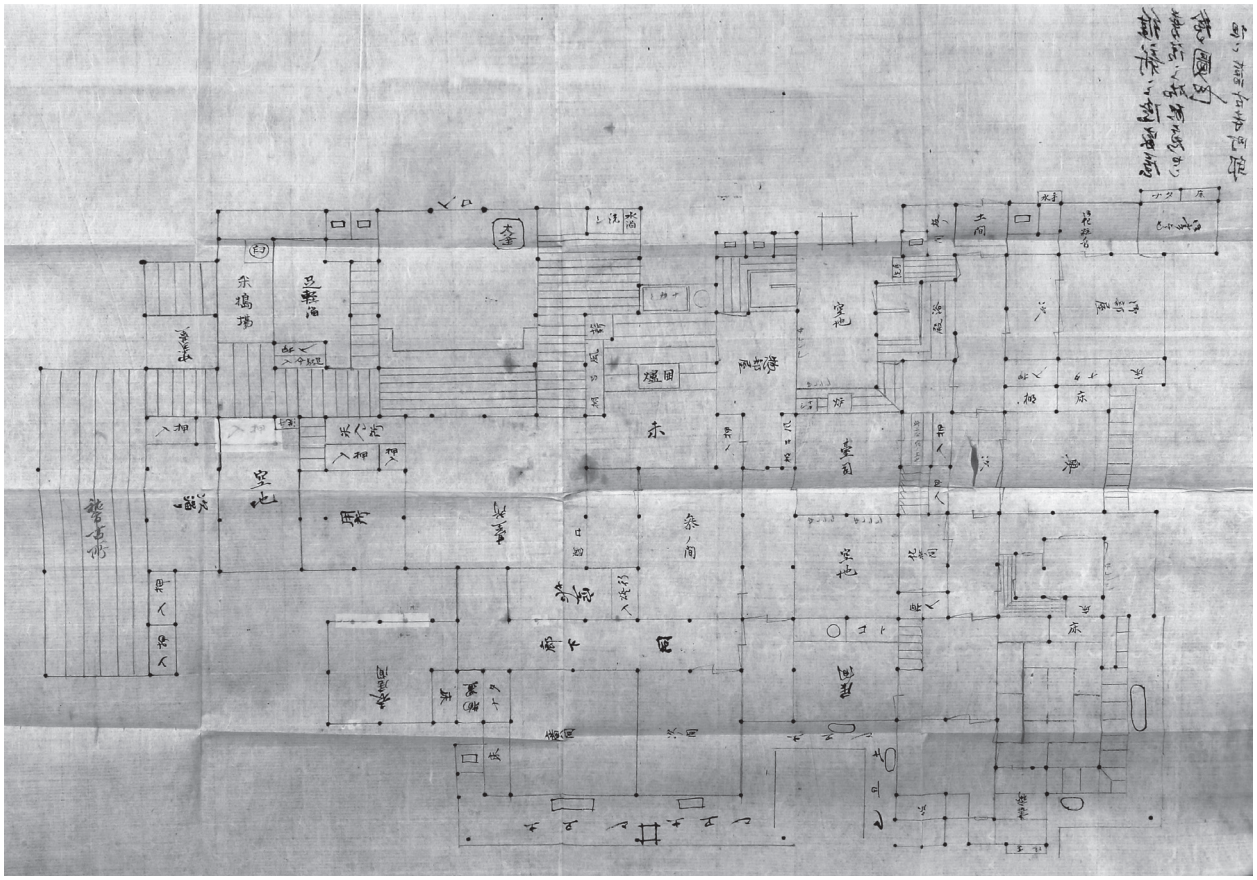
金城下絵図（金沢市立玉川図書館蔵）
嘉永元年（1848 年）竹下半次ノ製図

参考文献

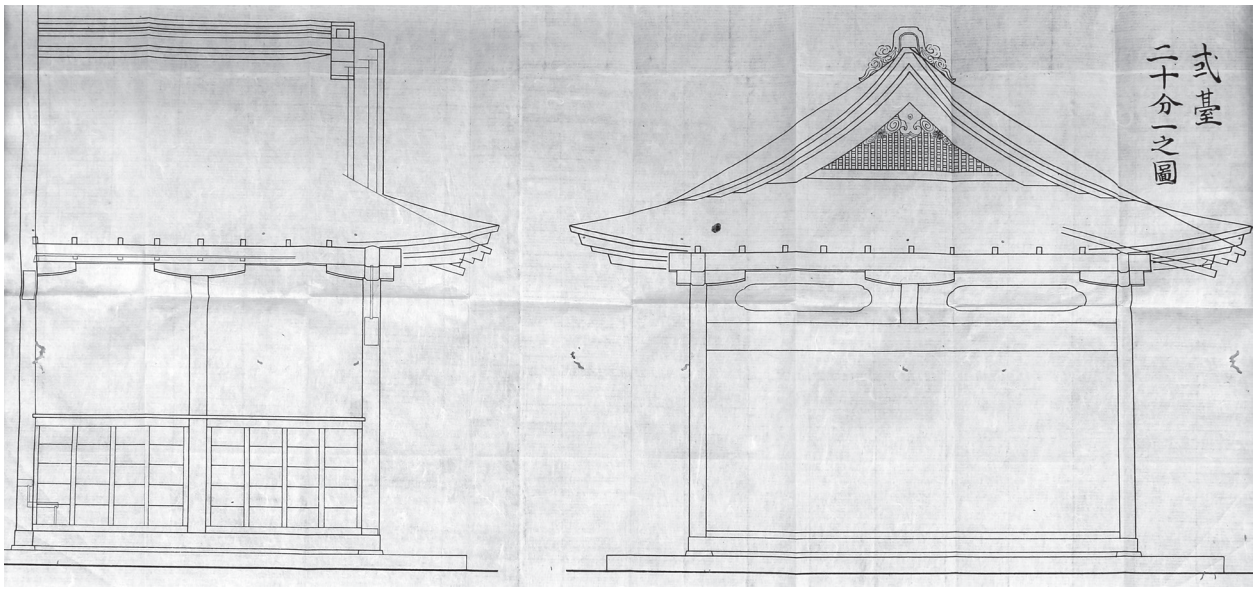
松本佐太郎 1940『定本九谷』寶雲社

石川県姓氏歴史人物大辞典編纂委員会 1998『石川県姓氏歴史人物大辞典』角川書店

金沢市立玉川図書館近世史料館 2011『金沢美術工芸大学所蔵　阿部甚十郎旧蔵史料目録（阿部碧海資料）』



阿部甚十郎旧蔵史料（阿部碧海資料）『御屋敷内絵図並御建物絵図・②旧古寺町邸』
（明治初年・公立大学法人金沢美術工芸大学所蔵）



阿部甚十郎旧蔵史料（阿部碧海資料）『御屋敷内絵図並御建物絵図・④式台二十分一之図』
（年未詳・公立大学法人金沢美術工芸大学所蔵）

第６表　片町２丁目出土瓦計量表（単位：ｇ）

調査区	遺構	燻瓦						赤片面瓦							赤両面瓦							照黒片面瓦			照黒両面瓦									
		桟	平	軒平	丸	熨斗	小計	桟	平	熨斗	雁振	面戸	特殊	小計	桟	軒桟	軒平	熨斗	雁振	面戸	小計	桟	熨斗	小計	桟	鎌桟	軒桟	軒平	丸	熨斗	雁振	面戸	鬼	小計
A	SK13		850				850							0							0			0										0
	SK15		30				30							0							0			0										0
	第1層		1,690	200	50	130	2,070							0	6,750	90					6,840	1,170		1,170	17,000	2,050	2,000				30	120		21,200
	上層		600				600	550				40		590							0			0	1,900	600								2,500
	A区小計		3,170	200	50	130	3,550	550	0	0	0	40	0	590	6,750	90	0	0	0	0	6,840	1,170	0	1,170	18,900	2,650	2,000	0	0	0	30	120	0	23,700
B	SB土台内第1面(粘砂黄層)							110						110							0			0	20									20
	SE1堀方		4,300		170		4,470							0							0			0										0
	SE1内上層		90				90							0			190				190			0										0
	SE1内下炭層		6,800				6,800							0							0			0										0
	SK1		780	50	30		860			740				740				430		140	570			0	3,330									3,330
	SK2上層		430				430							0							0			0										0
	SK2上層焼土		200				200							0							0			0										0
	SK2		230				230							0							0			0										0
	SK2南中層		640				640							0							0			0										0
	SK4						0							0							0			0				110						110
	SK5						0							0							0			0	50									50
	SK5(周囲)焼土層		20				20							0							0			0										0
	SK7		380				380							0							0			0										0
	SD1ウラゴメ		180				180							0							0			0										0
	SX1粗砂層		4,650				4,650							0							0			0										0
	SX1粗砂層瓦溜		6,000				6,000	10						10							0			0										0
	第1層		4,200	150			4,350	250						250	1,400						1,400	1,100	1,100	2,200	31,000	1,200	700			3,050		400		36,350
	第2層上黄砂		240				240							0							0			0	70									70
	第2層上黄砂～焼土		210				210							0							0			0										0
	第2層黄砂		2,850				2,850							0							0			0										0
	第2層下黄砂～砂利上面		1,750				1,750							0							0			0										0
	第2層下瓦溜		16,000				16,000							0							0			0										0
	第3層(灰砂)		1,590				1,590							0							0			0										0
	土台下上層		110				110		130	210			460	800	270						270			0	350	140								490
	B区小計		51,650	200	200	0	52,050	370	130	950	0	0	460	1,910	1,670	0	190	430	0	140	2,430	1,100	1,100	2,200	34,820	1,340	700	110	0	3,050	0	400	0	40,420
C	SK19		80				80				80	150		230	280				170		450		190	190	1,900									1,900
	SK20		80				80							0	40						40			0	170									170
	SK21						0							0	10						10			0	1,150									1,150
	SX2内						0							0						30	30			0										0
	SX3上層		220				220							0							0			0	10									10
	上層		910				910	60		100				160	460					380	840	150		150	6,500	2,550	3,550		450		1,240		1,100	15,390
	下層		260		110		370	80						80							0			0										0
	カクラン						0							0	120						120		40	40	2,490		100							2,590
	カクラン2上層	310					310							0							0			0										0
	C区小計	310	1,550	0	110	0	1,970	140	0	100	80	150	0	470	910	0	0	0	170	410	1,490	150	230	380	12,220	2,550	3,650	0	450	0	1,240	0	1,100	21,210
	種類別重量合計	310	56,370	400	360	130	57,570	1,060	130	1,050	80	190	460	2,970	9,330	90	190	430	170	550	10,760	2,420	1,330	3,750	65,940	6,540	6,350	110	450	3,050	1,270	520	1,100	85,330
																																	総重量計	160,380

A 区（北西から撮影）

B 区（北東から撮影）

B 区 (南から撮影）

C 区（南西から撮影）

C 区 (西から撮影）

SB1（北西から撮影）

SA1～SA3（左から SA1、SA2、SA3）

SA1～SA3（南から撮影）

写真図版２

SX２（北から撮影）

SX２階段（北西から撮影）

SX２北東面（南西から撮影）

SX２北西面

左奥 SA4、手前 SA12、右奥 SK7

上から SA5、SK7、SA6、SA7、右 SA13

手前 SA9、奥 SA8（北西から撮影）

SA11（南から撮影）

SA12（西から撮影）

SA14（東から撮影）

手前から SA17、SA16、SA15（南西から撮影）

SD1（南から撮影）

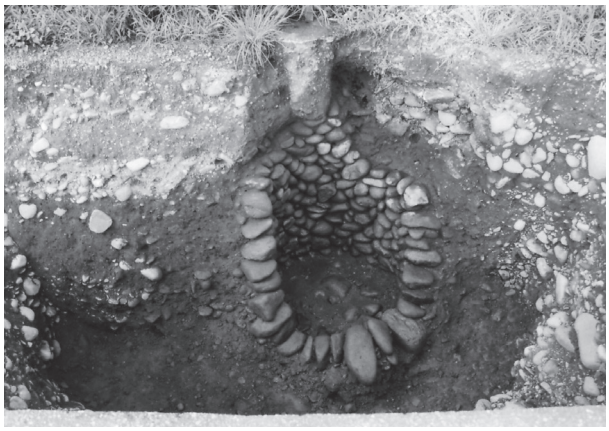
SD２（西から撮影）

SE1（東から撮影）

SE1（西から撮影）

SE2（南から撮影）

写真図版4



SE2（南西から撮影）

左手前から SK2、SK1、SK3（南から撮影）

SK5（西から撮影）

SK9（右は SE1、南東から撮影）

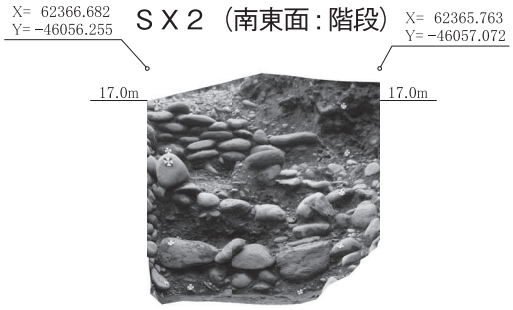
SK13（南から撮影）

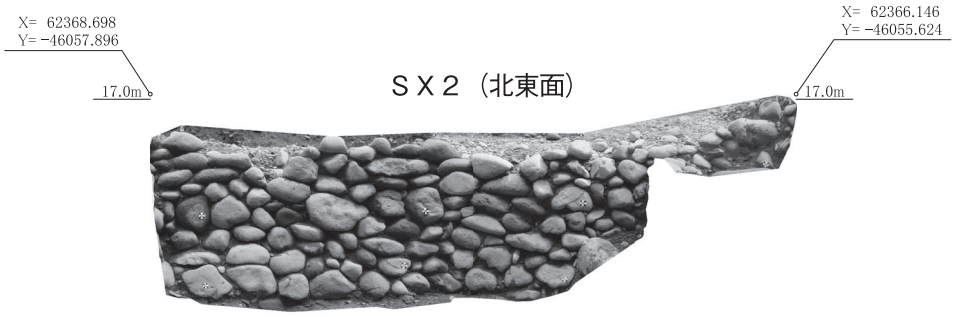
手前 SK16、奥 SK17（北から撮影）

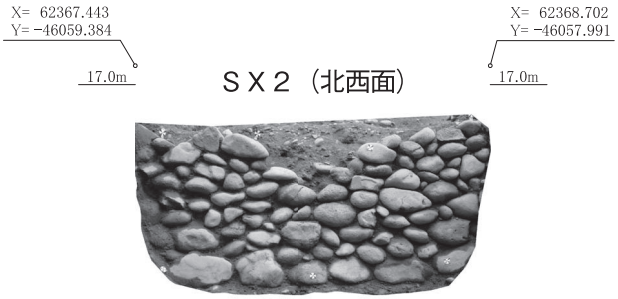
手前から SP2、SP1（北から撮影）

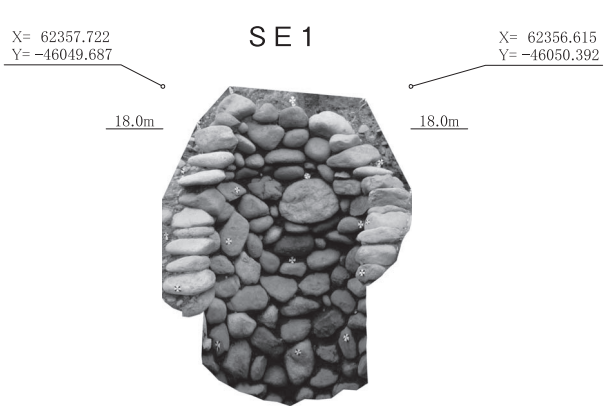
左 SP4、右 SP3（北東から撮影）

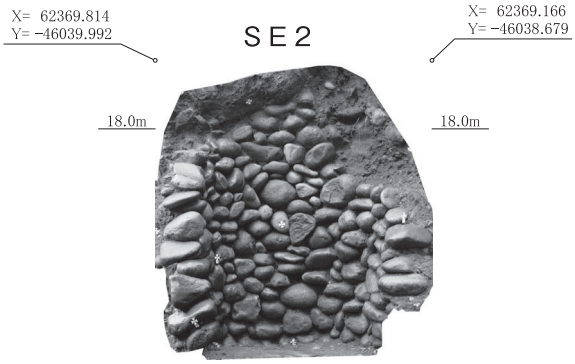
写真図版５











撮影　平成２３年　８月　Ｃａｎｏｎ　ＥＯ座５標　系　第Ⅶ系　【測地成果２０００】
測図　平成２５年　３月

0　1　2m

ＳＫ１出土遺物（第 14 図 17 ～ 28）

ＳＫ 11 出土遺物（第 19 図１～ 22の一部）

第12図1

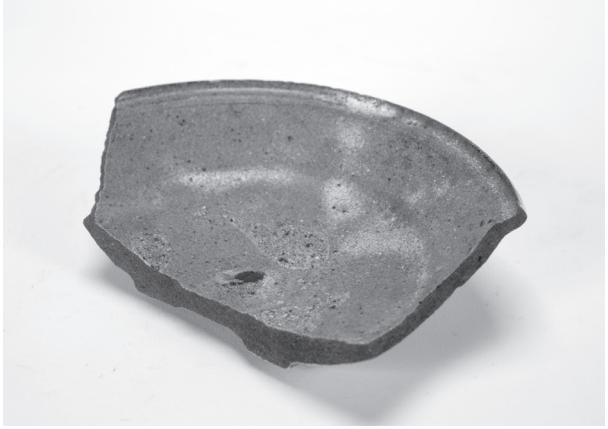
第12図7

第12図21

第12図23

第13図9

第13図10



第13図20

第14図4

第14図7～11

写真図版8

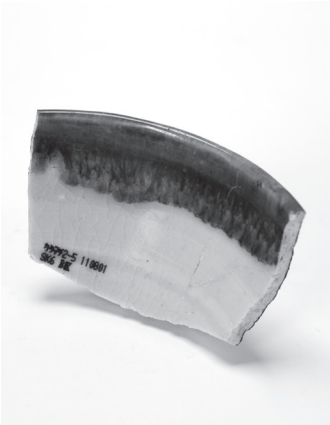
第15図6

第15図7

第16図1

第16図8

第16図11～18



第17図2

第17図4

第17図5

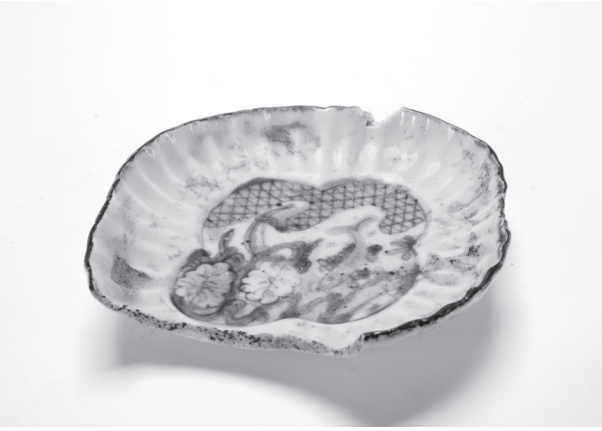
第17図6

第18図10

第18図11

第17図7～9

第18図2

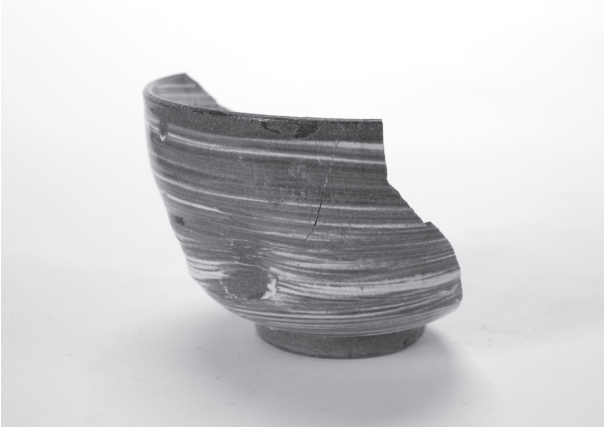


第18図3

第18図9

第18図12

第18図15



第18図16

第19図24

第20図1

第20図3

第22図1

色見片

第22図2

第23図1・2

第22図29・30

金属製品（第22図9～20、22～26）

報告書抄録

ふ り が な	いしかわけんかなざわし　かたまち２ちょうめいせき（５ばんちてん）
書　　名	石川県金沢市　片町二丁目遺跡（５番地点）
シリーズ名	金沢市文化財紀要
シリーズ番号	２９１
編集者名	庄田知充　　新出敬子
編集機関	金沢市埋蔵文化財センター
所　在　地	〒920-0374　金沢市上安原南60番地
発行年月日	西暦2014年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯 °′″	東　経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
かたまち2ちょうめ 片町二丁目 （５ばんちてん） （５番地点）	いしかわけん 石川県 かなざわし 金沢市 かたまち 片町２丁目	72014		36°33′39″	136°39′08″	2011.6.6～ 2011.8.31	657㎡	公共施設建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
片町二丁目 （５番地点）	城下町	江戸時代	地下室、井戸、建物、石積み、土坑	中国磁器、国産陶磁器、金属製品、土師器、瓦、窯業遺物	近代金沢九谷の窯業遺物

要　　約

調査地は、犀川大橋から香林坊に至る北国街道沿いの繁華街から一本裏道に入った街区で、絵図で居住者が判明する寛文６年以降は、直臣平士クラスの武家屋敷地であった。旧町名では古寺町にあたり、元和年間以前には多数の寺院が集中していた地域として伝えられている。延宝金沢図等から調査区は阿部（1500～2000石）邸、大窪（大久保・200～300石）邸、寺尾邸（石高不明）跡と推定される。

遺跡からは、１基の石段を伴う石積みの地下室、区画溝の可能性もある連続する土坑群を含む21基の土坑、２基の石積み井戸、１棟以上の礎石建物、１棟の石列基壇建物、複数の石積みや石列、２条の石積み溝、２基の大形土坑、４基の小穴を検出した。最も古い段階の遺構は、Ⅰ期（17世紀前半～中頃）で、寛永大火（1631年と1635年）に比定できる焼土や焼損遺物を遺構内覆土で確認した。以降、Ⅱ期（17世紀後半～18世紀）、Ⅲ期（19世紀前半）、Ⅳ期（近代以降）に遺構廃絶時期の変遷を追うことが出来る。

また、本遺跡では、赤絵金彩の色見片と考えられる磁器片や窯道具や窯体と考えられる耐火粘土製品、煉瓦などが出土した。幕末～明治期の本調査区に居住していた阿部家当主、阿部甚十郎は加賀藩馬廻組で阿部碧海を号し、明治２年に古寺町の自邸に５基の陶窯を築き、80人余の陶工を集めて輸出用の九谷焼を製作させ殖産興業に努めた人物である。近代金沢九谷の窯業遺物として貴重な資料といえる。

石川県金沢市

片町二丁目遺跡（5番地点）

（『金沢市文化財紀要291』）

平成26（2014）年3月31日発行

発　行　金　　沢　　市

編　集　金沢市埋蔵文化財センター
〒920-0374 石川県金沢市上安原南60番地
TEL（076）269-2451

印　刷　株式会社 キャスト西野
〒920-0922 石川県金沢市横山町25番12号
TEL（076）222-2839